

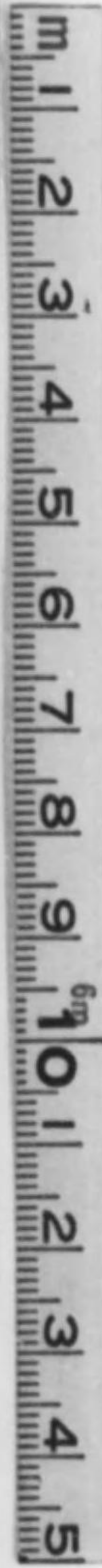
342-481



1200501400785

342

481



始





日本茶業史

續篇



農林大臣 烏田俊雄閣下書

精勵

眼和丙子

夏

祝堂俊



外務大臣 有田八郎閣下書

其
外

外
務

外務大臣
有田八郎閣下書

其德
為神

澤農

和 暉

為原案總合才與會後
此記念號

杉本



者勞功業茶彰表謝感念記年周十五



高取九郎



吉口健之助



吉口健之助



高取九郎



高取九郎



高取九郎



木元猛



長島春藏



辻村みよ子

商工大臣 小川郷太郎閣下書

者勞功業茶彰表謝感念記年周十五



吉捨山丸



亮本山



三頼本山



二益田和資



郎太廣藤安



郎重東小



郎太梅木鈴



存國諸



孝時芝

者勞功業茶彰表謝感念記年周十五



好伊取高故



三謙林高故



齊家道故



真村澤故



嗣卓山高故



貞盛田故



郎太仙聖伊故



平市藤伊故



郎太政浦三故

者勞功業茶彰表謝感念記年周十五



門南右理部各長哉



郎治勝 林哉



吉岡見初哉



衛兵伊崎尾哉



一精本岡哉



石巖岡股哉



藏仁永吉哉



郎一寅山横哉



郎十彌 柳哉

者勞功業茶彰表謝感念記年周十五



郎太猪松村 敬



治清村中 敬



郎治林田武 敬



郎三利田鐵 敬



衛兵嘉谷大 敬



門衛右重原大 敬



衛兵五浦松 敬



郎太佐吉丸 敬



藏榮作矢 敬

者勞功業茶彰表謝感念記年周十五



具 村木 敬



郎次 櫻津木 敬



郎三 彌藤 敬



藏 輔 壽 伊



郎次 辰木 諭 敬



門南 右次 渡 敬



長 安 尾 西



平 武 田 繁



作 源 崎 原

者勞功業茶彰表謝感念記年周十五



郎太英本岡



衛兵利野岡



郎次政 長



郎太彌龍加



郎三辰澄渡



郎次元崎尾



藏林中田



樹滋山影



郎八岡野狩

者勞功業茶彰表謝感念記年周十五



伊達三民郎



玉井源次郎



玉川源太郎



堤米次



國部住藏



國部源一



中村一圓郎



中川幾太郎



中川幸太郎

者勞功業茶彰表謝感念記年周十五



大石仙作



野崎傳兵衛



野呂呂之助



山田實太郎



桑原善助



大林也雄



間部彰



松本常松



山口忠五郎

者勞功業茶彰表謝感念記年周十五



郎太松野波河



郎久森小



郎次殿田藤



常兵善澤相



恭利野部河



八喜谷粟



吉文田清



郎次德野笹



次寛藤佐

者勞功業茶彰表謝感念記年周十五



治鐵地宮



藏十崎南



次郎四橋三



郎太喜岡平



治徳田志



郎一雄本宮



郎三徳藤加



郎三彦山杉



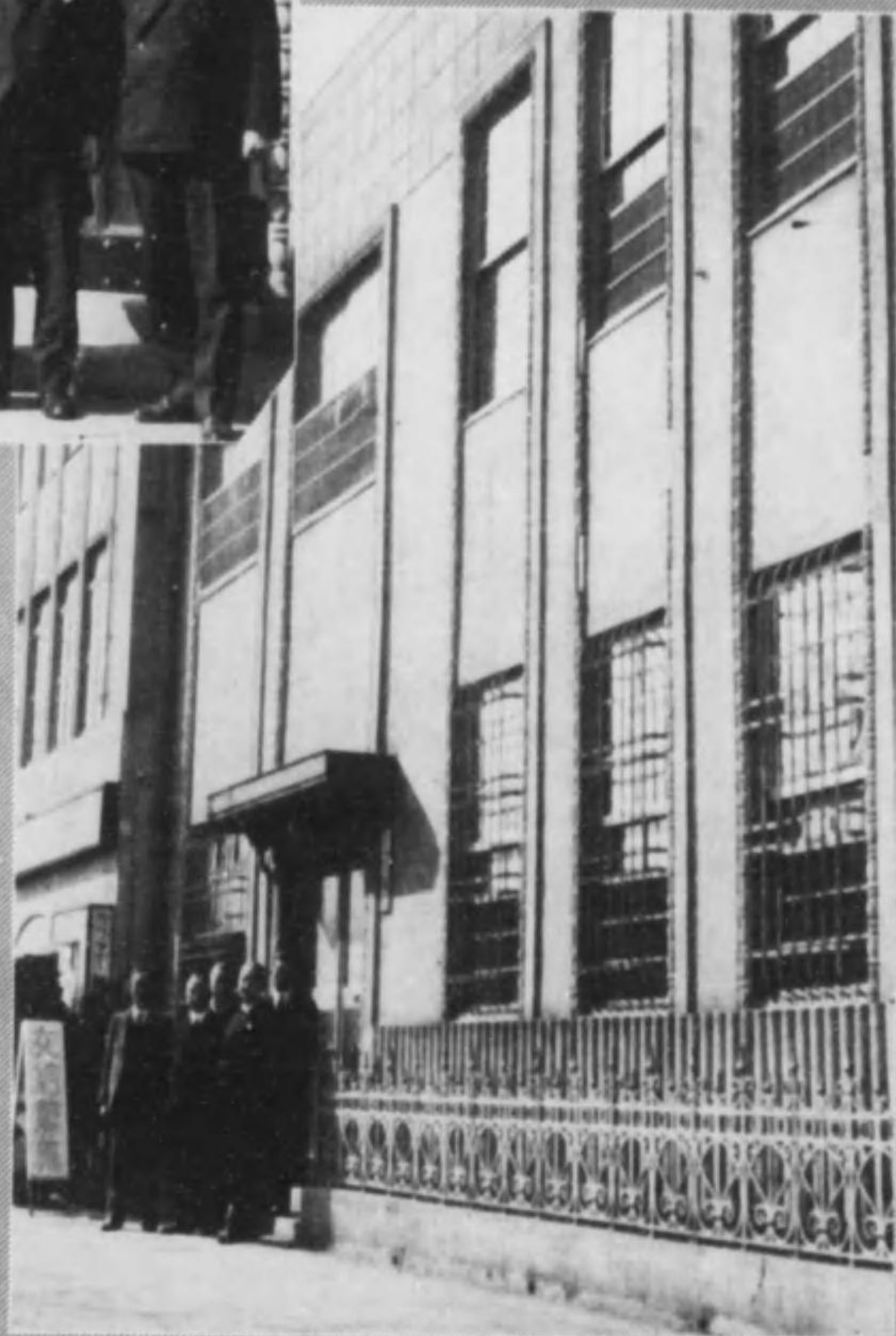
郎次彙野平

中 央 會 議 所
本 部 並 員 役



理 事 三 橋 四 郎 次
會 事 中 村 圓 一 郎
副 會 頭 栗 加 藤 德 三 郎
會 頭 栗 谷 喜 八

向 っ て
右 よ り





計時置及爵念記年周十五 (上)

托茶句俳上 同 (下)

瓶花器陶念記年周十販特 (中)

俳句茶托

日本茶業史續篇に題す

世界に於ける茶の源流が、支那に在るにせよ、日本に在るにせよ、その發達の道程には、各々の持つ國民生活の線に沿ふた特徴があつて、或は宗教的に、或は道德的に、或は藝術的に、そして終には産業的に夫々の存在價値を押し進めるやうになつて居るのが目につく。嘗て支那大陸から離れてこの島國に根を下し、新たに獨立興隆した日本茶が、如何に優れた日本特有の香味と色澤とを、其本質の中に獲得したかといふ事は、鎌倉の後ち足利の中葉に及びて、爽やかに芽生えた日本の茶道が餘りにも明瞭に之を證據立て、居る。この日本茶道こそは他國人には全然未知の世界であつて、清致優雅なる日本茶の風趣は、これが爲めに益々香味色容を更め、織田豊臣の帷幕を動かした

て荒める武人の心を柔らげ、更に徳川に流れて茶味は愈々大衆化し、抹茶は煎茶に伸び、やがて玉露茶も案出されて、こゝに本邦獨特の緑茶體系を完成したのである。

斯くして内容を整へた日本の緑茶は、安政開港の波に乗りて、歐米人の前に貿易線上を花やかに彩り、スエズ運河や太平洋航路の開けざる以前に在りては、遠く阿弗利加の南端喜望峯を迂回し、大西洋を乗り切つて、英國から米大陸へと送られたものであるが、斯る手数を重ねても尚ほ當時彼等は日本茶に憧れ、争ふて之を取入れたもので、安政より數へて僅々十年の明治元年には早くも一千萬ポンドを突破するの勢を示し、内地の生産之に伴はずして爲めに粗製の通弊を育むに及び、始めて組合の發生を促がし、全國當業者をこの傘下に鍾めて協力經營、駸々たる業態行路の中に何時しか五十年の歲月は流

れ、日本茶の素地こゝに漸く固く、明治、大正、昭和を通じて生産の改良と海外の發展と兩々相俟つて、茶業日本の面目を今日に維持し來つたことは人の知る通りである。

我が茶業五十年の祝福圏の中には、幾多先賢偉材による苦艱征服の功業が織込まれ、緑茶日本の單一經營は、最近世界經濟戰の動向に乗じて俄かに多角的となり、米大陸目標の貿易盤が、歐阿近東濠洲から南米にまで押廣めらるゝと共に、同じ緑茶の中にも玉緑茶、釜熬茶の新分域を生成し、更に紅茶の製出に向つて猛然歩武を早め、印錫爪の本場紅茶に肉迫するの概を示すに至れるは、永き日本茶業の生命に新しき力の花を育ましめたるもので、新興滿洲は云ふに及ばず、北支より蒙古にかけて平和の使節たる國際任務を完ふすべき日本茶業の多望なる前途は、眞に我等茶業者の双肩にかゝりてその誇りを

重からしめて居る。即ちこの新使命に目覺めたる當業團體は、創始五十周年の歡びを鍾めて更に跳躍前進、多年の懸案たる輸出茶國營検査の實現を以て、今や次の五十周年の第一歩を踏み出し、益々地歩を固めんとしつゝあるのである。こゝに五十周年の苦闘を顧み、本茶業史一篇を貽して、將來の飛躍に備へんとするものである。

茶業組合中央會議所會頭

昭和十一年好秋

從六位勳四等

中村圓一郎

例言 一 則

日本茶業史は、過ぐる大正三年、我が中央會議所が茶業組合創立三十周年を記念するに當り、其一部の事業として編纂發行され、日本古代よりの茶史、組合創立後に於ける茶業並に團體の推移を舒し之を今日に傳へて居るが、今その續篇として本書を刊行、茶業組合五十周年記念として後年に貽すこととした。五十周年は、組合創立の明治十七年より起算して、昭和九年が之に相當し、記念事業として、功勞者表彰、全國製茶品評會、茶業論文集等に加ふるに茶業史の編纂刊行を以てし、昭和九年七月、資料調査に着手し、十年二月、記念祝賀供用として先づ『日本茶貿易概観』一冊を刊行して、茶業關係者に贈呈し、爾來一年有半、茶業史續篇の稿を進め、鉛筆茲に漸く功を收むるに至つた。左に編纂過程數言を陳述して、編者の意を明かにす。

一、編纂の資料は、主として中央會議所保存の各種書類、静岡縣聯合會議所發行の『茶業界』大藏省『貿易年鑑』農林省『茶業要覽』其他内外の通信統計定期單行書誌及び斯界權威者の談話指示等より得、之を本系として、日本茶業の推移變遷と組合事業の體制とを傳ふることに力を致した。

一、海外輸出茶を始め、國內産茶の統計は、其最も古きものより之を蒐録し、更に貿易上の爲替相場をも加へて日本茶全體の動きを明かにし、中央會議員、役員、及び經費の豫算決算對照表などは、創立當初なる明治十七年以降のものを全部採列し、以て既刊日本茶業史の足らざる所を補ふた。

一、記念の滿五十年は、組合創立の明治十七年より數へて昭和九年が之に相當するのであるから、記述も統計も同年を以て最終の打切とするが本来なれども、編纂中時日の経過に伴ひ、記述の都合上、昭和十年又は十一年にまで延長したる部分もあり、又決算の如きは昭和八年にて打切りたるものもあり、首尾統一を缺くが如くなるも、一は出来得る限り記述の新鮮を期したると、一は委託調査の集結に遅速の差ありたるがために、此點特に一般の諒恕を冀ふ。

一、本書載録以外の事項にして、重要と認むるもの尙ほ尠からざりしも、紙面の都合上遺憾乍ら割愛したるものあり、是等は尙他の機會に於て上梓することもあるべきかと思ふ。

一、本書刊行に際し、外務大臣有田八郎閣下、商工大臣小川郷太郎閣下、農林大臣島田俊雄閣下が特に題字の揮毫を寄せられ、卷頭に異彩を添え得たるは感謝に堪えず、尙ほ農林本省茶業試験場、静岡縣廳、同縣立圖書館、葵文庫、各府縣聯合會議所並に茶業組合、其他各茶業關係者にして、資料を寄せ又は談話文書等によりて便宜を計られたる向、尠からず、是等に對し特に深甚なる謝意を表する次第である。

一、本書卷頭に收めたる茶業功勞者の寫真肖像の序列をイロハ順に依りたること、その氏名に敬稱を附せざりしこと、感謝表彰及び追感謝追表彰等の區分を一々明記せざりしこと、五十周年記念式後の逝去功勞者に故人の識示を缺けること等、總て編纂印刷の都合に餘儀なくせられたるもの、是れ亦一般の諒恕を冀ふ。

昭和十一年秋

編者 囑託 萩田長太郎 識

日本茶業史 續篇 目次

第一章 日本茶業發達の概説

第一 貿易の先陣に立つた日本茶……………一

第二 井上馨侯の日露新貿易觀……………四

第三 戦時景氣の利害の種々相……………二

第四 品質問題と松浦代議士の渡米……………四

第五 戦争景氣と外地關係……………六

第六 戦後の難關、大谷會頭の獅子吼……………三〇

第七 大バニツク後の内外情勢……………三三

第八 木草問題と米國輸入茶拒絶……………三三

第九 關東大震災の洗禮……………四〇

第十 市場取引問題と對外爲替の變動……………四四

第十一 對米五箇年繼續の大宣傳 (其一)……………四六

第十二 對米五箇年繼續の大宣傳 (其二)……………四六

第十三 大喪の哀みより昭和新政……………四六

第十四 御大典を繞る日本茶の活躍…………… 七三

第十五 綠茶の新販路と日本紅茶の開眼…………… 七九

第十六 上には聖恩、下には茶の藥効…………… 八六

第十七 時代は轉換、内外益々多事…………… 九二

第十八 滿洲目標と茶業記念日の制定…………… 九九

第十九 國民的茶業運動の勃興…………… 一〇五

第二十 多望色充滿の新時代に入る…………… 一〇四

第二章 貿易及び生産消費情況…………… 一三九

第一 貿易上より見たる日本茶…………… 一三九

第二 内地産茶の分布實態…………… 一五三

第三 世界製茶輸出と其消費…………… 一七三

第三章 最近に於ける茶業經營の變遷…………… 一七七

魂の日本茶—大正時の亂調子—機械製茶の勃興—冠せ茶と玉綠茶—製茶の多角的經營

第四章 海外販路關係の事業…………… 一八六

第一 米加宣傳の大廣告運動…………… 一八六

米加宣傳に乗出す迄—五箇年宣傳の全貌—輝ける十年間の業績—タムソン商會の活躍

第二 對露製茶取引の經路…………… 三三五

第三 北鐵讓渡に惠まれた日本茶…………… 三三六

第四 日本茶新販路の全貌…………… 三四〇

第五 國庫補助に依る新販路の擴張…………… 三五五

第六 米國記者ユーカーズ氏來る…………… 三六四

ユ氏訪日の使命—日本綠茶は世界の至寶—ユ氏の視察行程—ユ氏のステートメント—ユ氏二度目の旅—各茶商への反響

第七 輸出茶審議會の機能…………… 三八四

第八 米露關係の主要規則…………… 三九五

米國輸入茶検査規則—米國粗惡茶規則—原産國名標記規定—米國新關稅法—原産國名法—露國輸入茶新規則—アソガニスタン關稅

第九 砒素問題と化學検査…………… 三〇三

第十 ヴキタミン問題と米國…………… 三〇七

第十一 清水港の對米船賃問題…………… 三一一

第五章 試驗研究指導並委託事業…………… 三三三

第一 國立茶業試驗場…………… 三三三

靜岡縣牧野原に建設—試驗場の機構及經費—製造に關する試驗研究—化學に關する各種研究—各種委託試驗—試験及調査成績の文獻—乾濕簡易檢定法の發見—主要職員の

異動

第二章 紅茶研究場の業績…………… 四二

第三章 全国的製茶技術員の養成…………… 四八

第四章 中央會の委託研究事業…………… 五九

第五章 大谷氏寄附茶園の利用…………… 六三

第六章 農林省の最新委託試験…………… 六五

第六章 議會建議及通牒警告……………

第一 衆議院提出の茶業建議…………… 六七

販路擴張補助建議、栽培製造獎勵建議、日本茶熱河進出建議、北河商品陳列館建議、
試験場擴張建議、茶業振興の建議……………

第二 本省の通牒及告示…………… 七〇

第三 一般製茶に對する警告…………… 七二

第七章 創立五十周年記念……………

第一 時世は遷る五十年…………… 七五

第二 茶業功勞者表彰式…………… 七九

第三 物故茶業功勞者慰靈祭…………… 八二

第四 五十周年記念祝賀會…………… 八四

第五章 記念展覽會と三種の記念品…………… 四三

第六 五十周年記念論文集刊行…………… 四九

第八章 滿洲國皇帝陛下奉迎…………… 五〇

第九章 各種博覽會品評會……………

第一 巴奈馬太平洋萬國博覽會…………… 五三

桑港に跨る日本茶、喫茶店、日本茶席、出品茶、出品物の處分、役職員の勤勞、對博
覽會の精算、桑港博と日本茶の出品……………

第二 獨立記念費府萬國博覽會…………… 四六

第三 市俄古進歩一世紀萬國博覽會…………… 四二

意氣込む日本出品、喫茶室、陳列茶、茶席、賣店、各種の宣傳施設、特派及履修、經
費の精算、報告書の結論……………

第四 全國製茶品評會…………… 四九

第一回、第二回、第三回、第四回、第五回、第六回、第七回(五十周年記念)

第五 五十貫製茶品評會…………… 五一

第六 全國手揉茶競技研究會…………… 五二

第十章 各種茶業重要會議……………

第一 全國茶業會頭會議…………… 五三

第一回、第二回、第三回、第四回、第五回、第六回、第七回、第八回、第九回、第十

目次

第一回 第十一回 第十二回 第十三回

第二 全國茶業者大會……………五四八
 大正七年の靜岡大會—靜岡に續く熊本大會—試驗場廢止反對の大會

第三 各種茶業者大會……………五三三
 九州茶業大會—關西茶業大會—關西茶商同盟會—九州三縣茶業會議—全國茶業有志大會—關西茶業大會—關西茶業會頭會議—全國茶商組合協議會—二府六縣茶業會頭會議—九州茶業大會—關西技術員協議會—九州茶業協議會—咖啡輸入稅增率陳情

第四 府縣囑託検査員打合會……………七五二
 第一回打合會—第二回打合會—第三回打合會—第四回打合會—第五回打合會—第六回打合會—第七回打合會—第八回打合會—第九回打合會—第十回打合會—第十一回打合會

第五 全國茶業技術員打合會……………五八三
 第一回會議—第二回會議

第六 內臺聯合茶業大會……………五六六
 大規模なる會合—物故功勞者慰靈祭—功勞者表彰式—內臺聯合茶業大會—民間總督三好君の事共

第十一章 茶業組合中央會議……………五九三
 第一 大正三年以降の會議內容……………五九三
 第三十五回臨時會—第三十六回臨時會—第三十七回臨時會—第三十八回臨時會—第三十九回臨時會—第四十回臨時會—第四十一回臨時會—第四十二回臨時會—第四十三回臨時會

第二 規約制定及改正の變遷……………六六三

第三 中央會議の大臣訓示……………七二二

第十二章 中央會議所各種委員會……………七四〇

第一 中央會評議員會……………七四二

第二 販路擴張委員會……………七五三

第三 生産改良委員會……………七五五

第四 標準茶設定委員會……………七五八

第十三章 中央會議所經費關係……………七七二

第一 創立以來の經費年別對照表……………七七二

第二 徵收金の内容及其變遷……………七七八

第三 別途會計の販路擴張費……………七九四

第四 政府保護下の海外事業……………八〇四

コロンブス博の喫茶店―巴里世界博の喫茶店―七箇年継続の國庫大補助―組合創立以來の國庫補助

第五 經常關係の販路擴張費……………八二〇

第六 府縣會議所への事業補助……………八二四

第七 中央會議所財産目錄……………八二八

第十四章 中央會議所各年業務報告……………八三〇

自大正元年至昭和十年

第十五章 茶業關係の主要人事……………八七六

第一 中央會議所歴代の議員役員……………八七八

第二 主要官廳顯官一覽表……………八九六

第三 中央會議所職員一覽表……………九〇一

第十六章 年二回の茶業記念日……………九〇三

第十七章 各府縣の聯合會議所並組合……………九一〇

第一 東京府茶業組合聯合會議所……………九一〇

第二 京都府茶業組合聯合會議所……………九一九

第三 大阪府茶業組合聯合會議所……………九三三

第四 神奈川縣茶業組合聯合會議所……………九三九

第五 埼玉縣茶業組合聯合會議所……………九四四

第六 茨城縣茶業組合聯合會議所……………九四六

第七 奈良縣茶業組合聯合會議所……………九六七

第八 三重縣茶業組合聯合會議所……………九七七

第九 靜岡縣茶業組合聯合會議所……………九七八

第十 岐阜縣茶業組合聯合會議所……………一〇一五

第十一 和歌山縣茶業組合聯合會議所……………一〇三四

第十二 熊本縣茶業組合聯合會議所……………一〇三〇

第十三 鹿兒島縣茶業組合聯合會議所……………一〇四三

第十四 兵庫縣茶業組合……………一〇五四

第十五 長崎縣茶業組合……………一〇六三

第十六 福井縣茶業組合……………一〇六九

第十七 石川縣茶業組合……………一〇七七

第十八 滋賀縣茶業組合……………一〇八八

第十九 岡山縣茶業組合……………一〇九六

第二十 愛媛縣茶業組合……………一一一〇

第三十一 高知縣茶業組合……………二二六

第三十二 福岡縣茶業組合……………二二八

第三十三 佐賀縣茶業組合……………二二七

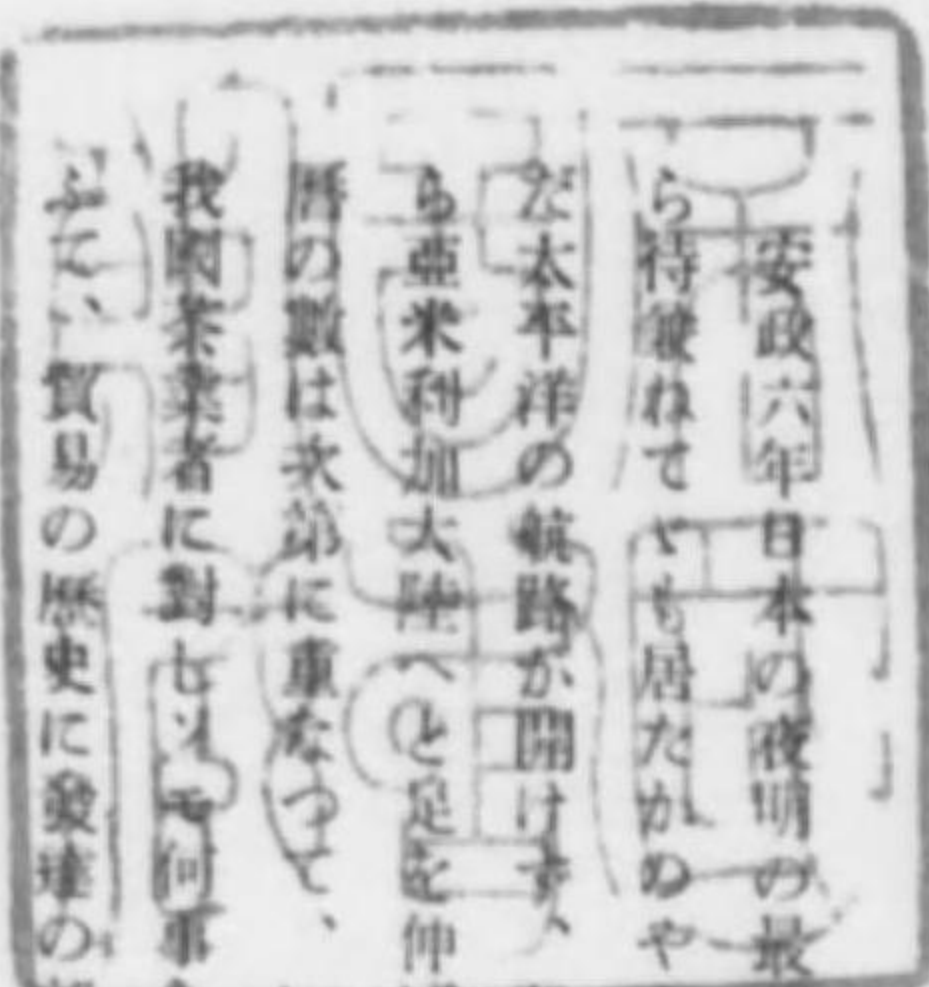
第三十四 宮崎縣茶業組合……………二二四

茶業年表……………二五三

日本茶業史 續篇

第一章 日本茶業發達の概説

第一 貿易の先陣に立つた日本茶



安政六年日本の夜明けの最前線に立つた横濱開港、そこには幾多の悲壯なる犠牲も横はつては居たが、この開港を夙から待望ねて居たがゆゑに、輸出貿易の先陣に花々しく乗出したのが、色香も味しき日本の緑茶であつた。當時未だ太平洋の航路が開けず、印度洋から阿弗利加の南端喜望峯を迂迴して大西洋に出で、一旦船を英吉利に着け、そこから西米利加大陸へと足を伸ばした日本の緑茶、それが萬里の波濤を越えて、彼の國人の嗜好に投じ始めてから、曆の數は次第に重なつて、いつしか八十年にも手が届かうとして居るのである。この八十年の日本茶貿易史が、今日の我國茶業者に對して何等の語つて居るのであらうか。國家は常に成長し、世界は永久に膨脹するものであるからといふに、貿易の歴史に發達の補面のみを書き留めらるゝものとは限らないが、それにしても開港當時のスタートラインに於ける意氣込や、それから數年、乃至十數年間の華やかなりし發達の足取りから見ても、製茶貿易の八十年を飾るには、その後の消長興廢の跡が餘りにも物足りなさを感じしめて居るのである。暫く數字についてこれを見るに、開港の安政六年は、年半ばの六月二日から貿易が始まつた關係もあり、取引設備も充分に整はず、この年の製茶賣込みは僅々四十萬斤に過ぎなかつた。値段も區々で百斤八弗から十八弗位を唱へ、その代金の決済はメキシコ洋銀を原貨とし、その一

弗銀を當時の我が一分銀三個に交換し、その一分銀四個を以て我金貨二兩小判一枚、又は金貨二分判二枚同二朱判八枚等に引換へ、これによりて計算をしたもので、その手續は非常に面倒であつた。

併し當時の日本茶といふものは、新來の歐米人には餘程珍しく且つ新しい感覺を與へたものと想像せられるが、第一に日本茶そのものが、綠茶としての風味を充分に備へ、品質の上より見て先進の支那茶に比し決して劣つて居なかつたといふことは、未だ太平洋航路の開けない以前、遠く大西洋から印度洋廻りで東洋を目指して來た歐米の商人が、その途上に横はる老大國の支那を飛び越え、日本の沿岸へ船を着けて、こゝに香味の勝れた日本茶の取引を求めたのに徴しても思ひ半ばに過ぐるものがあらう。斯様に花々しいスタートを貿易の第一線に描き出した日本茶は、果然順調なるコースに躍り出で、開港第二年の萬延元年には百二十萬斤を輸出し値段も追々整つて來た。以後

△文久元年三百六萬斤(二二弗—一〇弗) △同二年六百五十四萬斤(二七弗—一〇弗) △同三年五百六萬斤(三〇弗—一二弗) △元治元年五百三十萬斤(三八弗—一二弗) △慶應元年七百九十七萬斤(四〇弗—一二弗) △同二年七百八十六萬斤(四二弗—一二弗) △同三年九百四十五萬斤(同上)

といふ統計數字の上を歩いて明治に入つて來た。當時日本は内外多難、國運回天の十字路に立ちて尊王佐幕攘夷開國の論議喧しく人心恟々殆ど歸一する處を知らなかつたが、徳川慶喜の大政奉還を契機として、國政は急テンポの内に明治維新の大業成り、こゝに舊政策を改めて開國進取の國是を樹て、盛んに經綸を行ふことになつて民心安定、海外貿易も俄かに面目一新の勢を以て羽翼を東西に伸し、製茶の輸出も爲めに大に發展するに至つた。その數字は別に統計に掲出したが、海外交通の關係に於て、歐羅巴航路は、明治四年スエズ運河の全通によりてその距離を半減し、一方北米合衆國が、大陸横斷の鐵道工事に成功し、明治二年東西より貫通同四年列車を運轉するに至りて太平洋航路全く開け、米國行の日本茶は、從來の大西洋廻りを捨て横濱より一直線に桑港へと運ばるゝやうになり、明治元年の輸出額一千三百五

十萬ポンドが、四年には一千八百萬ポンドに躍進し、續いて五年には一千九百萬、十年には二千七百萬、十三年には四千萬といふ驚異的の數字を記録し、それから六十年後の今日、三千萬ポンドを出るか入るかといふ所で、茶業者の神經が異狀に慄まされ居る現状は、何としても逆に隔世の感を深くするもので、日本百萬の茶業者は新にこゝに思ひを致さねばならぬであらう。

この輸出華やかなりし明治の初年に於て、早くも粗製濫造の弊を兆し、爾來製茶躍進時代の通弊として屢々繰返され、一頃は柳や柏の葉を混じて幼稚なる擬製を試みたり、粗製茶に人工的着色を施して外人の眼を欺いたり、時代相應の不徳を敢てし、自ら輸出の道程を杜塞するの愚を學んだものであつた。従つて粗製品を出す毎に需用者の苦情を招き、綠茶貿易に障害を及ぼすや、俄かに狼狽して紅茶への轉向策を講じたりしたのだが、何れも思ふ處に彼ならず、彼れ是れする内、明治十五年、米國に於ける日本茶輸入禁止の問題が革正の動機となり、こゝに全國の茶業者一齊に奮起して協力自覺の運動に烽火をあげ、いよ／＼十七年の茶業組合結成となつた。爾來幾多の茶業先覺者は、血の出るやうな苦楚を嘗めつゝ全國數十百萬の當業者を指導誘掖し、製品の改良、販路の擴張、その他凡有る方面に亘りて茶業發展の講策に渾身の努力を傾倒し、國の内外を問はず能く奮闘活躍を續けたことは、過去五十年の歴史がこれを物語つて居る。この組合結成によりて新生命を植え付けられたる以來の日本茶輸出貿易は、相當面目を更めたるかの感はあるも、目に立つた活躍は、それから直後の明治二十年代であつて、これを數量の上より見れば、二十四年の五千三萬ポンド、二十八年の五千百萬ポンドなどはその最たるものとすべく、是等對外發展に先驅をなしたるものは、二十五年、米國シカゴに於けるコロンブス世界大博覽會への参加で、これに對しては、日本獨特の喫茶店を中心に、配布茶などを加へて世界人の耳目を聳てしめ、その宣傳効果は正に百パーセントであつた。爾來この喫茶店運動は、各方面に試みられ、越えて三十三年の巴里博、三十七年のセントルイ博などにも、相當巨額の資を投じて之を試み、何れも効果的の宣

傳に、日本茶の存在價値を明確にしたのであつた。

元來日本茶の需用地といふものは、横濱開港以來米國をその主たる顧客とし、歐洲に於ける喫茶國の英吉利、露西亞は共に紅茶を専用し、倫敦マーケットは、いつしか世界紅茶取引の中心地と化し、北米に對してもこの市場を延長して盛んに紅茶の進出を策し、南米産のコーヒーと共に、米國に於ける日本紅茶の勢力地盤を抉奪するの狀勢を作るやうになつた。是等の狀勢に對して、日本茶は米國を戰場としてよく戦つて來た。かの明治三十一年に突發した米西戦争が、米國の財政的要求として、輸入製茶の十仙課税を斷行せしめたるが如きは、日本茶に取りて晴天の霹靂ともいふべき大きな脅威であつたが、これが廢止の運動に關しては、我茶業界の巨人大谷嘉兵衛翁が、自から渡米して、年餘に亘り、日本百萬の茶業者を代表し、熱血を振つて米國の朝野に呼びかけ、遂に大統領までも動かして、前後五箇年に亘る課税も、日露戦争直前に於て、芽出度く廢止の運命を掴むに至つた。

其間明治三十年より年額七萬圓の政府補助を以て七箇年繼續の對米大宣傳を行ひ、絶えず日本茶觀念を植へ付けて來たが、その後印度茶の米國進出に動かされ、大正三年、桑港に於けるパナマ太平洋博覽會を機會に、新趣向に依る喫茶店政策を出發點として、日本紅茶の名聲獲得に乗り出し、我が中央會議所の別途會計販路擴張事業は實にこの年から開始され連續的に大正十四年まで、米加兩國に向つて凡有る方面を利用し、大衆的に之を呼びかけ、同年かの聯合特販事業の創設を見るに及んでこれに第一線の運動を譲つたのだが、この大正年代に於ける海外販路の擴張は、西農氏等の實際家により、巡迴的喫茶店又は配布茶新聞雜誌の廣告等萬遍なく手を擡げたものであつた。

第二 井上馨侯の日露新貿易觀

上述別途會計による、對米宣傳の開始された大正三年は、歐洲大戰勃發の第一年で、昨日まで、日本の茶業界を脅威した印度錫蘭の米國進出問題も、歐洲の戰禍ます／＼深刻を加へ、印錫支那茶共に伸力充分ならず、日本茶は却つてその補足用として豫想以上に需用され、米國は勿論、加奈陀の如きその需用前年の五割増を算するといふ勢ひでこれに拍車をかけ、別途會計の擴張宣傳は非常に順調で而かも効果的であつた。斯くして日本茶は、歐洲戦争の世界に及ぼした經濟的變調に乗じ、價格の異常なる高騰にも頓着なく、輸出量は躍進又躍進、政府統計のポンド換算によれば三年三千九百萬ポンド、四年四千五百萬ポンド、五年五千五百萬ポンド、六年六千六百萬ポンドといふ驚異的の數字を示し、戦争が長引けば長引くほど日本は益々有利の地位を占むるであらうとの愉快なる豫想が繰返され、この種の經濟感はずる戦争謳歌に傾きはしないかの恐れさへも抱かしむるもの、如くであつた。併し、我が茶業者は、當時既に亞米利加のみを對象とする製茶貿易に満足せず、遠く將來の雄飛を期待しつゝ、戦争を機會に、露西亞との接近を圖り、日露戦争以來の舊交親善を新にせんと、三年十月中央會議所は靜岡縣聯合會議所と圖り、露國の出征軍隊慰問として、日本茶一オンス袋入拾萬袋を寄贈し、別に四貫目を美術的の茶壺に納めて露國皇帝に献上、嘉納を賜はつたが、日本茶貿易史上、眞に露國を見出したのはこの時であつて、日本の元老井上馨侯は翌四年四月七日、靜岡縣興津町の別邸に、露國大使代理ワスケウキツチ書記官を始め、露國貿易に直接の關係を有する三井物産の有賀長文、小田柿拾次郎兩重役、同露國派員安川勇之助氏を始め、湯淺靜岡縣知事、大谷茶業中央會頭、尾崎靜岡縣聯合會頭、其他茶業關係者を招致し、對露製茶貿易の計畫につき懇話の會を催した。井上侯は、當年八十一歳の高齡であつたが、日本の大政治家として内外に重きをなし、その一筆一笑は常に我が財界に強靱なる刺戟を與へ居る丈けありて、この會合は非常の關心を以て各方面から注目されて居た。老來尙ほ饒謙たりし井上侯は、一同を引見し、日露親善と貿易振興に關し、蘊著を披瀝して、左の如き長講一席を試みた。

井上侯口演要領

本日この會合を領すに至つた次第を簡単に申述べて、諸君の御參考に供したいと思ふ。

御承知の如く、歐洲の天地は今や戰亂の渦中におかれ、英佛露の各強大國は力を協せて獨逸に當つて居る。日本はその各國同盟には加はつて居らぬが、日英同盟の關係から支那問題に力を注ぎ、東洋平和の保持に對して自ら進んで責任の衝に立つて居るのである。日支兩國は領土も接近し、一方滿洲蒙古は露國に相隣接して居る。併し今日の狀態より見るときは、日露兩國は、支那と共に、單に領土が近接して居るといふことだけでは可けん。更に進んで兩國の親善を深め、一段と密接なる關係を結んでおかんければならぬ。この事は、日露戰爭後、自分が常に、當局や其他の方面へ話して居つた事で、今や歐洲戰爭を前にして、兩國の親善關係を深めるのに極好の機會が到來したことを切實に認めるのである。

從來露國に於ける輸出入統計其他によつて、その貿易の趨勢を見るに、その關係は獨逸が最も優勢の地位を占めて居る。獨逸は農工商各方面に互り産業の開發に頗る鋭敏なる神經を有し、自國の製品を輸出する外、日本品なども其優秀なるものは盛に之を模造して輸出するといふ遣り方であつたが、今度の戰爭で、露國の國交は絶え、貿易は杜絶し、露國としては西の出口を塞がれ、物資の輸入に困るといふ状態になつた。そこで露國に取つては唯一つの出口である東方に向つて物資の供給を仰ぐの外はない。是れ即ち我國がこの機を逸せず、對露貿易の進展を策し、相互の利益と親善とを圖り、兩國の聯絡を密接にするといふ事は、極めて必要且つ意義深い事である。今日此時こそ我が日本人の發奮努力すべき時であつて、若しこの好機を逸するやうな事があると、他日之を再びするも處期の効果を收むることは困難となるであらう。さうかうして居る内にも對露貿易は他國に奪はるゝ恐れがあり一旦國際場裡に後れを取らんか、如何に努力するも後の祭りになつては施す術もなからう。

サテこの貿易の事であるが、國際貿易上第一に重んずべきは信實であつて、この信實を根幹とし誠心誠意これに當ることが絶対に必要であり、同時に又相手方の國情をも仔細に見聞調査してよくその眞相に觸るゝことを要する。今露國に對して製茶を輸出するにしても、その需用の状況や、消費者の嗜好等を第一に調査しなければならぬ。この實際調査に當るものは、何としても露語に

精通し居ることがその必要條件である。調査をするなり、取引をするなり、その局に當るものが通譯によつて事を辨ずるやうでは、到底其眞相に觸れることは不可能である。で私は先づ其の事情を調査し、これを國內各方面の關係者に周知せしむる爲め、昨年十一月三井物産會社をして、モスクワ、ペテログラード等へ露語に堪能なる社員を派し、貿易その他の調査に當らしむるやう勸告したのである。

三井が露國に派遣したのは、安川勇之助君で、この人は久しく滿洲に在留し、度々露國にも行つて、あちらの事情にもよく通じて居る。戰亂最中果してどうであらうかと、その收穫については大に心配して居たが、安川君が露西亞に行つて見ると、同國は戰爭のため物資の缺乏甚しく、政府も國民も、双手を舉げて日露貿易の進展を歡迎——といふよりも寧ろ熱望する有様で、意外の好感を確めて歸朝し自分にその内容を逐一報告された。そこで自分は、三井に對しモスクワ、ペテログラードへ支店を設置するやう勸告した。又この好機に乗じ、靜岡縣の製茶も、對米輸出のみ甘んぜず、露國へも盛んに輸出するが宜しい。併し露國民の消費するは紅茶であるから、輸出の問題は差詰め紅茶の製品から解決してかゝらねばならぬ。靜岡茶……といはず日本茶は元來が綠茶で紅茶には味が薄い。しかし紅茶が全然出来ぬといふ譯でもないやうだから、よく研究して、露國人の嗜好に適するやうなものを製造して輸出するやうに一奮發されたらどうかと思ふ。

そのためには、先づ茶業關係者が露國の事情をよく胎に落ちるやう聴き取つておくのが第一の必要條件と思ふので、今度三井に話して重役の有賀長文君と實地にあちらを調査した安川君を招き、又露國大使とは自分も極めて懇意な關係にあるもので同大使にもこの事を話した處、デハ日本語に通じた書記官のワスケウキツチ君に行つて貰はうといふ事で、それが結局今日の會合となつた譯である。

經濟は國家の最大必要事である、それは國家に限らず一家に於ても同じ事であるが、この經濟の發達を圖るには、お互の聯絡といふことが最も大切である。國家として如何に陸軍の兵數が多く、海に艦艇充實し、各其責任を盡して國防の事に當るとしても、其聯絡を充分に保ち、經濟を基礎として立つにあらざれば、眞の富國強兵とは云ひ難い。此聯絡といふ事は何れの方面にも必要な事で、これを人間の體に例へて言ふも、眼の方では、モウ一間前へ進めば目的のものがよく見えと思つても、眼だけ體を離れて

飛び出す譯にはゆかぬ、どうしても體の内は足と聯絡がついて體全體を前へ進めなければ目的は達せられぬ。又足にしても、それが歩く時に眼との聯絡が欠けて、眼の方が、勝手な處ばかり見て居たら、足は石に踏つか済に落ちるかするであらう。日本では兎角かうした聯絡が何事にも欠けて居て、政府は政府、實業家は實業家と互に聯絡が取れず、又政府と實業家、實業家同志といふものも競争はするが眞の聯絡がない。是では、何事をやつても到底好結果は思ひもよらぬ。政府も實業家も共にシツクリと聯絡を取らぬと成功しない。こんな風では日本はいつ迄たつても貧國強兵の片輪者だと私がよく口癖のやうに言ふので、井上は悲觀説ばかり唱へるやうに言はれるが、これは私として國家經濟の基礎を確立したいといふ一念に外ならぬのだ。この國家經濟の基礎が確立せぬと戦争は出来ぬ、又戦争しても必ず敗ける。第一外國との戦争には正金をもつてかゝらねばならぬ。日本銀行の紙幣をもつて行つても通用しない。今日本には外債が十六億圓餘ある。七八年の内には六億圓ばかりを英國に返済せねばならぬが、返済が出来なければ借替へをする。借替となると發行價格を下げるから利子の歩合が高くなる。こんな經濟をやつて居ては國家といふものが立行かぬ。又兵備に於ても陸海軍は互に自己の立場のみを見て擴張を競争する傾向があつて、その間に何の聯絡もない、是では國防の堅固を期することは思ひも寄らぬのである。これを小さくして一家に例へて見れば、夫は夫、妻は妻、各々勝手氣儘な事をのみして居たらば、其家は必ず衰微するのである。この意味は、國家も一家も個人も皆變りはない。イザ戦争といふ場合、日本人の勇氣、君國に對する犠牲的精神の旺盛なることは如何にも賞讃に値するが、正金を握つて居らず、借金ばかりで戦争すれば、その結果貧乏に墮することは當然の運命である。日本は今日經濟の發達が、外國に比して著しく後れて居るのだから、こゝは一つ大に魂を入替へて奮發してかゝらねばならぬ。こゝにいふ點から推論しても、日本に於ける戦後の經營としては、差し當り露國などの大國と誠心誠意を以て貿易を増進するにあると思ふ。

この貿易については、第一に信用を重んじ、よく聯絡を保つて相互永遠の利益を逃さぬやうにせねばならぬ。日本は昔から士農工商といふ階級で商人は最下位になつて居た。又商人は皆嘘を言ふものになつて居た。處がこゝへ行くと英國などは、流石に違つて居る。その教育に於ても、子供の時から經濟觀念といふものをよく注ぎ込む。即ち「時は是れ金なり」「正直は最良の資本なり」といふやうに教へる。一體日本の教育には、どうも分らぬ事が多い、今日多くの學生は中學から進んで大學に行き、成績の良い者は二十六歳位で卒業するが、平均して二十八歳位まではかゝる、サテかうして卒業しても理屈をこねるだけで、實際の役には丸で立たないから、矢張り續いて親の職を喰るといふ實情で、是ではワザ／＼國を貧乏にする教育を喰んで居るやうなものである。田舎の豪農の農家で、親爺が田の草を取つて居るのに、息子が中學以上の學校へ行つて洋服で威張つて居るなどは、甚だ怪しからぬ事で、それよりは其の家に應じた稼業の間に合ふやうにして、二十二三歳で獨立自營の出来るやうに仕立てなければ駄目である。

どうか、そんなやうな意味合を以て、對露製茶貿易の問題について充分の懇談を遂げて貰いたい。

井上侯の委曲を盡せる慈父の如き挨拶に對して、露國側のワ書記官は、大使マレウキツチ氏の熱意を蒙りたる傳言を披露したる後、大要左の如き意見を述べた。

露國ワ書記官の言葉

本日大使は公務のため會合し得ざるも、日露兩國間の經濟的連鎖の重要性については深くこれを認識し、本日の會合を最も有功ならしめんことを熱望して居る。殊に日本に於ける有力なる財政家井上侯爵の御忠力は必ずや兩國國民の接近を助長し、益々國際親善を厚ふするに至るべきを信ずるものである。

元來物資の輸出については先づその國の嗜好を鑑みる所がなくてはならぬ。製茶は殊に然りである。露國が紅茶及磚茶を需用すること頗る多額であるが、その紅茶は從來主として支那及錫蘭から輸入して居るから、日本が紅茶の輸出に着手する場合は先づ漢口方面の栽培製造販賣状況を視察調査し、露人の嗜好に適する紅茶を製造することが肝要である。露國は戦争が始まると間もなく禁酒を斷行したので、飲料としての茶は益々需用を増加し、政府は近く茶を專賣とするの方針であるから今後一段有望となるであらう。而して日本人が日本茶を輸出する場合、日本の商店に於て之を取扱ふが良いと思ふ、若し然かせざるに於ては他の茶と混合され商標を奪はるゝ恐れがある。私は、烏龍茶よりも靜岡紅茶に多くの嗜好をもつて居る。いよ／＼賣込となれば、大使と共に

大に盡力するつもりである。

そこで小田柿、安川兩氏も、露國の近情を詳説し、且つ、

露國は戦争以來日本に親善し來れること誠に豫想以上である。現に露國製の香水を日本製として賣出した處、非常に人氣を博し、羽が生えて飛ぶやうに賣れたといふ例もある。この親善の好機を逸せず、日本茶も特有のレットテルを以て日本商人の手で賣出すことは、最も意義のある行き方と思ふ。

とて、日本茶進出の有望なることを述べた。

井上世外侯の斡旋による日露親善會談と、恰かも時を同じうして、中央會議所は、特に紅茶の製造研究及び販路擴張の事業を起し、靜岡市に其の研究所を開設し、日本紅茶の權威者伊達民三郎氏を聘し、中村圓一郎氏を研究所長となし、各方面より熱心なる傳習生を集め、同四年一番茶の末期より製造に着手し、相當の成績を挙げた。右は前年桑港博の經驗に鑑みての事ではあるが、一面紅茶の研究が、露國を目標とする井上侯の意見に合致したることも誠に不思議の因縁といふべく、爾來年々この研究を続けかの別途會計による海外販路の擴張事業を駢進した事は普く人の知る處であるが、間もなく露國に革命騒動勃發し、國を擧げて共産政治に墮すると共に、國際關係も從つて杜絶するに至れるのみならず、井上老侯亦、右の會談後間もなく同年九月一日興津に於て薨去せられ、紅茶の海外進出を充分に見届くるに至らなかつたのは、洵に惜むべき限りと云はねばならぬ。

當時の中央會議所會頭大谷嘉兵衛氏は、大正四年の勢頭に於て、全國の茶業者に對し、大聲以て『積極政策を採れ』と呼びかけ、且つ曰く。

世界大戰が、一般貿易に大なる影響打撃を與へたるに反し、單り製茶貿易のみはこの種の打撃を受けないばかりか、却つて好景況を呈するに至つたことは日本茶業者として如何にも喜ばしいことである。併し日本綠茶の需用は開國以來北米の一地あるのみで將

來の茶業政策としては是非とも紅茶を以て世界に立たなければならぬ。是迄のやうに一地一様といふ狭い消極的の商策では到底充分に日本茶の驕足を伸すことは出來ない。大正の新天地に立てる茶業者は、宜しく世界的精神を振起し、積極的に奮勵努力すべきである。

この年頭感が、紅茶の研究となり、日露親善の對策となつたことも亦深く思ひ合さるのであるが、大正四年は、秋十一月十日、京都に於て 大正天皇の御即位御大禮あり、世界戰禍の中に在りても、日本は獨逸に對して輝かしき戰勝を博し、東洋平和確保の鍵を握つて、益々高く益々明るく、國を擧げて鼓腹擊壤を禁じ得なかつた。全國茶業者も亦この歡びを分つため、奉祝献上品として、帝室技藝委員宮川香山氏作の『眞葛燒大花瓶』を、中央會頭大谷嘉兵衛氏より奉獻したるに、御嘉納の榮を賜はり茶業者は何れも感激の涙に咽んだ。

第三 戰時景氣の利害の種々相

歐洲戰亂勃發以來既に一年有半を経過せる大正五年の初頭に在りては、一般經濟界に著しく活躍の色を呈し、茶業躍進の期待も亦頗る濃厚味を加へ來つたが、其一面には早くも品質の低下を來し、貿易上には輕からざるハンディキャツプを負はねばならぬ状態となり、茶業團體の主腦當局者は一にこの方面に多大の憂慮を抱き、凡ゆる機會を利用して全國當業者の覺醒を促し、日本茶の眞價を發揮するに努力したのであるが、内地物價の高騰による生産費の増加は勢ひ機械製茶に走り、生葉賣の經營から、轉じて茶園の荒廢を來すの恐れあり、こゝに、品種の問題、機械の問題、一般的經營の問題等期せずして、茶業論壇を賑はし、各種の方面から、茶業改善の悲壯なる叫び聲を聞くやうになつた。即ち

一、日本茶は最近品質を主とせずして價格にのみ重點をおき、機械殊に精揉機の増設著しく、輸出茶本位の靜岡縣の

如き、従来の小製造家漸く影を潜め、生葉賣りと機械製造との分業的傾向が著しくなつて來た。
一、以上の傾向から、自然品質を低下し茶園はために酷使され、品種雜駁、園相荒廢を免れず。これを救はんが爲めには、選種苗圃により優良種の繁殖を計るの外なし。

とて、中央會頭大谷翁を始め、静岡縣の茶業主腦部は何れも大重疊となり、宣傳、指導、奨励に乗り出し、所謂戰時經營に凡ゆる努力を傾倒したのである。併し滔々たる戰争景氣は小緩みもなく一般經濟界を襲ひ、外國通ひの船腹缺乏なども相當に茶業者の足許を脅かし、その前途を危ぶまされたが同年は未だそれ程でなく、米國行一噸六弗五十仙で運ばれ、米價安により必ずしも潤澤でなかつた農家の懐も、製茶の好賣行により僅かにお茶を潤すといふ有様であつた。それでも下物の跋扈により價格は望み通りにゆかず、爲めに紅茶又は磚茶等を以てその缺陷を補はんとし、特使を派して朝鮮、滿洲、蒙古方面への販路擴張を策し、一面刈落葉を以て綠磚茶を製出し蒙古へ輸出の計畫を樹て、静岡に資本金二萬圓の匿名組合が設立されたり、紅茶の活躍を期して静岡縣聯合會は特に紅茶奨励金を支出するなど、戰時に於ける商機の獲得に全能力を發揮するといふ意氣込みであつた。殊に露西亞に對しては、前年の興津會議もあり、常にその手を緩めず、六年初頭、内田駐露大使が歸任するに當り、中央會議所は露國皇帝に献上すべき紅茶五ポンド入二十箱を托し同方面の販路擴張に力を加へたが、内田大使が露都に到着するかせざるに、同年三月革命騒動物發のため、有耶無耶となつて終つたのは遺憾の極みであつた。

露國は革命にその國力を弱めたが、戰争の火の手は益々旺んで、何時終熄すべしとも思はれず、やがて米國も參戰し、巴爾幹一帯も戰禍に包まれ、日本獨り東洋にありて巖然平和の確保に當つて居る。印錫支那の茶が輸出を杜絶されたのに乘じ、日本茶の驥足を伸すべきは此時だといふのだが、依然として、品質の精良を缺き、且つ米國に於ける販賣方法に不備の點あり、ソコで、六年度の方針として一般に唱導せられた商策は、

第一、日本茶の眞味を彼等に傳へ、日本風に茶を淹れて味はしめ、特殊の風味によりて日本茶を理解せしむるやうに努力する。

第二、米國內の小賣商店をして日本茶を最も多く賣らしむるため、『純良なる日本茶は何店で賣つて居る』といふ印象的の廣告を廣く行ふやうにする。

といふのであつた。勿論是等の商策も講ぜられたのであるが、五年から六年、七年と日本茶の對米進出を手引きしたものは、戰争による他國茶の一時的杜塞であつて、日本茶の自力による進出ではあり得なかつた。従つてこの戰時景氣がどこまで繋がるかといふことは、日本の當業者に取つて大きな不安であつたが、それでも眼前の好景氣には不知不識酔ひ易く、戰争終了後の畫策などは餘り眞面目には講ぜられなかつた。

この大正六年は、輸出の最高潮に達した年丈けに、茶業界に取りては、内外頗る多事であつた。露國革命の勃發と前後して、米國には戰時稅として、製茶一ポンド十五仙課稅の計畫ありと傳へらるゝ一方、内に在りては、船腹問題愈々喧ましく。一番茶開始前の三月下旬、日本郵船、大阪商船、東洋汽船の三命令會社は、戰時船練の困難を理由として、六年度の對米輸出茶に供給すべき命令船の船腹は、一萬五千九百噸以上は不可能であるとの通知を發して輸出茶業關係者を驚かした。之を前年に見るに、三汽船會社の積載二萬八千五百五十噸の外、加奈陀太平洋汽船等の外國船一萬六千四百五十噸合計四萬五千噸であつたのに、六年は輸出量更に一段の増加を來すべき豫想なるに拘らず、外國船には見込みなく、而かも前年の半額にも足らざる一萬五千九百噸ではどうにも我慢がならないので、大谷中央會頭等第一線に乗出して船會社と折衝を重ねたる結果、賃金を一噸八弗（前年六弗半）とし數量を四千噸増加して一萬九千九百噸を十二月迄に輸送することになつたが、是でも尙ほ二萬五千噸からの不足であつて、更に折衝を仕直し、結局。

一、數量は命令船二萬噸、臨時船二萬五千噸、運賃は命令船七弗五十仙、臨時船二十六弗四十仙、平均十八弗を以て

何れの船にも積取る。

二、右と同一の運賃で清水港以外、神戸四日市方面よりの約五千噸を積取る。

三、積取期間は六年五月より七年二月までとす。

といふことに纏まつた。最初船會社の鼻息荒く臨時船は一噸三十弗以下では積取れぬと頑強に突張つて居たが、三十弗の運賃は一噸を八百ポンドとして一貫目六十二錢に相當し、この外に内地及び米大陸鐵道運賃保險料などを計算すると原價が高くなつて賣込困難に陥るので、茶業者は命令臨時兩船を平均して十五弗を要求した。併し船會社としても、當時備船料一噸二十五圓といふのであつたから、到底そこまで讓歩が出来ず、遂に平均十八弗に折合つた譯で、之を香港米國間の一噸四十弗買米國間の七十弗に比すれば半額以下で、運賃の上から見ても、日本茶は支那及印錫茶よりも遙かに有利の地位を占めて居たのである。

以上一噸平均十八弗は、一ポンド四錢五厘であつて、之に輸入税三錢、消費税四錢を加ふれば原價一ポンド三十錢の茶は四十一錢五厘となり、この外保險料、陸上運賃などを加算すれば、消費者の手に入る値段は非常に高くなるので、競争品の勢力振はざる當時に在りても、賣込には相當の困難を感じたること勿論である。

第四 品質問題と松浦代議士の渡米

恰かもこの年、(大正六年)米國大藏省輸入茶最高検査官ジョージ、エフ、ミツチエル氏が新婚旅行をかね、非公式ながら日本、爪哇視察の途に上り、御用船トーマス號で五月十九日我が長崎に到着、それより陸路東上、二十八日まで東京に滞在、各方面を視察見聞、日本輸出茶の本場静岡縣にも足を入れ、静岡市場、牧野原茶園等を視察、六月十六日

神戸出帆歸國の途に附いたが、ミツチエル氏の日本訪問は各方面に多大の印象を與へた。氏は日本を去るに臨み、左の如き忠言を試みたのである。

私は今日日本を辭するに當り、日本の茶業者、殊にその主産地たる静岡縣茶業者各位に對して、愉快且つ有益なる旅行と視察とを遂げ得たことを喜びとし深く感謝するものである。私は、日本の茶業者諸君より學びたる所が尠くないが、私としても、この非公式の日本訪問に於て、各位に對し陳述したる意見により、各位が日米製茶貿易に關し、その増進を實現するに相應なる何物かを得られしこと、信ずる。日米間の親善は製茶の取引によりて其強みと深みとを加ふること決して難事ではない。それは日本茶業者が日本茶の品質に注意し、その向上改善に誠意を示さるゝことは、この際最も意義深きものであることを附言せんと欲するものである。

この忠言が果して日本茶業者によりて確實に守られたかどうか。翌七年五月、このミツチエル氏によりて『不正粗悪茶輸入禁止令』が米國に布かれたことは、日本茶業者として誠に恐れ入つた次第と言はねばならぬ。

我茶業中央會議所は、去る大正三年以來、別途會計による對米販路擴張事業を行ひ、西巖氏等を中心に各地に於て、直營の喫茶店を營み且つ配布茶其他の方法により盛んに活躍を續け來つたのであるが、六年八月更に代議士松浦五兵衛氏を日本喫茶店の監督として米國に派遣し新たな進出を試みた。同氏は、日本茶の行方を尋ねて米國內地を駆け廻り觀察上の旅費を豊かにして十二月歸朝、次の如き土産話を試みて居る。

松浦代議士の渡米土産話

私は六年八月渡米、日本茶の需用地なるニューヨーク、シカゴ、セントルイス、ロサンゼルス、シアトル、ポートランド、香港その他の各地に於て日本茶の消費状況並に日本茶と各國茶との關係、及び今後日本茶の發展如何等各方面に亘りて調査の上十二月歸朝したのであるがこの年米國に於て本邦茶が非常に好況であつたのは競争品の減退に因るもので、支那茶の如きは、品質運賃

の關係上著しく不振を呈せばかりでなく、從來歐洲から露國へ輸入された紅茶、綠茶が殆ど杜絶の狀態となつたので、支那茶がこれに代つて浦羅、哈爾濱方面より輸送され、爲めに米國への輸入減少し、一方印度に於ては杜丁の召集せらるゝもの多く、生産力の減退から英國政府は已むなく茶に對して一割五分の生産制限を行ひ、更に實生産の七割を英本國軍需品として徵發することになつたので、印度内地の需用すら不足し、輸出など思ひも及ばぬ情勢となり、彼此因をなして米國市場の在荷益々拂底に陥つたものである。

元來日本茶は、米加兩版を唯一の顧客となせる關係上、是迄も能ふ限り米國市場の開拓に努力し來つたのであるが、如何せん米國には世界各國の茶が輸入せられるので、大小幾多の茶商の手を経て居る間に、或は混合茶となり、或は多種多様なリプトンブランドなどに化成して販賣され、純粹の日本茶は殆どその姿を認むるに苦む状態であつたが、前年來各國茶の輸入減少から、漸く日本茶の存在が確認され、各地の茶舗の店頭には、生粋の日本茶が、その銘柄そのまゝで發賣せらるゝやうになり、米國人もこゝに始めて眞の日本茶を味ふことが出来るよと喜んで居る有様である。然るに、その價格が日本内地に於て前年より二三割高なるに拘らず米國に於ける小賣値段が昨年と大差ないといふ奇異の狀況を呈して居る。これは米國の卸商等が從來の如き法外の利益を貪らず、一般需用者亦日本茶の眞價を理解するに至つた爲めで、我國茶業のため喜ぶべき傾向と云はざるを得ない。而して米國に於ける日本茶需用の大勢を見るに、此物は主として一部上流人士の消費に過ぎないが、本年の如く多量に輸出された裾物の顧客は概して農家であつて、牛乳とか砂糖とかを加へず茶をその儘飲用する有様である。一體日本茶には牛乳砂糖が詰物で、これを加ふれば却つて眞味を傷けるのであるから、米國の農民が、日本茶をそのまゝ飲用することは日本茶將來の發展に取り最も有望な條件とするに足るであらう。併しこの裾物の好賣行に誘惑して粗製濫造に走り、香味水色等日本茶としての特色を無視するやうな事になると、結局往年の如き不評を招き、折角進みかけた貿易の前途に思むべき挫折を來すの恐れがある。この點我茶業者の大に心すべき處であらう。人或は最近裾物の賣行旺んなるは、先方にそれ丈の需用があるからで、是は決して憂ふるには當らないと言ふものもあらうが、是れこそ大變な見當違ひで、本年の裾物賣行は、この程度の茶を需用したといふのではなくて、一に價格の點から已むなくかゝる裾茶を以て我獲したのであるから、我業者は特にこの點に注意を拂はなくてはならない。

更に一面、紅茶について見るに、私はこの幾年に日本紅茶會社の製品見本約五百斤を携行、米國內各地の茶商に配布したが、到る處好評で、これが日本製かと驚異の眼を以て見られる程であつた。従つて成商店の如きは此の見本により直に翌年の注文を發し、將來の取引進展を思はしめたが、一般の批評を綜合すると、未だその色合、風味に於て一段の工夫改善を要する點が尠くないやうであつた。尙ほ日本茶貿易に重大關係を有する課税問題に關し米國の有力政客間の意向を窺ふに、現に政權を掌握せる民主黨は、本來食料品には課税すべからずとの主張を有し居るも、軍事費調達のためには、製茶を半必需品として課税するのではないかと思はるゝ理由がある。若し茶に課税する場合は、咖啡、チョコレート等の飲料品も總てその品質と價格とに應じて公平に課税されるであらうし、その課率の如き、總て同一となるべき情勢にあるので、この點は深く憂ひとするには足らないであらう。又一部には製茶の輸入禁止が問題とされ、生糸其他と共に一般の注意を引きつゝあるやうだが、今の處實現の模様も見えない。只米國は今後二箇年の後に大戦を期して居るだけに、情勢の變化に従つて、其運命がどうなるか全く迷暗することは出来ない。之を要するに現在に於ける日本茶は頗る好況で、これを機會に、益々品質を優良にし、價格を調節して、着々市場開拓を目的として前進すべきである。

斯の如く戦争景氣に基く日本茶の海外發展は、將來國內の研究努力によりてこれを永遠に維持しなくてはならぬといふ事は、茶業者一致の待望であつて、この研究の實行は結局政府の力に持つの外なく、こゝに國立茶業試驗場設置の必要が力説され、茶業中央會、靜岡縣聯合會等屬々これを政府當局に請願し、農商務省亦之を容れ、大正七年度豫算に計上したるも、大藏省の査定に遇ひて實現を見ず、一年送りの八年度に至りて漸く決定、靜岡縣聯合會五萬圓、靜岡縣二萬圓、地元榛原郡茶業組合より敷地代を寄附して靜岡縣牧野原に建設、九年四月より開設を見るに至つた。

第五 戦争景氣と外地關係

戦争景氣に乗じて總理無理突進したる結果、さなきだに粗悪なる日本茶は益々粗悪化し、大正七年の製茶期を迎ふるに先ち、米國製茶最高検査官ミツチエル氏は三月二十六日、日本茶に對する好意的注告として、

日本茶は最近著しく粗悪となり、殊に葉の混入甚し、我國では目下、かゝる茶の輸入を防止すべき法令を制定中で近く公布となる筈だから、粗悪茶を出す日本の茶業者は特に注意すべきである。

と語られたる旨我が駐米大使より外務省に報告して來たが、この事ありて三日の後、即ち同月二十九日、米國政府は、『不正粗悪茶輸入禁止條令』の第二十一條に左の一項を追加する旨公表するに至つた。

製茶ニシテ反覆検査ヲナスモ猶ホ浮物(茶葉ガ完全ニ浸漬サレタル後ニ浮留スル木葉)又ハ浮渣(浮渣ガ標準茶ヨリ多量ナル場合ニハ當然拒絶サルベキモノトス

(第三十條に増補の規定)

特ニ標準茶ノ設定ナキ粉茶及フワ茶ハ其所屬範圍ノ標準ヲ比較シ品質ノ純否又ハ飲用ノ適否ヲ決スベシ

以上の新條令は五月一日より實施され、完全に七年の新茶期よりその適用を受けることになつたので、我當業者等は此の條令に鑑み、俄かに製造取引に細心の注意を加ふるやうになつた。前年に於ては既に本茶一萬二千個、粉茶四千個合計約九十萬ポンドが輸入拒絶の厄に遇つて居り、當業者としては、身から出た錆とは云ひながら何れも苦き經驗を嘗めたのである。若し前記禁止條令の追加増補規定が前年に實施されて居つたならば、日本茶の陸揚拒絶は驚くべき多量に上つたであらうと云はれて居た。

尙ほこの年、加奈陀政廳に於ては、輸入飲料品の製茶、珈琲に對して一封度十仙の輸入税を課し、在庫品にも同時に課税する旨發表された。一封度十仙の課税は、製茶の價格二十仙乃至三十仙なるに對し、非常なる重税には相違なきも、競争品たる珈琲に對しても同様一率に負擔を命ぜられたのであるから、全體的に數量の減する事はあるも、競争品の爲めに特殊の壓迫を受けることは比較的に少かつたのであるが、後年、加奈陀は、英國植民地保護政策の下に印錫茶を一ポンド七仙に減税し、更に昭和五年に至り、印錫産茶を無税とし日本茶を九錢とするの規定に改め、五月二日から實施して我が當業者を驚かした。そこで中央會議所、靜岡縣聯合會議所は互に相協力して外務、農林、商工三大臣に陳情して之が對策を講ずるなど、外地の壓迫は常に我が茶業界を襲ひ、殆どその苦難の絶ゆる時はなかつたのである。

米國に於ては、右の如く不正粗悪茶輸入禁止を強化したる後、同年六月に至り獸皮其他各種の輸入を制限したる外、カフェイン、ティンは六月十日以後輸入を許可せざることとし、更に八年一月一日からは層茶(筒茶又は掃集茶)の輸入を禁止した。是等は日本茶輸出の大勢に左のみ影響はなかつたが、當時日本茶業者としては、歐洲戦争に依頼するの念強く、能ふべくんば戦争は一日も長からんことを欲し、戦争終局の日の來るを恐るゝの風があつたので、茶業當局は、七年初頭から、先づ『時局の力を待たなかれ』と警め、以て精神的に茶業者を自覺めしめ、一面粗製の風を矯むることに全力を挙げたが、事實は豫定通りに運ばず、物價は益々騰貴し、肥料、機械、燃料、勞銀等何れも騰上りて、茶の生産費は三割から四割を増加し、前年二割に賣つた茶は、本年は二割五十錢でなければ勘定に合はぬといふ状態で、粗製はいよいよ甚しく、米國市場に於ては、漸次印錫、支那茶と其他位を轉倒するの悲しむべき運命に落ちて行つた。即ち▽戦争前は日本茶最も高く、標準級一ポンド日本茶十五六仙なるに對し、印錫茶十二三仙、支那茶十仙であつた、當時日本茶は香味は優秀だが値段が高いので賣り難いといはれて居た。

▽戦争後となりては、全くその地位を替へ印錫茶三十三三仙、支那茶二十七八仙なるに對し、日本茶は二十二三仙と

なつた、即ち時局により印錫支那茶が十五割も高くなつたのに、日本茶は五割高に過ぎない。以上は、日本茶の品質が如何に低下したかを如實に物語るものであつて、その一面の罪が、戦争景氣に頼り過ぎたにあること元より否む譯にはゆくまい。

ソコで又米航運賃だが、前年は一噸十八弗、船腹五萬噸の契約成立したが、七年の船腹更に一段の不足を告げ、船會社側の鼻息頗る荒く、折衝數次、漸く一噸三十弗、船腹五萬噸（七年五月より八年四月迄、一割以内の増減をなすことを得）に決定を見たが、米國の製茶最高検査官ミツチエル氏は、『三十弗でも他國の運賃に比すれば尙ほ廉いから日本茶業者はこの機に乗じて品質の改善に努力すべきである』と注意された程であつた。

この年、内地の米價俄かに高騰し、七月初旬神戸市あたりから起つた、所謂米騒動、富豪地打事件は、次第に東漸し、靜岡市あたりまでは、燎原の火の如き勢ひであつたが検査當局の活躍と新聞記事の禁止とにより、いつの間にか終熄し、その次に來れるものは、官吏教員軍人會社員その他のサラリーマンに對する増俸問題であつて、これより日本國民の生活は止め度なく向上し、後年遂には世界一の高物價、贅澤國民となつた譯だが、經濟上から頼みにされた歐洲戰爭は、バルカンのブルガリヤ降服が動機となつて、同年十二月、流石の獨逸も力盡き、敗退休戦を提議し、日本が望んでも望まんでも、平和はいよいよ來る處まで來たのであつた。

第六 戦後の難關、大谷會頭の獅子吼

獨逸の屈服により休戦となつた歐洲大戰は、八年初頭より巴黎の平和會議に入り、米國はウエルソン大統領自ら乗り出し、日本からは、西園寺公望、牧野伸顯等講和使節として會議に列す。領地、償金、軍艦被吹から民族自決、國際聯

盟など戦争の生んだ各種の新しい産物は、政治、經濟、思想等の上に種々の影響を及ぼし、一敗地に墜れた獨逸は、新共和組織の下に次の臥薪嘗膽に向つて重々しきスタートを切り、勝利の榮光に酔へる聯盟諸國も、戦争の慘禍を極度に味ひたる事として、永遠の平和を熱求し、凡有る手段に訴へて將來に干戈を收むるの念頗益々強く、一方日本は東洋の盟主として、新たなる使命の上に立つこととなり、西園寺、牧野の使節一行は同年八月華やかなる歸朝を以て局を結び、かくて世界の平和はやつて來た。昨日までは戦争を頼みとして、米國茶市場の獨占を夢みたる日本茶業者も、いよ／＼本年からは新たなる商敵を迎へて販路の争奪戦に入らなくてはならない。殊に五、六、七年と年を追ふて生産費の高騰に悩まされ、品質は釣瓶落しに低落する。世界の平和來と共に船腹舊に復し、印錫支那茶は、旺盛なる輸送力を利用して歐米の市場に殺到するであらうし、日本茶の黄金時代はいつしか蓮花一朝の夢と化したるやの感あり、こゝに獨力獨行、良質と廉價とを以て商戰場裡に立つの餘儀なき舞臺が廻つて來たのである。

此の時に當り、特に日本茶業者に對して大なるショックを與へたるは、翌九年一月一日より施行せらるべき、米國全土の禁酒法であつた。米國は参戰の經驗に基き、國民の保健及び産業能率に最大の注意を拂ひ、戦後經營の第一線を固むべき一大政策として、國民禁酒を選み、これを全土に及ぼす爲め、憲法の改正を以てその實行に臨んだのである。民主黨のこの政策に對しては、共和黨側に多少の異論もあつたのであるが、事は戦後の經營といふ大背景の下に計畫せられたのであり遂に斷然決行となつた。當時（一九一三年）米國人の酒精飲料消費高は、これを全國民に平均し、一人一年二二・六八ガロン即ち四斗四升に當り、酒精飲料の製造業者一千五十三人、二千三工場の總資本額九億千五百萬ドルを算し一年の製造高六億六千五百萬ドルといふのであるから、禁酒法の實行は單り吞兵衛連の恐怖ばかりでなく、九億の大資本を擁する酒造業者、並に其の遺存消費稅收納者たる政府財政當局に與ふる苦痛甚大なるものあつたが、政策の前に忠實と勇氣とを有する米國政府は、眼前の困難を排除し敢然としてこれを斷行したのである。これに先だつて

と半年、お隣りの加奈陀では、微溼ながら條件付禁酒令を布き八年五月一日から實行に移し、合衆國と相應じて北米大陸を禁酒の霧雨氣中に包み込んで終つたのである。

世界の平和來とそうして米國の禁酒法。これには我が茶業者等も必然的に動かされずには居られなかつた。ソコで八年初頭の我が茶業論壇は、この問題を標的として花々しき賑ひを呈し、各種の論議を醸生せしめたが、是等を綜合せる、日本茶觀なるものは、大體左の二方面を以て代表されて居た。即ち。

◇日本茶に利益と認めらるゝ方面。

- 一、米國全土に於ける禁酒法施行の時は、非酒精性飲料なるコーヒー、紅茶及び綠茶の嗜好を次第に増進し、その需用増加すべきこと。
- 二、米國に於ける經濟状態は極めて良好である上に、平和克復と共に、戦時中の種々なる制限、節約を解除されるので、我製茶貿易にも多分の好影響を及ぼすであらう。
- 三、紅茶並に綠茶の敵手であるコーヒーの價格が約三倍の暴騰を示し居ること。

◇不利と認めらるゝ方面。

- 一、海運が漸次當體に復しつゝある爲め、前年來の如く、他國茶が、船腹剩餘運賃高騰のハンディキャップから解放せらるゝに反し、日本茶が、日本船舶に依り自由に割安の運賃で輸出し得た特典消失の運命におかされること。
- 二、前年來、日本が既に粗悪茶を輸出した事から被つた日本茶の不評と、そのストツクの山積せる事。

◇以上二方面の事實を總括にしての對策。

- 一、日本茶の優良性を認識せしむる適當なる宣傳方法を講ずること。
- 二、海運界に對して有利なる製茶輸送條件の獲得運動を起す事。
- 三、品質の根本的改善に向つて、日本茶業者の自發的進歩を促す事。

等であつて、別段事新しき名案といふものでもないが、是等の對策を根幹として、日本茶の商標を擴張維持するの外なく、我が中央會議所並に輸出茶の主産地靜岡縣聯合會議所に於ては、凡有る方法を以て警告、獎勵、指導に乗り出し製茶業者も幾分自覺する所ありしが如くなるも、元來産業は利益を主とするもので、その利のある所必ずしも、品質の向上と一致せず、殊に、内地物價の騰貴から國民生活著しく向上し、喫茶の風習も従つて全國的に波及し一番新茶の優良なるもの相次で國用に供せらるゝに及んで、内地商人のみ大に買進み、爲めに値段は日に／＼昂騰して、二割高二割五分高と騰上りとなるをも厭はず多量に取入れたので、外商等が買先に現はれんとする頃には、品は落ち値は高く、遂に手の付けやうなき状況となつて居た。ソコで外商等は。

斯様に粗悪なる茶が、斯様に高價でなければ買取れぬとなると、米國に於ける日本茶の販路は全く塞がれて終ふであらう。是では日本茶は危機を通過して、寧ろ破滅の淵に沈む外はないと絶叫したものだ。

唯幸ひにして、同年の海上運賃は、船腹の回復により、前年の一噸三十弗とは比較にならぬ程の激落となり、寧ろ各汽船會社間に荷物積取りの競争さへも起らんとするの勢ひで、協定會社たる、郵船、商船、東洋の日本三汽船會社と、外國側のブルー・フアンネル（青筒線）パシフィック・メール、加奈陀太平洋汽船、神戸大洋海運所屬船等は、米國行製茶一噸、五月中七弗、六月一日より十一月まで八弗、十二月より十五弗にて積取ること協定したので、輸出日本茶はこの一點に於て相當有利ではあつたが、何分にも、品が悪く値が高いといふので、對米貿易は不評の上にも不評を重ね、その出足は控かれ放題、堆荷、不振は益々輪をかけて重くなつて行つた。

といふのもこの數年來、我が茶業者は『茶でさへあれば何んなものでも賣れる』と云ふ一種の逆勢に囚はれて、徒らに生産費の低下にのみ重きを置き、製品の良否を無視して心を機械に走せ、昔し『平氏にあらざれば人にあらず』と彼

等一族のさばつたやうに、今は「機械茶にあらざれば茶にあらず」と下茶の跋扈をどうすることも出来なかつた。これはこれ戦時の成金思想、一時的の投機熱に外ならず、通貨の膨脹が齎らし来つた物價の騰勢は、戦勝國を亂醉状態に陥らしめ、棉糸の如きは百三十割の暴騰で、總平均二十割餘に上り、高い良茶は遠い外國へ運ぶが程のものでもないと、ミル芽の一番新茶は多く内地で消費されるやうになつて、日本茶の商勢は、歐洲大戰を一轉機として、その行方をガラリと變へて終つた。當年の茶價を見るに。

	上物	中物	下物
一 番茶	一〇、〇〇	四、〇〇	三、〇〇
二 番茶	五、五〇	三、〇〇	二、〇〇
三 番茶	五、五〇	三、二〇	一、四〇

であつて、其懐工合は生産家にも商人にも、上物はよかつたが、下物は可けなかつた。それでもまだ戦時の餘波で、下物の輸出は變動的に相當の情力を殘して居たことは事實であつた。

休戦から平和條約の締結にかけて、ピク／＼ながらも貿易線上に餘香を止めて来た日本茶も、いよ／＼戦時の變調から、平時の常道に立ち還ることになつて、内外の狀勢を眞面目に考へなければならなくなつた。即ち大正九年の初頭に於て叫ばれたものは、「日本の茶業者よ、速かにその常道に還れ」といふことであつた。戦時の日本茶業は餘りにも常道を無視して居た。無視して居たけれども、戦雲の爲めにその缺陷は蔽はれて無人の野ばかりが前方に展開し、烏なき黒の蝙蝠として思ふ存分騙け廻つたものであつたが、平和來の年を重ねては、かゝる商敵のハンディキャップを頼りとする事は出来ない。ソコでこの「常道還元」の待望が、ムク／＼と春の青野に芽生えて来たのである。「日本茶の常道に還れ」といふことは、日本茶本來の眞價を發揮するやう、栽培、製造、販賣の根本的建直しから始めることである。

品種の改善統一、摘採製法の更新は勿論、輸出貿易上の習慣に於ても従來外人に買つて賣ふ、即ち「外人任せ」の取引を改め、商權の獨立を期する處がなくてはならぬ。當時我が茶業當局は、聲を勵まして、「製茶貿易を我手に收めよ」と廣く業界に呼びかけたものである。製茶貿易上の商權を我手に收むるには、それ相當の色々の準備が必要である。その準備とは、先づ、茶業の收支計算を明確にし、合理的に努力の節減を計り、茶園を愛護し機械を改造し、以て商權上の最良武器たる日本茶本來の品質を根底づけることである。この根底が出来て始めて商權獲得に乘出すことが可能となる。

大谷茶業中央會頭は、大正九年の劈頭「日本茶業の前途と我當業者の覺悟」と題するパンフレットを全國茶業者に配布し「米國の禁酒法實施に乗じ、優良なる日本茶を以て大に進撃するは今である。昨日までの茶業神経衰弱症は、所謂機械亡國の思想より來れるもので、先づこの症癩を去り、而して茶業百年の大計を樹つるため、こゝに茶園愛護の實を擧げなくてはならない」と、心血を濺いだ數千言、能く茶業者の肺腑を突き、その具體的方策として、左の數項を附言したのである。

大谷氏の茶業更新策

- 一、努めて三番茶以下の摘採を廢する事
- 二、茶樹現下の衰耗を速かに挽回するため鋭意耕耘施肥に盡瘁すること
- 三、若芽の摘採を勵行すること
- 四、茶葉の畑見切賣を嚴禁すること
- 五、茶園の桑樹混植若くは茶園の桑園化を廢すること

六、手揉製茶法の研究を怠らざること
七、機械の濫用を嚴禁すること

八、製茶諸機械の改良進歩を圖る爲之れが研究を各地當業者共同の下に行ふこと

九、機械製造法に熟達し優良品を精製する爲め盛んに各地に機械製茶の傳習所を設け製法の傳習に俟つに宜しく手揉製茶法の眞髓應用を以てすべきこと

大正九年三月は、例の財界大バニツクである。數年來戰爭景氣に醉ふた、他力本願の日本の財界は、戦後の經營に其足許を固むる暇もなく、遂に九天より奈落の底へと墜落しにされた。我が茶業も元よりこの波動を免るゝことは出来なかつたのである。然るに戦時中の傾向的産物は各方面に残され、昨年は再製茶工場が、季節的に夜業を必要とし、工場法適用の除外を請願したばかりなのに、本年は、製茶鐵道運賃が、四級より三級に引上げられて輸送上の苦痛を新たにし、これが据置請願の運動を起すなど、茶業團體として成すべき時務は年を追ふて複雑を極めた。かの米國に於ける喫茶運動は、各國産茶を一丸となし、大同團結の下に、禁酒法の實施を利用せんとするもので、昨年来頻りに唱導され、我が日本に對しても參加の勧誘があつた。その第一年の計畫は、四十四萬弗を以て、各種の宣傳を行ふといふのであつて、日本の分擔は、輸出茶三千四百萬ポンドを基準とし、一ポンド八厘計算で二十七萬二千圓といふ多額であつた。各國合同の米國喫茶運動に對して、日本茶としても發言權を獲得し置くの必要は充分これを認むるも、今俄かにこの分擔金の調達が出来ず、且つ、他國茶とは特異の地位にある日本茶としては、この運動に捲き込まれ、庇を貸して母家を奪はれるの結果に終るやうなことがあつては、甚だ面白からずとて、『事は結構だが今は時既に遅く參加は六ヶしい』旨を回答して終つた。それが、九年に入りて再び蒸し返され、その分擔費は、日本四萬弗、臺灣同じく、印度三萬弗、錫蘭五萬弗、蘭領印度二萬弗、合計十八萬弗といふのであつて、前年よりは遙かに規模を縮小されたが、日本は矢張り時

期が間に合はぬといふ理由の下にこれを翌年參加に延期したのは、この運動が日本茶に如何なる効果があるか、的確にこれを判斷することが出来なかつた爲めであらう。

轉じて當年の海運界を見れば、いよ／＼社外船の競争色濃厚となり、協定各汽船會社が、日本各港より米國西海岸各港への製茶運賃一噸十弗として五月一日より實施せるに對し、第一に挑戦したのは、三井物産の所有船で、一噸七弗乃至八弗で積取ることを出出で、海運界に大きな渦を捲き起し、これと前後して三菱商事の富浦丸は、七月二十九日清水に入港、一噸七弗で積取を開始せんとしたるに、協定會社は清水の船業者に檣を飛ばし、船中のポイコットを以てこれに應戦し、結局鈴與商會などの斡煎で、今回限りといふ條件の下に一萬二千餘個を積取り出港したが、これが爲め三十日入港の大阪商船布哇丸は僅かに百三十噸を積取つたに過ぎぬといふエピソードもあり、それから間もなくイースタンプオード號も清水に入港製茶一萬九千餘個を積取つた。運賃は表面一噸十弗だが、内五弗五十仙を荷主に拂戻すことにしてあつた。この外三井の多山丸も競争線に現はれ、協定會社は全くタチ／＼の有様であつた。併し面白い事は、米國內地の鐵道運賃だけは、是迄一噸一弗五十仙であつたのが、この年から二弗五十仙に値上げされた事であつて、この鐵道運賃と海上運賃とを共通にして、その間にデリケートな調節的策戦を講じたものもあつた事と思はれる。

我國の製茶貿易戦も、かくして益々複雑の度を加へて行つたが、この間に内國的に製茶改善の研究が進められ、國立茶業試驗場は、西ヶ原農事試驗場より獨立して、静岡縣牧野原にその偉容を現はし、大正九年四月より事業を開始し、茶の化學的試驗から、栽培製造の研究を進め、同所に於ける静岡縣農事試驗場茶業部の品種改良事業と相俟つて、着々その成績を發表し、指導獎勵上重要な役割りを果たすやうになり、販路の方面に在りては、清水港が、日本に於ける製茶輸出の第一線を占むるの現況より見て、明治時代の築港では到底その使命を果たすことが出来ないと云ふので、市制施行以前の清水町では、小川町長以下一齊に起つて内務、大藏兩大臣に陳情、こゝに大清水港實現の端を開いたが、越え

て、關東大震災には、東西運輸聯絡の樞軸を握りてその名を天下に成し、遂に六百萬圓の大築港となり、附近六個町村を合して市制を布き今日に到つたのである。

この大清水港發祥の年とも云ふべき、大正九年、茶業中央會頭大谷嘉兵衛氏は、上記茶業者の一大自覺を促すべきパンフレットを配布したるのち、同年十月、三重縣津市に開催の第四回全國製茶品評會賞授與式に於て、『日本茶業更新論』と題して一大獅子吼を試みた。戦後に於ける日本茶の更新に關し、よくその中樞を突き、當時の茶業方向を明示して居る。その講演概要は左の如くである。

大谷氏の日本茶業更新概要

諸君、私は先に『日本茶業の前途と當業者の覺悟』と題する小冊子を以て平生の所信を我當業各位に訴へたが、未だ數箇月ならざるに、海外に於ける我茶況の悲報は、内地の沈滞状況と相俟つて、私の胸を打ち到底黙止することの出来ぬ状態となつたので、爰に『日本茶業更新策』なる題下に再び諸君に苦言を呈せんと欲するものである。

今や日本の茶業は千古の大厄難に遇ひ存亡榮枯の岐路に立つて居るのである。これを米國に見れば、我が生糸と共に驚くべき大打撃に悩まされて居るのである。而かも生糸が始めて受けた慘落に比すれば、製茶は年來の粗悪品より來れる不振の上に此の度の瓦落に襲はれ二重の苦痛を嘗めて居り、最早到底この儘では救はれない破目に立つて居るのである。

我製茶は最近數年來、戦時景氣により米國に於ては殆ど獨壇場を占めて居た。従つて無反省に、茶でさへあれば何でも賣れるものと遠慮し、需用者の嗜好を無視して盛んに粗悪品を輸出したので海外市場の非難は露々として底止する處を知らない。彼等は常に曰ふ『日本茶は品が悪くて値が高い、偶々安値のものがあるかと思へば、それは實に其い劣等品だ』と、こんな有様で、世界各國茶の不振の中にも、日本茶は特に甚しき不振に襲はれるやうになつた次第である。

戦後財界の變動も、やがて又回復の時機は來るであらう、生糸の如きも、米國市場さへ回復すれば又一掃來復は期待出来るのだ

が、この世界前から品質粗悪を以て、不振の渦中におかれた製茶市況の回復といふものは、さう一朝一夕には行かない。若し日本茶がいつまでも世界の獨壇場を占むるものならば、多少の無理は通るかも知れないが、生憎海外には、日本茶が、膝元にも追付きかねる程の優良な印度、錫蘭、爪哇等に支那茶が控へて居るので、お山の大将で威張つて通さうなどは到底思ひも及ばぬ事である。然らば、この目前に迫つた日本茶の一大危機を如何にして切り抜けるか、こゝに日本茶更新の必要があるのである。

今日は單に粗製濫造を戒めるとか、不正粗悪品の取締りをするとかいふ消息的の手段ではもう間に合はぬ、宜しく積極的に茶業の根本革新を策し、差勝沈滞の現状を解脱し、進んで生々發展の大方針を樹て、直にそれを實行するの用意と勇氣とを充分に備ふべきである。即ち茶園の施設より製茶の技術に向つて最善の努力を加ふべきである。要するに茶業更新の根本策は、これを一言に要約すれば『需用者の嗜好に投合する性好茶を出来るだけ安く供給するの手段方法を講ずる』にある。是れが茶業の正道であり、根本の精神である。内に對しても、外に對してもこの主義精神は絶対に必要であつて、この精神を離れたら、如何なる研究も試験も日本茶の更新に役立つものではない。

印度、錫蘭、爪哇の優良茶に對抗して後れを取らぬ努力、それは口には容易だが、實際に効果的に行ふことは中々容易の業ではない。私はいつも言ふことであるが、今日酒々風をなして居るのは『自分ながら好んで呑み得ないやうな粗末な品を高くお客に強ふる』のであつて、これは如何にも非人道である。この非人道の報ひが今日の不況危機となつたもので何とも心外千萬の事である。

斯の如き思はしき茶業邪道の元兇はそも／＼何であるか。それは云ふまでもなく『機械の濫用』そのものである。茶業の正道に悖り、機械精神を穿き違へて濫用を逞うした結果、摘採を悪化し、硬葉の濫獲から深刻による茶樹の衰耗が、再び製品の粗悪に輪をかけてやうになるのである。この邪道の元兇、機械の濫用を血祭りに上げて、截然更新の一轉機を劃するは、我茶業者の双肩に落した重大責務である。

而して茶業更新の第一歩は、以上機械濫用を防止する外茶園の愛護的經營から出發すべきであつて、香味、水色、形状等の優良を期する上に於て、その原料たる茶葉の精良より始むべきことは元より言ふを要せず、如何に製法にその美技を盡すも、香茶葉を

以て玉露茶を作ることには出来ぬ。この原葉の精良にして多收なるを希はゞ、宜しく先づ茶樹の品種を優良にしなければならぬ。従つてそれは地方々の風土に適する品種の育成に思ひを致し、眞の力ある茶園を仕立てることが、何としても先決問題である。かくして整備された茶園は、永久にこれを愛撫保成し持久の大計を樹てなくてはならぬ。この茶園愛撫の感應は、必ずや非情の植物にも及ぶであらうし、殊に人間生活に對する健康上の靈能豊かなる茶としては、施肥などよりも日頃の丹精、摘葉の親切を一段と喜ぶことであらう。かゝる微妙の點に思ひ到る時は、無制限なる茶樹の留使に眉を皺むるのが自然の道であることに氣が付く筈だ。この尊き愛撫の情操こそは我茶業者が今日何物よりも先に體得すべきもので、施肥、剪枝、病蟲驅除、農具器械の應用等總てこの情操の力によりて、各々その機能を發揮するのである。

以上根本の問題が解決すれば、次は、多收種と經費節減等自からその道が開けて來ることと思ふが、先づ茶園の合理的經營としては、大經營主義よりも、小經營主義の方が我國の現勢に適應して居ると私は信ずる。小經營に依れば、茶園の愛護が充分に期せられ、優良なる原葉の供給が可能となり、茶業更新の實績がこゝから擧つて行くであらう。更に進んでこれを製茶法に見るに、如何に今日の茶業邪道が機械の濫使にありとしても、經濟上の關係は生産費と物價との調節に手揉専用を許されず、従つて、手揉のコツを機械製に應用する事を怠つてはならない。これ「手揉の頭で機械に力を頼り」のであつて、今後はどこまでもこれを進まなくてはならない。

以上茶業更新に關する重要諸問題は、茶業に經驗厚き實際家と學者技術家の協同研究に俟つて始めて根本解決を見るのである。この解決一日を緩うせば一日の損失あり、我茶業者は今日只今より先づその根本問題に突入して改良の第一歩に足をつくべきである。而してこれが實行發端には講演、講習、傳習その他適當の措置を取ることが必要であつて、心の持ち所、頭の置き所を一新することに注意を拂ふのが急務である。

農業にまれ工業にまれ、何れもその生産費を償ひて相當の利潤がなくては、いつしか本業を疎んじて他業に走るやうになる。これは無理からぬ事で、我茶業者間にも、近來の大不況に迷ひを生じ折角の本業を放棄せんとするものがあるやうに聞く。併しこれは以つての外で、實はかゝる不心得者が、茶業を今日の不況に導いたのだとも云ひ得るのである。かゝる薄志弱行は我茶業には大

の禁物である。宜しく大勇猛心を奮ひ起して、今日の茶業不振を打開すべく、この大厄難と戦はなくてはならない。

日本茶は、過去六十年の歴史を要ね、その根柢は固いが、糖茶一點張の貿易が、今後果して得策であるかどうか。これを販路の方面より見れば、紅茶、磚茶に手を染むるの將來に有望を信ずるから、是は是非其日本茶業の不況打開の爲め發達せしめたいものである。而して海外新販路としては、手近に滿洲、西比利亞あり。之に次で露西亞、南米等が控へて居る。滿洲、西比利亞方面に向つては、是迄も盛んに販路の開拓に努力し、相當の成績を擧げて居たが、露國の騷亂動搖により殆ど否塞の状況に陥つて居る。併しこの情勢は、いつまでもこの儘で居らうとは思はれぬ、何れ露西亞本國の鎮靜と共に、製茶取引の復活を見ることがあらうから、それに備ふるの用意は今から充分にこれを講じておかねばならぬ。我が中央會議所では、是等の點に見る處あり、局面展開の策を講ずる爲め、目下人を印度錫蘭方面に派し紅茶の研究に熱心從事せしめて居る。この研究に目鼻がついて日本紅茶に充分の改良が施されたならば、需用國の嗜好に適するやうなものが出来て、糖茶の不振を救ふ一方の助けともなることであらうと思ふ。

第七 大バニツク後の内外情勢

大バニツクの大正九年は、陰慘言はん方なき沈滞の中にその一年を終つたが、明くれば十年、我が製茶貿易は、例の品質粗惡、殊に過多の木草混入と、不相應なる高値とに依り、大減退を示し、六十年來未だ嘗て見ざる不振のドン底に陥ち込み、輸出數量も一千六百萬ポンドといふ悲惨なるマイナス振りである。靜岡に在る外國茶商館中には、日本茶のこの状態に愛憎を盡かし「こんな高くして悪くては、日本茶を棄てるより外に手段はない」とて、店舗を閉ぢ、日本を去るもの相次ぐといふ始末で、輸出茶の主産地なる靜岡縣等に在りては、海外市場を斷念して、國用茶本位で進まんことを唱ふるものがあるかと思へば、飽くまで海外を目標として製茶の經營に當るべきだとて、頻りに警鐘を亂打し「如

何にせよ、經濟的に良茶を生産し得るかの一の具體的方法を掲げて一般茶業者の自覺を促がすものもあり、是等のものが上を下へと入り亂れての亂戦状態である。

かゝる大不況の中に、海上運賃は勢ひ前年より下げなくてはならぬ。即ち太平洋運賃同盟加入の内外汽船十一社は、四月二十二日の協議に於て、前年の十弗より二弗を引下げて八弗とし、無制限に積取ることにしたが、それでも競争は免れない形勢で一面支那茶の運賃もこれに連れて非常に廉くなつたので、太平洋同盟では九、十兩月積に限り、前年より特に四弗を引下げ六弗にするなど、運賃はいつしか戦前の最低位にまで下げて来たのである。かくの如く運賃に於ては經濟的に惠まれたながらも、何分海外で日本茶の評判が悪い。中には日本茶を以て、『單に色のついた水だ』と悪罵するものもあり、その實質(ボディ)の粗悪には全く弱りぬいたといふのが一般の對日本茶感觸であつた。

この海外不評も、内地の需用が旺盛の爲め、幾分お茶を濁すことも出来た。しかし、値段の趨勢から見ると、十年は到底九年の敵ではなかつた。その平均値段を比較すると。

	十 年 度			九 年 度		
	上	中	下	上	中	下
一番茶	一〇、〇〇	四、〇〇	一、八〇	一五、〇〇	六、〇〇	三、三〇
二番茶	五、〇〇	一、三〇	一、八〇	六、〇〇	三、〇〇	一、二〇
三番茶	四、〇〇	二、五〇	二、〇〇	四、〇〇	二、三〇	一、八〇

といふ風で、三番茶に於てやゝ釣合を見せるといふ程度であつた。この大勢を挽回する爲めに、日本に一大輸出會社を作れとの提唱もあつた。それは資本金を二千萬圓とし全国各地に支店及び代理店をおき、主要都市には取引市場を開き、生産者の茶を一手に買入れ、再製加工の上一定の商標を付し、海外需用地に代理店を設置してこれに小賣りをなさ

しめ、所謂『生産者より消費者へ』の産組式モットーを實地に行かうといふのであるが、事は言ふべくして行ふは易からず、計畫は只計畫として雲散霧消するの外はなかつたのであるが、茶業中央會議所に於ては、大谷會頭の説として、先づ『茶業是』を定むることを提唱し、且つ當業者に對し、

我當業者中には往々『茶は終生までの生業となすには甚だ心細いものである』とか、又は『海外の販路若し否塞せば、去つて内地に立籠らん』とかいふものがある。今まで折角伸びて来た海外市場を捨て、國內に退却するが如きは、全く舊幕時代の鎖國的經濟思想で、今日の茶業者の斷じて考ふべきことではない。宜しく世界を市場とする『茶業是』を定め、香味の純良なる綠茶を以て、大敵珈琲、コ、アと一戦を試むべきである。

とて、大に當業者の發奮興起を促したものであるが、是と同時に靜岡縣に於ては、聯合會議所の役員總動員を以て、製茶の改善大宣傳を行ひ、良茶惡茶の大番附などを作り、これをスローガンとして、血を吐く思ひで、茶園の愛護、摘採の親切、機械の改造などを叫び、當業者の自覺を求め、相當の効果を認めたのであつた。

第八 木葦問題と米國輸入茶拒絶

十年の輸出大不況に比すれば、十一年は幾分立直りを見せて居る。即ち最低レコードを残した十年の千六百萬ポンドに對し、十一年は九百萬ポンドを取り返して、二千五百萬ポンドを獲得し、日本茶の未だ必ずしも米國に影を没したのではないことを立證したが、品質と値段との問題は依然として、米國茶商の眉を擧めしめて居た。例の木葦問題の如きは益々非難の度を高め、米國方面からは屢々手厳しき警告が飛んで来た。

在シカゴ桑島領事は、當時日本茶の需用減少に關し、書を外務省に寄せ、その原因を左の如く指摘して居た。

一、價格の高過ぎる事。

二、錫蘭茶が安くて我が販路を蠶食する事。

三、日本茶の宣傳方法不十分なる事。

四、日本茶は包装、飲用法、貯藏注意等が不完全なる事。

五、販賣の大部分は米國商人の手によつて爲されて居るため總てが徹底しない事。

これは儘かにこの通りであつた。「日本茶は高過ぎる、こんなに高くては他國茶と競争が出来ない、従つて賣行が面白くない」といふ小言が絶えず米國筋から寄せられ、更に一面木章即ち「STEM」混入の故を以て輸入拒絶の厄に遇つたとの報導をも受取り、我茶業者の不安は募り行くばかりだが、それでも内地の好況に乘きつけられ、一般當業者は、海外輸出の難きにつくよりも、寧ろ國內移出の易きに走るといふ状態で、海外發展の道は否塞の一方を進るのみであつた。而かも同年我が東京には平和記念の博覽會が開設せられ、製茶の宣傳も國內販路を専らとし、意を海外に用ゆることは比較的薄かつたのである。

この平和博には、當時御來朝の英國皇太子殿下が四月十八日を以て御成りあり、茶業役員關係として松浦五兵衛、織田利三郎の兩氏、殿下を奉迎し、場内平和館に於て拜謁、輸出向綠茶二斤を献上御嘉納を賜はつて居る。

海外運賃の問題は、本年更に一段の混亂状態を呈し、海運界の不振に乗じて、有力なる競争船各方面に現はれ、之が爲め製茶の輸出業者は共に多大の便宜を擱んだ譯であるが、汽船會社側としては何れも血みどろの亂戦ぶりである。即ち日本の沿岸から米國太平洋岸各港に到る運賃は、内外協定船の合議により、前年の八弗を六弗となし、五月一日より實行することにはなつたが、協定外の三井船舶部では、四弗といふ安値で積取り、他の同盟外船舶もそれ／＼最極限の安値を以て積み取りに應ずることになつたので、同盟社船中にも、苦しまぎれの三弗五十仙オライと出るものがある。

り、已むなく同盟側は一且決定の六弗を崩して五弗としたが、この關門も中々維持が出来ないといふ實狀に、郵船の如きは一時製茶の積取を中止した程であつた。その後三井も漸く手を引いたので、競争や、平靜に復し、五弗積取りに引戻す協議を試みたが、又々外部から擾亂されてはといふので、遂に四弗協定で局を結んだのである。これを過ぐる八年の最高三十弗に比すれば約八分の一といふ激落ぶりである。

この年の茶況を見るに、靜岡市場あたりでは、中以下の品が好況で「燃れ番茶」の稱ある下等茶が活潑なる賣行を呈して居た。これは、上茶が圖抜けて高く、一般向は燃れた番茶で我慢するといふ風であつたが爲だ。従つて輸出茶に需用先の苦情が来るのも當然で、同年十二月、在紐約西商務官は、日本茶の輸入拒絶に關し、左の如き報告を外務省通商局に寄せて來た。

今より約三ヶ月前(同年九月)カーターメーシー商會の輸入にかゝる中等茶二百五十箱が、「STEM」夥多の理由を以て輸入拒絶に遇ひ、公訴中の處、米國商務省に於て再検査の結果拒絶と確定し、尙新に他の二口(分量不明)も同一理由にて拒絶したる旨同省よりメーシー商會に通達あり、先に九月中シカゴに於て同じ理由にて拒絶されたる籠茶一萬六千ポンドも公訴確定し、十月中ポートサウンドに於て品質不合格の理由を以て拒絶されたる粉茶二千四百ポンドは今尙ほ公訴中に屬す、斯の如く不合格茶の輸入頻々たるより本邦茶に對する検査益々嚴重に赴くの傾向あり、さなきだに本邦茶の眞價を疑はるゝ今日、我が當業者は深甚なる注意を要す。

こゝに於て、我が農商務省は、輸入拒絶の處ある不良茶取締に關し、靜岡、三重その他主要産地の府縣知事及び茶業團體に對し、取敢ず左の如き通牒を發した。



農商務省の不正茶取締通牒

本邦製茶の輸出貿易は、最近著しく不況に陥り憂慮致居候處、本年度に於ては稍々順調に向ひ、恢復の兆を認められ、聊か愁眉を開かしめ候、然るに一部當業者間に又復粗製濫造行はれ、甚しきは粗悪なる刈落茶(硬葉木草等を多量に含むもの)を混するもの有之、品質著しく下落の徴あるに鑑み、之が對策に關し、先に取敢えず主要輸出地たる静岡三重兩縣知事並に茶業組合中央會議所會頭に對し通牒致置候處、最近在米西商務官より本年輸出製茶中、品質不良の爲め輸入を拒絶せられたるもの尠からざる旨報告有之候、由來本邦製茶輸出貿易不振の原因は其品質の下落と價格の騰貴に有之候事は既に周知の事實なるに、漸く輸出恢復の兆を認めらるゝ今日、早くも右の如き粗悪茶の頻出するに於ては將來に於ける本邦製茶販路の維持擴張上影響する處不尠と認められ候。

貴縣當該官吏をして製茶取締を嚴にせしめらるゝは勿論茶業組合中央會議所及茶業組合を督勵し製茶検査の勵行を圖り違反者は嚴重處分する等の方法を講じ一層之が取締の徹底を期すると共に一般當業者に對しても之が警告を發し明年度新茶にありては粗悪茶の跡を絶つやう特に御配慮相成度依命此段及通牒候也。

追つて粗悪茶の取締り原茶生茶生産茶のみならず再製業者伸買業者及輸出業者等に對しても一様に取締を嚴にするにあらざれば効果尠き儀に有之候條此點特に御留意相成度申添候也。

以上農商務省の通牒はなくも、茶業中央會議所は各府縣聯合會及茶業組合等と聯絡を取り、品質の改善に向つて努力を加へ、木草分離機等の奨勵にも當つたのであるが、こゝに粗悪茶が問題になる時には、些細なる事まで取り上げられて、惡評にシンニウをかけられるもので、米國人の中には『日本の緑茶は銅板の上で乾かすから緑色が浮て緑の色を呈するのだ、随つて日本緑茶は人體に有害である』とあらぬ噂を立てるものがあつて、これが荒唐無稽の憶説に過ぎない

ことを明かにし、彼等をして諒解せしむるまでには非常なる手数を要したのである。

かゝる次第で、海外の需用を相手とする製茶貿易の上には、實に思ひも設けぬ種々の障害が伴つて、この障害を排除しつゝ商權を擴張して出ることには中々一朝一夕の業ではないが、是までの日本茶の粗悪化が、主として内地向に重きをおき輸出を輕んじた所から起つたものとすれば、これを除去するには、矢張りその根本から手當をしてかゝらねばならぬ。かの木草茶問題についても、全國の中心市場たる静岡市の再製業者、製茶取引商人等は『木草多量混入の製茶を賣買せず』といふ決議をなし、この精神の下に縣再製組合及静岡市茶業組合に建議しその取締を要望した。建議書は左の如きものである。

建議書

一、木草多量混入ノ製茶ハ賣買セザル事ニ決議シタルニ依リ貴組合ニ於テ嚴重ナル取締ヲナシ適當ナル措置ヲ施サレシコトヲ。

(理由) 近來茶業界ニ於ケル最大恨事ハ彼ノ摘採ニ濫用シ木草ノ混入ニ介意セザルモノアリト信ズ、吾々再製業者ハ常ニ木草ニ注意シ毎年多大ナル經費ヲ拂ヒ撰除ヲ爲シツ、アリト雖モ、尙且昨年米國ニ於テ木草多量ノタメニ輸入拒絶ノ品アリタル不祥事ヲ耳ニスルニ至リテハ、轉タ寒心ニ堪エザルモノアリ、再ビカ、ル不祥事ニ遇フ事アリテハ日本茶ハ如何ナル深淵ニ沈ムヤモ計リ難シ、今ニ於テ改善ノ道ヲ講ジ、之ヲ防グハ當業者ノ義務ニシテ務ヲ組合當業者ノ取締ニ俟ツモノ又多大ナルモノアルヲ惟フ、依ツテ吾同業者ハ一致シテ木草多量混入ノ製茶ハ、買入ヲ禁ジ、必ズ其實績ヲ舉ゲルコトニ留意シ、萬遺憾ナキヲ期シ居ルヲ以テ貴組合ニ於テ大局ニ鑑ミ決列ヲ制限シ適當ナル取締ノ措置ヲ執ラレシコトヲ切ニ希フ次第也。

當時静岡縣下に行はれて居た製茶機械の種類は、極めて多種多様で、精粗元より一ならず、善惡の別は幾通りにも分れ

て居たが、これを大別綜合すると、粗採機五十一種、葉打機三十八種、揉捻機二十九種、精採機二十三種と數へられ、その臺数は粗採機一四、〇七七臺、葉打機二、〇六九臺、揉捻機三、八六七臺、精採機三、七〇九臺、合計二二、七二二臺（大正十年調）あり之を十四年後の昭和九年度統計に見ると蒸機乾燥機を除き、總計三八、七二九臺に増加し、機械の素質能率に於ても多大の進境を示して居るが、當時使用された機械の多くは、優良なる製品を得んとするよりも、主として製造量の多いことをのみ望んだもので、従つて良品を得られやう筈もなく、殊に不完全なる摘採機を、刈込みの不整一なる茶園に用ゐたのであるから、本草の苦情を四方八方から受け込んだのも無理な話ではなかつたのである。所で、さしにも噴ましかつた、米國の輸入茶拒絶問題も、その真相を究むる時は幾分の割引が必要であつたやうだ。即ち十二年三月、在シカゴ吉田領事代理は、輸入茶禁止問題の真相と題し、左の如く報告して居る。

千九百二十二年（大正十一年）に於て米國輸入茶にして同國官憲の検査を経たるもの八千七百三十九萬八千二百二十一ポンドの多量に達した。この中輸入拒絶の査定を受けたるもの百六十二萬百六十二ポンドで、其割合は一分八厘五毛である。この不合格茶の中百三十七萬千五百六十ポンド即ち一分五厘七毛は品質劣悪なるため、又他の二十四萬八千六百二封度即ち二厘八毛は不良混製品を含有するものである。日本の綠茶が近年著しく減少したのに反し、支那茶の輸入率は千九百十九年以來逐年増加し當年度輸入數量中約二割を占め、又蘭領東印度よりの輸入も略ぼ同額に達した。更に千九百二十二年十二月中に於ける各國輸入茶十九種類につき同國監督官の検査成績を見るに、検査總數量千七十三萬九千七百八十九ポンドでこの内合格は千六十五萬千八百七十五ポンド、不合格は八萬二千九百十四ポンドである。其の内日本茶は八萬八百二十ポンド、廣東烏龍茶二千九十四ポンドである。右禁輸處分を受けたのは、主として製造用茶で、輸出業者は一般飲料用として輸出したものではない。然らば何故飲料として態と検査を受けたのであるかと云ふに、製造工業用とする時は、一ポンドにつき一仙づゝの税金を賦課される關係上、是が脱税を計らうとするに在るといふ。是等の公報が、直に各地の大小新聞雜誌に轉載され或は日本茶に對する競争者側に於て、如上の公報を利用し誇張的廣告を掲げ米國人間に宣傳を試みやうとする者があるので本問題の解決は當面の急務である。

この報告で、何故に日本茶の輸入拒絶が多かつたかの事情は稍判明したが、僅々一ポンド一仙の課税を免れんが爲め、粗悪なる工業用原料を、飲料用として通關を計り、そのため多量の輸入拒絶品を出したるが如きは、實に愚の極と云はざるを得ない。しかし、右の拒絶茶が、飲料用のものでなかつたのは、將來の信用を回復するには多少の便宜となつたであらうと思はれぬでもない。ソコで更に我が中央會議所に於て調査すると、大體左の如き事情であることが判つた。我が日本茶として米國官憲の検査により、輸入拒絶を受けたものは、十一年度前半期に於ては、本茶の合格千八百八十六萬千二百二十八ポンドに對し十萬六千六百ポンドで、三期に於ける米國拒絶茶百六十萬ポンドに比すれば極めて少數であり、尙同期の粉茶にして合格せるもの百十萬千六百五十ポンドに對し拒絶二千四百ポンドに過ぎざる狀況から見れば特に同年度の拒絶茶を以て、日本茶全體不良の宣傳材料とするは敢て當らず、今試みに過去に溯りて之を見るに大正六年以來粉茶の合格、不合格は左の如くなつて居る。

	合 格	不 合 格
大 正 六 年	二、一七二、六七五ポンド	九六七、四八三ポンド
同 七 年	三、一四四、六五七	四五、九三二
同 八 年	一、五三四、〇三六	四二、一四〇
同 九 年	六七〇、二二九	五、〇二〇
同 十 年	四三三、五一〇	—

日本茶業發達の概説

右の數字に徴するも、輸入拒絶の稍目立ちたるは、全く過去の事に屬し、今更事新しく日本茶排斥の宣傳資料に供せらるゝは聊か筋違ひのやうに思はるゝが、これ畢竟日本茶の本草混入問題が彼地の商人に對し、先天的に惡印象を與へ居るの結果ではないか。只脱税問題については信疑未だ判じ難し。

何れにしても、過去の拒絶茶は粉茶に於て以上の如き數字を示して居るが、本草による拒絶茶といふものは、今新たに起つて来たのであつて、大正十一年五月から十二年四月までの一箇年間に於ける統計を見るに、シカゴ、ニューヨーク、ボストン、ポートランド各市場の拒絶數量を合計すると、本草過多によるもの十九萬七千五百ポンド標準茶以下のもの五千二百ポンド合計二十萬二千七百ポンドに上つて居る處から見て、彼の國に於ける日本茶排斥をのみ非難する譯にも行かないやうである。

かくて良茶主義の宣傳から、更に轉じて販路の擴張問題に新しき智恵袋を搾るやうになり。静岡縣の機械業者松下幸作氏の如きは、大正十二年の初頭に於て、早くもアメリカ大宣傳を主張し、當時静岡縣聯合會議所の荷票料一貫目金三錢五厘を十倍三十五錢として、その大部分を大陸目標の廣告費に投じやうと絶叫した。この絶叫から二年にして早くも例の特販事業が開始されたのであつた。

以上の如き形勢で、十二年の前半といふものは、將來に何事かなさうとする過渡の時代として、形勢混沌を免れなかつたが、九月一日突如として大震襲來、關東一帯、日本の心臓部は、一瞬にして無殘なる廢墟と化し去つたのである。

第九 關東大震火災の洗禮

大正十二年九月一日、日本の心臓部たる關東一帯を襲つた大激震は、恐怖の中に火災を伴ひ、帝都を始め、横濱、横

須賀其他の主要都邑を灰燼に歸し、財を失ふこと數百億、人命の犠牲數十萬に達し、酸鼻の極、今尚ほ戰慄を禁じ能はざるものがある。昨日までの大都の殷賑も、今日は一望廢墟となり、人間の持つ凡有る力はその根底より叩き崩されて終つた。東京では木挽町の農商務省が、あの巨體を火災に委し、芝口にあつた我が茶業中央會議所も、火災の中に包まれ、主要金庫を残すの外全部烏有に歸し、下町筋の茶商關係では、日本橋の山本嘉兵衛商店を始め殆ど其總てが灰燼の中に葬り去られ、横濱でも多數の茶商が、市の潰滅と共にその店舗を失つて居る。中にも唯一の外國商館として、この時まで横濱に踏み止まつて居たブランドンスタイン商會も御多分に洩れず同一運命を餘儀なくされ、その後遂に他の商館並に静岡へ店舗を移して終つた。

京濱中心に、潰滅地方に在つた製茶の損害は燒失約三十萬貫、その取引關係者にして資金の回收不能となつたものも少くなく、恐らくは百萬圓にも上つたであらう。

芝口なる我が中央會議所には、當時大谷會頭以下、既に初秋の新赛季を迎へ、二百十日の無事を祝福しつゝ、元氣明朗に執務中、突如として大地の激動に襲はれ、舍屋は倒潰し、次で火災の洗禮を受けた。大谷會頭は老軀を厭はず、所員を勵まし、火の未だ至らざる前、重要書類を整理し、金庫を閉鎖して安全地帯に避難した。一時大谷會頭の行方が不明で、その安否を氣遣はれたが、間もなく何等の異状なきことが判明し、横濱の會頭宅でも家族は一同無事であり、相澤理事、松浦委員その他在京の會議所關係者も大體無事であつた。

倒壊燒失で本據を失つた中央會議所は、一時麻布區筈町松浦五兵衛氏宅に假事務所を設け、災後の事務を執り、次で丸の内通り六號館内常盤生命保險會社内に移り、こゝで執務した。燒跡の金庫内に残つた重要書類は大體無事であつたが、金庫外の書類、荷票等は全部燒失したので、整理に非常の困難を嘗め、荷票は静岡出張所に於て臨時に發行し、静岡縣聯合會議所に於て、之が配付に任じたのであつた。

以上の震火災に對する救護、復舊は、國民全體の一致協力により順調に進行した。茶の主産地静岡縣では、慰問茶として一袋四十匁のものを聯合會議所一萬八千個、富士郡以西の各茶業組合一萬二千個、合計三萬個を調製し、東京方面は日比谷、上野、芝、その他各所の避難民に配付し、横濱方面は、神奈川、本牧、中村、西戸部等から被害甚地に及び、同胞相愛の手を伸ばし、その他茶業者として能ふ限りの力を盡したのである。

個壊焼失の厄に遇つた中央會議所會屋は、去大正七年度事業として、金一萬六千二百六十五圓を投じ、買入修繕したるものであつて、それから五年の後に之を失つた譯だが、中央會議所に於ける震災臨時費は十二年度に於て一萬五百五十九圓を支出し應急の施設整理をなし、越えて昭和三年度事業として、現在の會屋を新築し、その經費一萬二千四百六十一圓を支出した。併しこの建築を以てしては、到底耐震耐火に充分であるといふことは出来ない。將來必ずや絶對堅牢なる會屋の建築を必要とする時が来るであらう。

大震の一撃により、茶況もドン底に陥ち込み、相場も馬鹿安を呼び、一時は極端なる悲觀に襲はれて居たが、静岡市場を中心に、震災後の秩序回復と共に、一般商品も漸次市況を盛り返し、烈々たる復興氣分に炎えて、有望なる局面は展開され、茶業界もまた、内地貿易共に活氣旺盛の狀況を呈し、相場の如きも、震災前の安値を抜くこと一貫目六七十錢といふ、一種の焼太り景氣となり、産地に於る二三番茶の手持品など意外の高値に羽が生えて飛ぶといふ勢であつた。やがてその年も暮れ、災後の第一年を迎ふるに當りこの大國難の洗禮に目覺めたる茶業者に對し、大谷中央會頭は左の如き一文を以て、同業百萬の覺悟を促して居る。

國難後に於ける茶業者の覺悟

大谷 嘉兵衛

關東地方を襲つた大震は、人間ならば丁度頭部に致命的の手傷を負ふたのと同じである。そのために全身萎えられて當分はどうすることも出来ない。これを元の健康体に戻すためには周到なる注意の下に全身的に營養を攝取しなければならぬ。この度の天災こそは國民全體の共同的災厄で眞にこれ國難である。従つてこれが復興は國民全體の共同責任として、舉國一致非常決心を以てこれに當らなければならない。

この時に當り、全國茶業者打つて一丸となり、首尾相應じ、脈絡の連綿を以てする整然たる組合組織の下に於て、我富業者は大覺悟を以て、共存共榮、相互扶助の實を擧げ、内は説意生産の改良進歩を圖り、外は販路の擴張に努め、以て大厄難の經濟回復の一端を扶け、國富の増進に寄與すべきである。これ、何を差指しても時局に直面せる我が富業者の執るべき當然の責務であると信ずる。

先には歐洲戰亂を對岸の火災視……否な他力本願に因る戰爭謳歌の夢に酔ふた我國民も、一朝この大災禍、戰爭以上の自然の暴虐に襲はれ、昨日まで、誤れる戰爭景氣により、全國に瀰漫しつゝあつた虚榮、驕奢、浮華、輕佻、情弱の諸弊も懼然として覺醒されたかの觀がある。憎惡、嫉視、偏執、猜疑、欺騙、狡黠の惡風もこれが爲めに排除せられ、今や國內の人心は、著しく實質、耐忍、寛恕の傾向を帯ぶるに至つた。この時こそ久しく蝕害せられて居た我國人の魂が、この根柢から呼び醒まされんとする絶好の機會と云ふべきである。

全國百萬の茶業者よ。茶業振興を以て、その双肩の重責を果す爲めに、先づその骨髄ともいふべき人心の振起、緊張を圖り、國難を前にして、多年我が茶業界に根強く横はり、改めんとして容易に改めることの出来なかつた積弊を、この機會に於て一掃し、和心協力、克く茶業の根本義に則り、新時代に於ける茶業是を確立し、國家並に新業のため大に奮勵努力するに於ては、我國の茶業はこゝに轉機作福の一大光明を迎へるであらうことを信じて疑はないのである。

第十 市場取引問題と對外爲替の變動

關東大震後の茶業革新については、中央會主關部は勿論全國的に十歩も百歩も前進政策を取つた。本草問題の苦い經驗は、良茶主義に一段の磨きをかけ、『芽を摘め、葉を摘むな』のスコロガンも面白く、『國粹的に良い茶』とか『商ひ向に良い茶』とかいふ新しい言葉も生れ、製茶品評會の審査標準などにも、かういふ新語が盛んに使用されるやうになつた。殊に、震災前より製茶市場に渦を巻きかけて居た、取引改善の問題は、大震と共にいよ／＼表面化し、全國的にその聲が高められた。取引問題として、生産家側から改善を要求されたのは。

一、製茶賣買取引に際し、荷主の負擔となる各種の引物（歩引、見本料、看買料、粉引、荷票料の類）を整理統一する事。

二、製茶代金の決済は舊習を改め全部現金取引とする事。

の二問題であつて、引物の内特に弊害ありと認めらるゝは歩引、看買料の如きもので、見本料の如きは見本取引の場合には自然必要を生ずべく、粉引も實物について、その含有粉の分量を推定し双方納得の上ならばこれを引物に加ふる理由もあるが、只一律一體に、習慣なるが故を以て取引の實體より引去ることは如何にも不合理だといふので、輿論は元より全部の撤廢にあつた。荷票料の如きも、これを以て組合團體の活動資金とするのであるから、生産者のみが負擔することは理屈に合はぬ、商人に於ても當然その半ばを負擔してよいといふ議論も成立つので、從來の延取引を現金取引にといふ要求と共に、買入商人側に取りては随分と手厳しい要求であつたに相違ない。

この取引改善の要求は、極めて合理的であるに拘らず、水い間の習慣であるから一時には實現が困難であつて、外商

連の中にも、速く横濱取引以來の商行爲を改めることの不可能なる所以を説くものが多かつた。ソコで、静岡縣聯合會議所の機關誌『茶業界』は、同縣下の各茶業組合及び全國府縣の聯合會議所並に茶業組合に對し

一、製茶賣買商習慣に就て改善を望まると點如何

を照會し、その回答要目を同誌上に掲載した。回答の主なるものを摘録すれば左の如くである。

岐阜縣聯合會議所 製茶賣買業者間の商習慣に就ては、從來と雖も別に弊害としては無く、この際特に改善を要すべき何物をも認めず。

石川縣聯合會議所 從來本所管内の製茶賣買業者は二百二十匁を一斤として取引したるも、爾後は之を買取扱ひに改むるを要す。

鹿兒島縣聯合會議所 本縣下の製茶賣買は從來の慣例により、卸賣の場合は二百五十匁を以て一斤とし、小賣の場合は二百匁を以て一斤として居るが、今後はこれを他の府縣と同じく買取取引とするか、又はメートル法に改むるの必要ありと認め、その他は特に改善を要する事項なし。

大阪府聯合會議所 製茶の賣買取引慣習の改善としては大體左の如き事項を必要とす。

一、六十日乃至九十日の延支拂取引を總て現金取引に改むること。

二、土地によりて込目、倉敷料、又は手数料或は何々口錢として引去ることは時代錯誤の甚しきものに付き全廢の上各府縣一定の方法により取引を實行すること。

三、仕入は買、賣りは斤とするが如き複雑なる計算を廢し買取引とすれば小賣も百匁單位に改むること。

四、製茶荷物一口二個以上は各其の目方を統一し、精算上の手数料を省くことも取引上改善の事項ならん。

高知縣聯合會議所 製茶賣買商の取引習慣については、逐年改善の跡を示し居るも、尙今後の希望としては、取引を緩漫ならしめず、迅速正確に行はるゝやう改めたし。

愛媛縣聯合會議所 製茶賣買の商習慣について、改善を希望する點は、多々あるも目下の處具體案なし、當業者と仲買商との間に密接なる連絡なく、爲めに多大の損失を招くことあるが如し、是等は第一に改善すべき要點ならん。

奈良縣聯合會議所 生産者と仲買問屋との間に、圓滿なる意志の疏通を圖り、確實なる取引を徹底せしむるやう相互の改善を必要とす。

京都府聯合會議所 本管内に於ては、茶商組合設置以來、漸を追ふて商取引の改善を圖りたる結果、現在に於ては、特に改善を要する事項なきも

- 一、製茶量日の建方を一定すること
- 二、製茶包装、荷造の完全を計ること

などは今後各當業者間に於て改善を期すべき事項ならん。

埼玉縣聯合會議所 従来の取引習慣として略ど一般的に行はれ居るは、取引成立の際、買受人は賣人なる生産者より荷票料及荷造料として一貫匁につき金十三錢を徴收し、尙地方によりては、取引の際、九七又は九八と稱し、一貫匁に付三十匁又は二十匁の目引が行はれて居る。是等の習慣は總てこれを撤廢し、正味且現金取引に改善せんことを希望す。

神戸市茶業協會 製茶取引の方法を改善し、代金支拂に關し各當業者の一顧を煩はすは茶業振興上の必要事であらう。従來製茶を静岡又は其他の地方へ賣却の際、少數の例外はあるも、大多數の商人等は、風袋又は含有粉量不明のため容易に精算すること能はず、従つて半年後にあらざれば決済つかず、而かも中間商人は産地の當業者には支拂を要し、不便と迷惑多大にて、資金は固定し取引活動を欠き、生産家も、問屋も茶業に對して興味を減ずるの恐れあり。こゝに取引改善方法として提唱したきは、

- 一、製茶取引を簡易ならしむる事。先づ風袋は、切付量目を標準とし、その中の一二に對し正否を検し、其平均によりて量目を決定し、含有の粉量も之と同一の方法に依るか、又は値段決定の場合見込により納得づくにて決定するか適宜の方法を取ること、
- 二、取引を簡單にするを要す。現に他の物貨は總て是等の方法により、完全に取引を行ひ居れば、製茶も之に依る能はざる理なし、若し其實行不能の場合は、代金授受に對し一定の期間を設けて決済する等の方法を講ずれば、製茶の取引は面目を一新する

るならん。

以上中央地方の一致協力を以て根本改善を實現したし。

熊本縣聯合會議所 大體左記三項を擧げん。

- 一、取引方法に一大革新を加へ、迅速、確實、簡便を旨とし、世運に順應して落伍せざるやう、正に現代的の活躍を期すること。
- 二、品質に應じて取引値段を定むるに於ては歩引等の必要を認めず、宜しく従来の歩引其他之に類するものを撤廢し、單純確實の取引慣習を養ひ、歩引等各種の口實の下に行はれた不正の手段を防止すべきなり。
- 三、代金の授受を迅速ならしむる事。

三重縣聯合會議所 本縣下の製茶賣買については、從來適切なる施設なかりしたため、商權は地方商人のために自由にせられ、生産業者は多大の不利を招き、一般茶業發展上に弊からざる影響を及ぼしつゝあるを以て、縣下各郡に集散の適地を選定し、共同販賣市場を設置し、生産家の利便を圖り、漸次取引の改善を期せん。

滋賀縣聯合會議所 取引改善意見左の如し。

- 一、從來内地用として東京に發送する製茶は、茶商に於て仕切勘定の際五歩の口錢を引去るを常とす、この口錢も委託賣買に係るものは當然ならんも、自家の小賣又は適宜に配合して他に販賣するものは委託の範圍にあらずと認めらるゝを以て、斯の如きは此際撤廢すべきものと認む。

二、荷票料は其縣内の製茶改良事業費の財源として最も重要な地位を占む、この故に其縣内の商人は料金を拂ひ荷票を貼用し他縣へ搬出し居れり。然るにその搬送先に於て更にその縣の規定による荷票を貼用するとせば正に二重の負擔となるを以て、他縣に於ける荷票の負擔はこれを撤せんことを望む、若し撤せずとせば、前以て縣と縣との間に了解を得たる上にて行はれたし。

三、製茶小賣店にて販賣する茶路、即ち正喜價、喜價、花桶の如きは、全國通有の茶路として數百年來最も深き印象を有す、然るに往々この茶路を濫用し、正喜價は二圓以上の實價を有するものなるに拘らず一圓廉賣を唱導するものあり、若しこの一圓の正喜價が實價上二圓の價値を有せざるに於ては正喜價の茶路を濫用し世間の目を欺くものなり、需用者は、この茶路濫用に接し、

昔ながらの正喜撰の品質低落に驚くと共に、他店に於て販賣する本物の正喜撰の二圓を高價なりとし、茲に重大なる錯誤と疑惑を生ずるに至るべし、全國茶業者の茶路尊重を切望す。

静岡縣下代表的意見

一、引物の統一を圖ること

従來製茶取引に對し荷票料、見本料、看買料、歩引、粉引、伸買口錢等の引物區々一定せず、甚しきは一部落、一村村内に於てさへ差異あるを認め、生産者は常に取引に疑惑の念を抱き煩瑣に妨げられ、賣買圓滿を欠くは甚だ遺憾なり。今や茶業刷新を必要とするの秋に方り、是等の統一を圖るは目下の急務ならん。

二、現金取引とすること

茶業近來の發達は商取引をも複雑ならしめ、従來信用販賣を以て誇りとなしたる取引も、却つて信用の機を惡用するに至りて延取引の弊を大ならしむ。將來この弊を改善するには現金取引となすの外なし。

三、商人側の言分

製茶取引は逐年惡化し、商習慣上改善を要すべきもの多きは言を待たず、然れどもこの事は茶商のみにては萬全を期する能はず宜しく取引の第一歩たる生産家對製造家の生業取引に於て之が改善を始むべし。製造家は市場に於て幾多の商人に拜見せしめて高値落しに取引をなし、商人は餘儀なく買價價格を無視して釣上値段に買入れ、相場の變動に遇ふや、代金支拂に窮するの結果となる。従つて荷主たる製造家に於てもこの邊の事情を了解し生業取引より改善し、双方安心して取引の圓滿を期するを要す。

以上取引改善に關する各方面の要求には頗る切實なるものもあるも、多年の慣習は容易に之を抜くこと能はず、生産者としても、引物などには頓着なく、五錢でも八錢でも値のよい店を引合つて高値落しに出るといふ有様で、商人側も自然にこれに追隨の氣分を啖らるゝやうな結果となり、改善の必要なることは互に之を認むるも、サテ然らば、何處より之を始めるかといふと、手の付け處に困難を感ずるといふ實情である。従つてこの問題は、非常なる不況とか、業界の轉

換期とかには、必ず一種の過渡的色彩を以て起つて來るのだが、いつでも蛇の生殺しのやうに、最後の解決に到達せずして終るを常とし、今も尙ほ時々發作的に起つて來るのである。

處でこの年に於て最も特異の現象とするは、過ぐる明治三十年、日本が金貨本位を採用したる以來、對米爲替の如き大體平貨の四十九弗代を維持し、大正五年世界戦争による日本の經濟勃興ありてより更に五十弗を突破して黃金時代の八年まで繼續、九年の大バニツクから四十九弗乃至八弗に落ちた。それでも十二年の震災前までは四十八弗八八を維持して居たが、十三年には俄然、四十二弗に落下し、十四年には更に四十弗に落ち、その後日本の金政策に變改を來せる毎に、上下し、昭和六年の金再禁止から慘落二十弗代に没入し、貿易界に幾多の波瀾を卷起すに至つたものであるが、始めて爲替安を経験した大正十三年には、高い日本茶もどうか他國茶と太刀打が出来るかと思はれ、何れもこの機を逸せず輸出界に進撃すべしと意氣込んだものである。四十八弗八八から、四十二弗に急落した對米爲替により日本茶の値違ひを比較すると、十二年に百圓のものは、十三年には八十七圓で仕入れが出来るから、百ポンド十三圓の差を生じ、一貫目では一圓八錢安いことになる。この割合で計算すると、百ポンド七十圓の茶では一貫目七十五錢安くてよく、同じく四十七圓のものは五十四錢安くてよい勘定になる。この爲替關係は、後の金解禁及び再禁止等によりて京都度直接の影響を受けたこと勿論である。茲に明治初年以來の、對外爲替の價額對照表を掲出する。

歷年對外爲替相場建値表

(貿易年繼に依る)

	紐育(百圓建)	倫敦(一圓建)	巴里(同上)	柏林(同上)	上海(百圓建)	孟買(同上)
明治(以下同内)						
七年	101.558	100.00	55.26	1	1	1
八年	96.70	100.00	50.11	1	1	1

昭和		一		一		一		一		一		一		一		一		一		
年	月	年	月	年	月	年	月	年	月	年	月	年	月	年	月	年	月	年	月	
八	年	七	年	六	年	五	年	四	年	三	年	二	年	一	年	一	年	一	年	
二五・七五		二〇・七五		一八・七五		一七・七五		一六・七五		一五・七五		一四・七五		一三・七五		一二・七五		一一・七五		一〇・七五
一〇・四七		一〇・三三		一〇・一九		一〇・〇五		九・二一		八・三七		七・四九		六・六五		五・八一		四・九七		三・一三
一		一		一		一		一		一		一		一		一		一		一
一〇・四八		一〇・三三		一〇・一九		一〇・〇五		九・二一		八・三七		七・四九		六・六五		五・八一		四・九七		三・一三

多事ならんとする十三年には、爲替關係の大なる動きと共に、米國紐育『茶及珈琲貿易雜誌』主幹、ウヰリアム、エツチ、ユーカース氏が、世界茶業全書の資料蒐集のため、五月來朝、茶の廣告問題を吹込み、臺灣を訪問後再び内地を通過して歸米した。ユーカース氏の訪問を受けた日本の茶業界は、對米廣告の必要を痛感する一面印度茶の對米宣傳に刺戟され、遂に翌十四年を以て、五箇年繼續の大廣告戦に火蓋を切つたのである。既に世界の戦時氣分などは跡方もな

く消え去りて、海運界も依然として振はず、十二年はパナマ運河經由紐育直行運賃を十弗で協定したが、桑港經由陸上送りに攪亂されて思はざる苦酸を嘗めたので、十三年は東洋汽船、郵船、カナダ太平洋汽船、アドミラルライン、ブリユー・ファンネル、ストラザバーレーの六協定會社に於て、桑港迄の海上運賃のみを五弗と協定したが、是とても他の競争船により荒されて終ふといふ状態で、運賃の協定などは、到底完全には行はれさうにもなかつた。

かくて茶業は世界的に新時代に入らんとし、米國加州大學に於て、綠茶中に多量のピオス（人體の營養素）を發見したることが問題となり、我國に於ては、農博鈴木梅太郎、醫博三浦政太郎兩氏の研鑽によりて、ヰキタミンCの含有が認められ、綠茶の藥効問題は世界の學界を動かすの勢ひとなり、兎角退嬰勝ちの日本茶業者も大に之に力を得、ヰキタミンCの問題を提げて、對米宣傳にも臨むことゝなつたが、一方には又米國に於て排日移民法が制定され、日米間の紳士協約を蹂躪して、日本國民に對しその門戸を閉鎖した結果として我が駐米植原大使は『重大なる結果を來さん』と絶叫して、全米國民の神經を刺戟したことがあつた。當時この問題に關聯して、我製茶貿易にも重大なる影響を及ぼすであらうと、尠からず恐怖の念を抱いたものであつたが、移民法と製茶の買入とは全く別問題で、この年新茶以來對米送荷の減じたのも、全く船繰の都合で、決して國際上憂慮すべき状態にあらずとの説明に、一般も漸く安堵の胸を撫でおろしたやうな次第であつた。

併し内地には、貿易市場の目を欺かんとする『黒い茶』の製造などが、産地の静岡地方に起り、故意に煤煙を加へて黒味を増したり、さなくも、揉捻を必要以上に多くして黒くしたり種々のインチキ方法を用ひて、日本茶特有の濃綠色を出さんと努め、そのため著しく不正に傾くものが多いので、各組合當局は之が絶滅に苦心を拂つたこと勿論だが、是れと同時に、米國方面に於ても、日本茶輸出振興の問題が講究せられ、十三年六月在シカゴ吉田領事より、日本茶業者に對し特に左の如き方策を授けて來たのであつた。

- 一、當國各洲に於ける緑茶分布状況を精査し未だ普及せざる地方に對し適當の宣傳を試むる事。
- 二、本邦生産業者より輸出向製茶一封度につき若干の醸金をなし之を海外販路擴張費に充當する事。
- 三、製茶機械を改良し生産費の軽減に努むる事。
- 四、荷造方法を改善し半封度又は一封度包とし本邦茶の効用及使用法等の説明書を貼附し置くこと。
- 五、臺灣烏龍茶と緑茶との混合茶を研究し當國人の嗜好に適する製品、例へばサラダ茶の如きものを供給する事。
- 六、本邦當者の業共同出資に依る製茶改良調査機關を組織し製茶取引販賣、荷造、運送方法を研究する事。
- 七、茶の香氣を保存し併せて濕氣の侵入を防止する爲め錫紙等を使用し、尙荷造方法は量目軽く且つ堅牢なる材料を選定する事、木箱は外觀は立派なるも徒らに重き爲め破損し易し。
- 八、製造茶と混合茶の區別を嚴重に取締る等なり。

第十一 對米五箇年繼續の大宣傳 (其一)

大正の年代も漸く進み、世界戦後の創痍未だ全く癒えざるも、時代は既に轉換し、大震の洗禮より醒め來れる、帝都の面目は次第に改まりて、こゝに多事なる次の時代に入らんとして居る。日露の修交は十四年の初頭に微笑みの光を送り、上海經由ながらも、日本緑茶によりて貿易の先驅が華やかに描き出されるやうになつた。鈴木農博、三浦醫博の共力による緑茶ウキタミンの研究は、更に進んで、山本農學士によりウキタミンAの發見に及び、尙ほBもりも幾分含有し居ると稱せられ、京大箕和田博士の研究では、糖尿病に特效あることが明瞭となり、その他藥効及び榮養素としての價値意外に多方面に涉るといふので、今や全く世界的驚異の存在たるに恥ぢず。海外宣傳に對しても新しきスローガ

ンの出で來つたことを喜ばれたものである。

この年五月十日には、畏くも 天皇 皇后銀婚の御盛儀が擧げさせられ、大谷中央會議所會頭は、全國百萬の茶業者を代表して、奉祝の誠意を表し、宮川香山作、眞葛齋青磁釉鳳凰模様の花瓶一基と、瑞松の盆栽一對とを献上して御嘉納の光榮に浴して居る。我が皇室に於せられては、國內主要産業として特に製茶を重んぜられ、養蠶と共に何くれと大御心を垂れさせられ、後ちに昭和五年には、天皇静岡縣の牧野原に行幸、茶園の栽培、摘採及びその製造等に對して畏き天覽を賜はつて居る。日本特異の産業として、我當業者は飽までこの光榮を體得し、茶業の本據を守らねばならぬ。ハ既に一面には對露製茶輸出の端緒が開かれ、浦鹽の茶トラストがソヴエート製茶局の命を受け、上海のアーウキン、ハリソンキング商會を經由して、静岡市場のアーウキン商會に對し試験的の注文を發し、十四年二月緑茶一千箱六萬ポンドを横濱出帆の筑波丸で發送した。是れ元より露西亞向の水先案内に過ぎなかつたが、南露コーカサス方面の住民には日本緑茶もその嗜好に投じたるが如く、爾來急速に發展して、新製のグリ茶は、懸賞募集によりてこれを玉緑茶銘に改め、その後の新販路にも盛んに供給するやうになつたのである。而してこの對露進出の時を同うして、對米五箇年大宣傳が開始され、中央會議所は静岡縣聯合會議所と共に、特販機關を設け、荷票料を増徴し(中央會は輸出茶第一種一個二十四錢を増徴、静岡縣聯合會は荷票料一貫目三錢五厘を八錢に増額)第一年の豫算二十二萬七千圓(中央會八萬七千圓、静岡縣聯合會十四萬圓)を計上、『日本緑茶販路擴張聯合特別委員會』の名稱の下に、七月十一日その第一回委員會を開き、大谷總裁中村委員長以下内外各委員出席、互に腦漿を搾り、先づ第一年は十五年四月より、シカゴを中心とする有力新聞への廣告に主力を注ぐことに決し、米國廣告業者の見積書を徴し、タムソン商會を選んで各新聞との折衝を之に一任したのである。

以上の特販事業は、過ぐる大正三年以來、中央會が別途會計として行ひ來つた海外販路擴張事業を、更に一段と擴大

強化せるもので、毎年四萬圓程度の別途支出は、十四年度以降その三倍の十二萬圓とし、之に静岡側の十八萬圓を加へ、年額三十萬圓を以て之に當るといふ大計畫である。新たなこの負擔は茶業者としては相當の苦痛ではあるが、一部には、尙ほこればかりの金では何事も出来ない。大印度の進撃に對抗するには、少くも年額五十萬圓、充分をいへば百萬圓を投じて、米國中を大暴れに暴れ廻る覺悟でなければ駄目だと唱ふるものさへもあつた程で、この對米宣傳は當時我が茶業界に一人の異議を挟むものもなき強烈なる輿論であつた。従つてこの事業は、その輪廓が非常に大であつたに拘らず實行はトン／＼拍子に進んで、宮本、石井兩特販幹事が第一回の渡米に於て、新聞廣告案なども極めて迅速に而かも巧妙に出来上つたのであつた。

先にこの大宣傳計畫が、米國に傳はるや、十四年七月、在桑港の武豐總領事は、日本茶振興策につき、左の如き報告を外務省に寄せて居る。

在桑港武豐總領事の報告

茶は生糸及絹製品に次ぐ重要な米國向輸出品にして、其額も外國輸出品中年々八割以上を占むるも、近年賣行漸次減退し、一九二二年の九百五十五萬弗、一九二三年の九百十七萬弗に對し、一九二四年は六百二十萬弗となり、此儘に推移せば米國向輸出茶の將來は頗る悲觀せらるゝ状態にあるを以て、何とか現状の轉回策を講ぜざるべからずとは、當業者の等しく謂ふ所なり、今綠茶の米國に於ける需用の減じたる理由を考ふるに、それは種々あるべきも、第一は廣告及宣傳の足らざることその最大原因なりと稱せらる。目下米國にて綠茶と同一性質の下に、多く使用せられつゝある珈琲及紅茶に對し、商人は莫大の經費を惜まらずして廣告をなし、従つて綠茶の領域を蠶食しつゝありとの事也。最近本邦茶業者間にて日本茶の振興を計らんがため、米國に於て大に廣告及宣傳をなさんとの議ある趣なるが、這是漸次下向きつゝある斯業のため慶賀すべきことなりと信ず、第二は茶の値段が高價となりたりとの事なるが、日本の勞働賃金の上るに従ひ、生産費の嵩まるは當然の事なるも、徒らに安價品を製造し品質を下ぐるは注意す

べき點なりと思考す、尙ほ近年の傾向として、上等茶が比較的賣行良好の由なるが、日本茶の眞味は上等茶にあるを以て、此方面に力を注ぐこと肝要なりと思はる。第三は食物との關係なりと云ふ。元來日本食には綠茶は缺くべからざる飲料なるが、洋食に對しては綠茶は性合一致せざる感あり、是れ根本に於て日本茶のハンディキャップにはあらざるか。但し同一物には飽き易きが米人の常癖なれば、珈琲、紅茶を常用するものも、場合によりては綠茶に来ることなしとすべからず。従つてその方面の宣傳をなす必要あるは勿論なるも、夫にも増して今後推奨すべきは、寧ろ午後後のティーパーティー。朝食前後の飲料若くは事務勞働後の休養等に使用すること、及び日本茶の特長は清快の情味、心氣の昂進、高尚の氣分等を起さしむるものなることを宣傳するにありべし、兎に角茶の使用に關しその方法と、場合とを米國人に周知せしむるは、今後の宣傳及廣告として留意すべき點なりと思考す。

尙ほ昨年来加州大學のエイ、ディー、ハウトン博士のピオス、本邦鈴木三浦兩博士のグエタミンCなどは宣傳上の好材料たるべし。更に同年九月在シカゴ帝國領事田村貞治郎氏は、宣傳の効果と品質の改良について、左の如き痛切なる進言を外務省に送つて居る。

實貨包裝標語の一定 本邦茶需用維持増加の目的を達する爲には、或は検査規定を設けて品質劣悪なる茶の輸出を防止し、或は現在の本邦茶需要減退の重大原因の一と認めらるゝ機械製茶中に混入する莖の除却を計る等、實質的方面に注意を拂ふことが、根本的に重要な言を俟たざる處なるが、餘例へば印度茶に於ける「リアトン、プレックファスト」等の如く、最も記憶し易き商標語を設けて、或は是に第一號、第二號等の段階を付し、右の數語を以て米國內何れの食料品店に至るも、同質同容器の本邦茶を購求し得るに至らしめ、且右商標語の宣傳普及に努むるに於ては、單に日本茶なる普通名詞を用ひ、其實質及び販賣包裝等區々多なるに比し、其普及に大なる影響あるべきかと思考す。

消費者と小賣業者を目的に 茶の宣傳に關しては、一般消費者を目標として之を行ひ、自然に需用の増加を計るべきは勿論なれども、更に一面に於ては小賣業者をして、他國産茶の販賣よりも、本邦茶の販賣に於て、より多くの利益を獲得せしむるやうにして、取扱獎勵の途を講ずることは憶かにその一策たるべし。更に廣告の方法等につきては或は觀光客の來往繁多なる場所に於て日

本茶の試用を薦め、或は新聞雑誌に廣告をなす等幾多の方法あるべきも、結局は凡ての商品に共通なる廣告術を用ゆるの外なく、従つて斯る方面の廣告は、相當監督の下に専門的の廣告業者に委ねるを最も賢明なる策なりと思ふ。

南歐人の需用に努めよ 當地に於ける日本茶の最大取扱業者アークン、ホイットニー商會副社長アト、ウォーター氏の意見を貰したるに、本邦茶の需用は在米南歐人種の將來的嗜好に俟つものにて、北歐人種間に之が需用を擴めんとするもそれは不可能なり。従つて現在本邦茶商の最も努力すべき點は、右南歐人種の需用の維持擴張に在り。是が需用減退の最大原因は機械製茶に木葉等が多量に混入する爲め、品質の全體的低下と誤解せられたる所であり、故に是等の缺點を除去し、品質の向上に専念することは刻下の急務なりとす、更に印度茶の宣傳方法は専ら新聞により、而も多大の効果を挙げ居る事實より見て、本邦茶の廣告も亦需用の最も多き農村民の愛讀する新聞雑誌等に、挿入の廣告を掲載せば、簡單にして有効ならん、『茶及咖啡雜誌』の如き卸賣業者を目標とする雑誌の廣告は効果尠かるべし。

本露の徹底の辨除 クリブランド在住日本茶商同某より、同市の最大日本茶輸入業者ウイドラ商會の重役バンルーイ氏、ウキリアム、エドワード商會重役ジエー、エー、フラーネー氏の意見が、期せずして、宣傳よりも品質改良にありといふことに一致せる旨報告し來れるが、是も參考として最も有力なるものならん。即ち。

現在米國に輸入する日本茶の約七割は中西部に於て消費せられ、中にはクリブランドを包含するオハイオ州及びミシガン州は、之が最大需用地域なるを以て、同地當業者の意見は相當參考とするに足るべく、シカゴに於ける大輸入業者アークン、ホイットニー商會重役の意見とも符合し、宣傳のための廣告もさる事ながら、品質の改善はそれよりも刻下の急務なりとし、殊に日本の三番茶四番茶などは品質最も劣惡にして日本茶の聲價を傷めること甚だ大なるものなり、是等の劣等品は寧ろ輸出を差止め一番茶二番茶に於ける優良品を輸出し、これによりて、大々的の宣傳を試み需用の喚起に努むるが捷徑ならんとは、右兩氏の意見の主要なり。之に依りて之を觀るも廣告宣傳の必要元よりその所なるも、更に必要なる先決問題は輸出茶の品質格付程度を高め劣惡茶の輸出を差控へ、以て海外に於ける日本茶の聲價を高むるに在り、即ち内地に於て當業者舉つて品質の改善向上に努め、特に目下問題となり居る機械製茶中の木葉除去に最善の努力を傾注せば、廣告宣傳を効果的ならしめ、需用の減退を回復すること可能ならん。云々。

されば既に廣告宣傳の實果を收めんとすれば、その一半を割いて品質の改良統一を勵行するため、生糸と同じく輸出検査を嚴格にし、責任ある良茶の輸出に努むること最も策の得たるものと思ふし、この點特に我が當業の注意を喚起す。

茶のウキタミン問題は、當時天下の驚異たるに恥ぢなかつたが、併し、日本の當業者が、この新發見の力に依頼すること餘りに厚く、これさへあれば、何をしなくても茶は賣れるもの、やうに速断するの弊兆が認められたので、茶の權威者農學博士澤村眞氏は、特にこの風潮を慨し、大正十五年の初頭左の如き意見を發表して、茶業當路者を戒めた。

ウキタミン問題と茶の本質

澤村 眞

ウキタミンCの人間生活に必要だといふ事實には、何等疑ひを挟まないが、ウキタミンCはそれほど稀有で貴重なものであらうか。ウキタミンCを含んだ物は地球上到處に存在する。蔬菜や果實は何れの國土でも殆ど年中之を獲ることが出来る。たとへば寒の地方に於ても、又陸地と隔絶したる航海の船中に於ても人工加温の装置さへ出来れば、穀類を發芽せしめて『もやし』を造ればウキタミンCは容易に得られる。必ずしも緑茶に依るの要はないのである。されば緑茶を以て、ウキタミンCの獨占物の如く思惟し、之を以て唯一の宣傳の具となさんとするは早計に失すと云はねばならぬ。

そも、吾人が茶を用ふる目的何處にあるかといへば、決して痰血病の豫防などにあるのではない。その爽快なる香味によりて味感を満足せしめんが爲めである。故に緑茶の販路を擴張せんと欲せば、矢張り茶の香味を改善し、優良なる品を作り之を廉價に供給する法を講ずべきである。茶業者の努力を要する點は實にこの二事にあるのである。萬一緑茶にウキタミン存在の事實を發見したのに安心して、單にこの一事に頼りて茶業の前途を開拓せんとし、製品の改良や、價格の低下を計ることを忘るゝに於ては、我が緑茶の將來は決して樂觀を許さない。

茶業の開拓亦難いかなと云はざるを得ない。

第十二 對米五箇年繼續の大宣傳 (其二)

對米宣傳の新陣容も漸く成り、いよいよ實行の期を迎へた大正十五年初頭、米國方面からはこれに對する種々なる希望策が矢張り飛んで來る。何れも日本茶の前途を思ひ日本茶のために新しき道を開かんとする熱意に出でざるものはないが、中にも、具體的の成案を以て、米國の實狀を報告し來つたのは、ニュールレアンスの八木領事であつた。その要に曰く。

在米八木領事の報告要綱

一、本年米國に於て行はるべき日本緑茶の宣傳に關し茶業組合は、重に新聞廣告に力を注ぎ其地域を、從來日本茶の賣行きつゝありし地方に局限するやに聞き及ぶも、米國南部各州に於て茶を需用する派は決して僅少にあらず、而かも年々莫大の増加をなし居るが、其種類は紅茶に限られ「アイヌ、テイ」¹として需用するもの大部分なるも、右紅茶需用者増加の主なる原因は廣告宣傳の結果にして米國南部に對し緑茶販路擴張の見込なしとして放棄するは早計なるに似たり。「リアプトン」紅茶の如き當地に於て組織的廣告をなし、小賣店と密接の關係を作り、常に需用者の眼を牽くやう設備しあるも、日本茶は當地及南方各州に於ては、之を求めんとするも小賣店なく南部各鐵道列車食堂の如き數年前途は「メニユー」²に日本緑茶の記入ありたるも今は之を削りたるが如き有様にて緑茶宣傳の餘りに無視されたるは、錫蘭茶に壓倒されるに至りし重なる原因なりとは當地方當業者の均しく云ふ所なり。

二、南方各州に於て、緑茶の宣傳をなすには新聞廣告と共に小賣店を作ること緊要なり。之が爲めには相當大規模なる「グロサリー」³、「チエンスストア」⁴と契約し、之を利用して販賣廣告に従事せしむること最も便宜ならんとは小官の當地着任以來抱懐せる所感なりしが、先般管内出張の途、サンアントニオ市に到り、同地に於て日本緑茶の宣傳をなし居る神宮榮藏氏より聞く所によれば、同

氏は己に「チエンスストア」⁵「ビグリー」⁶、「ウイグリー」⁷に對しテキサス州内を範圍として日本茶販賣に關し商議を進めんとし居る由にて右は最も有効にして適當なる方法と考ふるに付き茶業組合に於ては同氏をして、右の範圍を擴大せしめテキサス州のみならず南部各州に亘る商談をなさしむること必要にあらずやと思考せらる。

(註) 米國に於て最も大なる食料品のチエンスストアは、ゼゲレット、アトロチス、エント、バシフキツク、テイイ會社で、米國各州に一萬二千の同型なる店舗を有し、尙續々増加しつゝあり、食料品チエンスストア協會に屬する店舗の約半數を占む。右協會に屬せざる食料品チエンスストア約二萬あり。ビグリー、ウイグリーは、前記「A・T」に次ぐ大チエンスストアなり。P・A・Tには初めリアプトン茶賣擴張の目的を以て紐育に於て二三の茶小賣店を設けたるも茶のみにては採算取れざる爲め、他の食料品をも賣るやうになし、追々擴張して遂に今日の大をなすに至れるものにてリアプトン會社のコントロールする所なり。

三、サンアントニオ市立公園内日本庭園に喫茶店を設け、静岡製茶の宣傳をなし居る神宮氏は聞きしより存外工合よく且つ熱心に緑茶の宣傳をなし居れり。これと同種類のものをも他の南方各市に設くるに於ては日本茶宣傳上効果多からんも、それは不可能の事なるを以て、寧ろ多年の經驗ある神宮氏の事業を援助し、日本茶宣傳に利用することは頗る有意義なるべし。

四、一月より開會のニュールレアンスの國際商品陳列館日本部出品に關し可然考案を立て、人目を牽く美術的廣告と出品とをなし、六月よりの費府博覽會に對しては、茶業組合は相當組合の經費を支出して宣傳をなすことと思はるゝが、その爲め作製するポスター見本その他廣告用品は、ニュールレアンスの陳列館及びサンアントニオ市日本庭園にも相當分配するを可とす。

五、當地方人のアイヌ、テイイを喫するを見るに、茶の色とレモン及砂糖の味を以て之を飲み、茶の品質の良否などは一尙之を問はざるの傾きあり。アイヌ、テイイ用として日本挽茶は最も之に適する如きも、何分高價にして商賣用とならざるにつき、静岡産輸出茶を以て安價なる挽茶を作る方法なきや、専門家の研究を望む。

この五箇年繼續對米大宣傳に關しては、新聞雜誌の廣告、喫茶店、ポスターその他多種多様の對案が問題に上つて居たが、日本緑茶特有のウキタミン藥効の宣傳に力を加ふべしとの主張多く、先に鈴木三浦兩博士の研究によりて發見さ

れたウキタミンCに關する實際的研究を進むる内、中央會議所囑託農學士山本頼三氏は、その有効成分中脂肪溶性ウキタミンAの存在することを突き止め、これを發表し、學界並に茶業界をして新たな驚異の感を深からしめた。山本氏は十五年の春その説を要約して左の如く述べて居る。

山本農學士のウキタミンA説

茶の有効成分に對する各種の實驗により、綠茶中には脂肪溶性ウキタミンAの存在を知り得るのである。ウキタミンAは主として夜盲症を防ぎ、身體の衰弱を回復せしむるもので、今度の實驗は、未だその有効成分を化學的に純精分離したものでないから、精密なる定量的効力試驗は之を後日に譲るの外ないが、大體番茶、煎茶では治療的價値は二—三グラム、保健的價値は一—一・五グラムの原茶に相當しやう。又綠茶中のカフェイン・タンニン等を浸出し去るも、ウキタミンAは大なる變化を受けないで残り、動物の保健的價値を有するやうである。而して挽茶の寫眞乾枝に對する作用より考へる時は、粉末にしては永く保存に堪えないから、茶の湯に用ゆる薄茶、濃茶も一時に多量を製することなく、原茶で保存し必要の都度攪製して新鮮なるものを用ゐ、且つ鍋竈に密閉し置くは適當の處置である。煎茶には煎茶として煎汁を飲む外に、茶の湯でするやうに粉末のまま、飲み、菓子料理の香料とし、アイスクリームにも使用さるゝとのことである。先に三浦博士の研究によつて從來單に興奮飲料としてのみ知られて居た日本綠茶に新しき別の意義を加へたが、若しウキタミンAも相應に吸收し得らるゝならば、更に新意義を加へることになるであらうか。

我が特販委員會に於ては、既に在米委員をして、廣告方法を研究せしむる一方、幹事宮本雄一郎（静岡縣聯合會理事）石井展一（囑託）兩氏を渡米せしめて具體方法を決定せしむることとなり兩氏は、十五年二月十三日横濱を出帆、シカゴに於て、豫て選定したる廣告取扱業者たるタムソン商會と交渉を重ね、十四年度（施行年度は十五年度）は豫算の關係上シカゴを中心とする地方の有力新聞に廣告することに決し、宮本幹事は、その決定事項を携へて三月四日横濱着歸

朝し、特販委員會に報告承認を求め、四月より廣告の掲載を開始したのである。當時宮本幹事の歸朝報告は左の如くであつた。

宮本特販幹事の歸朝談

今回米國に於て行ふ、日本茶の大宣傳に就ては、タムソン商會で全米に於ける日本茶の消費状態を調査し、尙ほ新聞雜誌の讀者分布をも調査した結果、タムソン商會は日本茶の新しい飲用者を得るためには、新聞よりも雜誌に廣告宣傳する方がより効果的であるといふ結論を得たが、雜誌では廣告料が十七萬五千弗を要し、十四年度の特販豫算二十萬圓（米貨換算九萬弗足らず）では到底實行が出来ないので、更にタムソン商會に交渉し一ヶ年八萬五千弗の廣告料金を以て新聞に廣告宣傳することに變更した次第である。廣告の掲載は、四月十日前後から新聞はシカゴの二新聞を始め、デモスネス、デトロイト、ミネソポリス、オマハ、セントポール、トレッドの七個所で發行する八新聞を選び、一週二回位の豫定で大々的に日本茶の効能を記して宣傳することになった次第である。尙ほこの計畫決定について茶業中央會議委員會に報告した結果、中央會は、若し政府の補助があつた場合は更に廣告費を増額するといふことに決し大に乘氣になつて取敢ず、中央會の十五年度豫算に於て宣傳費原案十萬圓を十一萬五千圓に増額可決した様な譯で其結果静岡縣聯合會でも十五年度豫算は宣傳費十八萬五千圓、中央會分と合せて三十萬圓（米貨十四萬弗）とする計畫であるが、この新聞廣告宣傳が、シカゴを中心として米國各地に行渡れば、日本茶の消費量は現在よりもウシと増加すべきこと豫想に難くない。

かくして日本茶の對米廣告戦は開始された。その効果については各種各様の見方があつて、必ずしも一致したりとは云はれぬが、内外共にその反響の大であつたことは否まれぬ事實であつた。新聞の廣告によりて日本茶の存在を再認識せる米國人は、日本茶を需めんとして頻りに小賣店に照會し來るといふ状態で廣告としての働きは充分にその使命を果して居ると見るべきである。

日本茶の廣告戰開始の直後、米國茶業組合の理事ペイン氏は、臺灣烏龍茶視察の途次、五月十八日日本を通過し靜岡に於て、左の如く語つて居る。

ペイン氏の日本茶觀

米加兩國に對し大々的に日本茶の宣傳運動を開始された事は誠に結構である。併しこの宣傳運動と共に、日本茶の品質向上に關し確然たる方針を樹て、これを具體化するやう邁進することを日本の當業者に強要したい。尤も毎年米國に輸出する二千數百萬ポンドの日本茶中粗悪と見らるゝは、僅かに總量の何千分か何百分の一に過ぎないが、その粗悪茶が、偶々米國の消費者の口に入るため、これが日本茶全體に影響するやうになるので洵に遺憾の極みである。一九二三年（大正十二年）頃までは日本茶も品質の良いものが仕向けられて居たが、併しかの歐洲戰亂中過大の仕向けを爲した事は何としても今日品質の粗悪を來した最も有力なる素因をなして居ると思ふ。當時日本以外の他國茶にもかゝる状況は決して絶無ではなかつたが、其後精一杯に改良を加へたので、最近では全く精良茶のみを輸出するやうになつた。アメリカに於ける一般需用の傾向は、價格よりも品質の良い茶に移るやうになつて居るのだから日本の茶業者もこの點に鑑み、輸出検査をより嚴重になし、アメリカの消費者に自信ある茶を供給することに心掛けられたいものである。殊に日本茶を扱ふアメリカの茶商人が日本茶を取扱つては引合はないばかりか、消費者に對して甚だ申譯ないといふて取扱を中止しやうとする者の現はれて來たことは、最も悲むべきで、この點日本茶業者に於て牢記の要がある。品質検査の問題については、嘗て臺灣の當業者が經驗せる如く、一時多少の輸出減を見ることがあるも、これに屈せず嚴重なる検査を勵行し、益々進んで良茶宣傳の方針に出づべきである。

ペイン氏をして云はしむれば、『日本茶の廣告宣傳も結構だがそれと同時に品質の精良を期することがより大切』とのことであつて、従つて輸出検査の必要の叫ぶるゝことは當然の歸趨といふべく、靜岡縣聯合會に於ては、この問題を祖上にして盛んに官營検査の是非が論議され、賛成論の半面には輸出の検査を以て、我れ自ら我が製茶に不信を抱くものだといふ反對説もあり、又經費の關係もあり、實現の機會は容易に發見されなかつた。所が、米國に於ても、廣告戰術に百パーセントの効果説を振廻す『茶及珈琲貿易雜誌』は、その六月號に左の如き日本茶最負の記事を載せて居る。これは、去る大正十三年、その主幹ウキリアム、エツチ、ユーカーズ氏が日本訪問によりて得たる親善感の現はれとして、幾分割引の要はあらうが、兎に角日本茶に對する一種の見方であつて、各方面が如何に日本茶に對して認識を深めんとするに忠實であるかを知るの證左となすに足るであらう。

米國茶珈琲貿易雜誌の日本茶觀

カルカツタ、ブランタース、ジャーナルの言分によると、日本茶業者等が如何に宣傳に大奮になつても、米國に於ける外國茶との競争に於て日本茶は逆も勝味はあるまいといふのが、斯業に精通した人々の意見であるといふことだが、それは一體何人の意見なのだらうか。日本茶は印度錫蘭茶と競争して困りぬいて居るのは事實ではあるが、米國人の嗜好から云へば、錫蘭茶の次は日本茶である。因習を變更するといふことは容易な業ではない。豫言は危険である。誰か日本茶が、これに復讐すべく舞臺に顯はれて來ないといふことを保證するものぞ。

一時日本茶は米國人の間に最も愛好されたものである。夫れが第二位に落ちたのは、日本自からの過失に基く處が多い。最近まで日本は頑強に此の事實の前に屈服することを肯んぜなかつた。處が本年日本は自國産の品質標準を前期よりも約三十パーセント引上げたことは賞讃に値すといふべきである。斯くして米國政府の標準とせる品質よりも遙かに以上に品位を高めたのである。日本茶は英帝國で生産する茶との競争に、打勝つことは到底出來ないといふやうな、甘たるい事を考へて悦に入つて居ることは、たとへそれが英國人の切實なる願であらうとも、餘り賢明なことではあるまい。總ては事情によりけりである。兎に角何事にも概言とか、豫言とか云ふものは危険である。日本にせよ、英國にせよ、ワキ目を振らないことだ。米國にはマダ／＼各國茶の販路が充分に残されて居る。

この年は米國費府に萬國博覽會があつて、日本茶の宣傳には元より最善を盡したのである。と同時に内地にありては、輸出茶の中心地たる静岡縣の牧野原大茶園が、漸く天下にその名を知られ、徳川公、床次本黨總裁、貴族院議員その他の有力者が續々視察鑑賞を新にし、輸出の宣傳は、一面内地販路の擴張にもその力を分ち、國民の喫茶風習は次第に濃度を加へて行つた。而かも世界的不況の勢は、各種の産業に反映し、海運界も積取貨物を得るに苦しみ、清水港頭に於て製茶荷物の争奪戦を演ずるなど年々の例であつて、従つて運賃の競争を免れず、對米運賃同盟側では、四月米國太平洋沿岸諸港行五弗、パナマ經由紐育行十弗と協定發表したが、一般の形勢は前者五弗の維持が出来ず、六月に至りて四弗に引下げ競争船に備へたる處、川崎汽船は之に對抗して三弗五十仙を以て積取に應じたので、同盟側は運賃の四弗は据置とするも、配船を豊富にして荷役を迅速ならしめ、荷主の歡心を迎へることに腐心したのである。

この間露西亞取引は漸くその輪廓を擴大し、將來の飛躍を約束さるゝやうになり、一方、北阿弗利加の一隅に、喫茶國モロッコが存在することを發見するに至り、日本茶の新販路は、この邊から次第にその端緒を啓くやうになつたものであるが、大正十五年十二月二十五日、久しき御惱の 大正天皇崩御ありて、天地は俄かに諒闇、萬象深き哀しみの裡に、昭和二年を迎へ、若き 新帝の下に、國民舉りて赤心忠誠を致し、こゝに昭和の新政を成した。茶もまたこの新政に乗じて大に成す所あらねばならぬ。全國百萬の茶業者は何れも襟を正して大喪に服し、更に新興の氣運を呼び醒ますんと努めたのである。

第十三 大喪の哀しみより昭和新政へ

大正天皇崩御ありまして、宮中には殯宮祇候の御儀がある。當時静岡縣聯合會議所會頭であり、且つ貴族院議員であつ

た中村圓一郎氏は、議員代表として殯宮の奉拜を差許され、宮中に伺候し、靈輦に咫尺するの光榮に浴し、恐懼感激、抑へ切れぬ悲しみの涙の中に殯宮奉仕を完了した。當時中村會頭の感激談はいはく。

宮中御車寄の傍を通つて東御間に着する。最早あたりに雜音らしきものはなく、森嚴の氣は自から四邊に立籠めて、何とも言ひ難い神々しさである。廣い御殿内には當日奉拜を許された資格ある人々が、何れも聲を呑み、顔を曇らせ、遙かに天上を御慕ひ申上げる臣子としての堪え難き感情を包み、時の到るのを待申上げて居る。多勢の人の匂ひは感ずるが喉一つするものともない。導かれて設けの席につくと、そこには正殿の御略圖が展べられ奉拜すべき位置なども想像することの出来るやうになつて居る。その殯宮の御有様など、彼れ是れと思ひ浮べつゝ、寒さ中にも御下賜の温き紅茶を吸るのであつた。やがて宮内官の先導に従つて、恐るゝ正殿へ參入する。足は重く、頭は自づと下る。御殿内はたゞほの暗く、正面には菊の御燈明がすかにかき照つて居る。最上派がこみ上げて来る。止め度もなく兩頬を走り降るのが判る。一同は大前七歩の所にて最敬禮をなし、引下つて定め席に着いたのであるが、大前の清寂莊嚴は何に譬へんやうもなく、隣席に在るものゝ呼吸が明かに聞へる程であつた。吾等草莽の一臣子が、かくも殯宮の祇候を許され、大前に御通夜申上げることは、誠に勿體なき光榮の限りであつた。かくて色々の感激に身を締めつゝある間に祭官が御供物を捧げて入つて來られた。見るとお茶碗椀の御器から湯氣が立つて居る。これは後で何つたのであるが、昔しからの宮中の御習はしとして、お茶を點て、大前に供へる儀式であつて、一時間位にしてお茶が冷めると、又かくして新しいのと取りかへ、殯宮に獻茶の禮が行はるゝことを知つたのであるが、皇室とお茶との深い因縁も、我等日本國の茶業者に取りて誠に畏れ多く、吾等はいよゝゝ茶の眞意義に徹底して、茶の徳を發揮することに努めなくてはならぬことを思ふものである。

『百姓昭和なれば萬邦協和す』(書經)が、昭和の元號を生んだ。茶の品質問題も、またその販路問題も、百姓昭和より出で、萬邦協和に至るべきの理を免れぬ。我等茶業者は飽くまでこの心を以て進まなければならぬ。『安くて優良な日本茶を廣告しても、それが高くて粗悪な日本茶であつては何にもならぬ』といふ聲が起つて、品質問題は依然として昭和の新世にも延長されて居たことは何とも遺憾の限りである。従つて、前年來問題となつて居た、輸出検査の實現に向

つてもいよ／＼表面的の運動を起すに至つた。即ち、二月静岡縣の聯合會定時會に於ては『製茶貿易の振興を圖るため海外輸出製茶検査を農林省に於て緊急施行せられんことを請願するの件』を建議案として可決して居る。しかし官營検査は、云ふべくして中々行はれない。只その聲を大にして、生産家の自覺を促すの資となすに止むるの外はなかつた。昭和二年二月の中央會定時會では、役員の変更を行ひ、組合創設以來の大御所である會頭大谷嘉兵衛氏の昨年来の辭意を容れ、副會頭尾崎伊兵衛、理事相澤喜兵衛の兩氏も去りて、新に松浦五兵衛氏を會頭に、大原重右衛門氏を副會頭に選舉し、理事は後れて評議員會で三橋四郎次氏を推舉した。大谷前會頭の茶業界に盡したる功勞は、逆も筆紙に盡し難く大谷翁は、全身これ茶を以て固められたともいふべく、その魂は寸刻と雖も日本茶から離れて居なかつた。埼玉の香宿繁田武平氏の『大谷翁を送る』の一文は、この巨人の全貌をよく説明して居る。その要に曰く。

繁田武平氏の『大谷翁を送る』要綱

自分が常に崇敬の的として、又處世の鑑として、高教を仰いで来た人が三人ある。第一は湯澤子、第二は田尻子、第三は大谷嘉兵衛翁である。茶業に關する高見については常に大谷翁の高遠なる識見に心服し、誠を以て貢ぐ人格の光には遠く及ばないながらも常に私淑して居つた。翁は嘗て、内親王御生誕の報に接するや、足痛に悩まされて居たに拘らず、献上品を携へて祝賀に参上し、その爲め數月間起つ事能はざる程の病體に陥つたこともあつた。自分はこれを聞いて感激に堪えず『忠誠の權化』と題して或方面に發表したこともあるが、輕佻浮薄の世にありて實に稀に見る人格者である。茶業行政に力を盡されし事既に五十年、此の長年月を一貫して變らざる熱誠に至りては、何人も比肩し得ぬ所であらう。翁は夙に『茶業の改良は人の改良に始まる』との主張より『以誠率實』の四字をモットーに道義觀念の鼓吹に努力せられた。さうした一面には佛教にも深く歸依されて、何事につけても信仰の觀念を以て富られた。内に剛氣を蓄へ、而も外に愛嬌を失はず、外國より賓客ある時には、態々老體を船内に運んで應接せられるといふ篤き情誼を持たれて居る。嘗て七十四銀行が破綻した際には、當時重役の椅子については居られなかつたが、私財を投じて

救済に努められた。その高潔なる心事は今日の實業界に珍とする所、自分は先考以來翁の懇情を蒙り屢々教へを仰いだ事に對し深く感佩を禁ずることが出来ない。

翁は昨年の中央會議で會頭辭任の意を表明せられた。當時吾々はこれを以て終耳に水となし、驚愕周章措く所を知らざる有様で、吾々一同は翁に懇請し、今一年名譽會頭として留ることの承諾を得て一時は安堵したが今年はどうすることも出来ぬ。殊に翁の辭意いよ／＼固く遂に引退を餘儀なくされて終つた。この茶業多難の際、吾人大谷翁をその第一線より送り去ることは誠に惜しみても尙餘りある惜しさである。こゝに吾々は翁の意志を繼承し飽くまで茶業振興のために戦はなければならぬ。

大谷翁去りたる後は松浦、大原、三橋の新トリオを以て、我が茶業界は新なる航海に發程した。元より前途は多難であるが、一方には對米宣傳を繼續し、一方には新販路の開拓につとめ、ソヴェト聯邦への進出は勿論、北阿、近東地方にも着々として探りを入れ、何れも相當の當りを感じて居たのである。この年四月には若槻内閣倒れ、田中新内閣によりて、一時的ながらモロトリアムは布かれた。しかし茶期には未だ早く、幸にも金融上大なる影響はなかつた。對米製茶運賃は、同盟側に於て協議の結果、同盟船にのみ積むものは太平洋岸諸港四弗、パナマ經由紐育行九弗とし、その他のもは前者五弗後者十弗と協定し、六月までの船繰を決定した。かくして對米製茶の運賃は、大體に於て四弗より五弗の間に落付いたものと見らるゝに至つたのである。

九十一翁の狂歌大倉大倉鶴彦氏は、この年静岡縣の大茶園牧野原に遊び『かくはしき趣味も交りて駿河路の茶畑はみな國の公園』と詠んで地元の人々を喜ばせた。實際牧野原は今日に於ては、天下の公園たる素地を充分に備へて居る。日本茶には馴染の深い、紐育の『茶珈琲貿易雜誌』主幹ウキリアム、エツチ、ユーカーズ氏は、日本茶に對し是迄にも屢々警告を寄せられたが、日本茶の生命を守る點につき、左の如き味多き警告を寄せられた。曰く。

昔バゲットの町の高齡なる一人の智者が多くの若者達を呼んで言ふのに『青年よ、市場にある色々の品物の中に含まれる錢や

金で買はれない尊い要素といふものは其品物を製造する人の名譽と誠實とである。それだから物を買ふ前に先づそれを造つた人の名前を考へる事だ」と、この警めは、日本茶に對してもいふことが出来る。即ち日本茶を造る人々は自らその名譽と誠實とを考へなければならぬ。

名譽と誠實とを眞の内容とする日本茶ならば、ユーカーズ氏の言を待つまでもなく、是は確かにアメリカ市場に歡迎せられるであらう。この名譽も誠實も經濟事情の變化により、生産費節減の必要上機械の濫用に陥り、遂に救ふべからざる品質の粗悪問題を惹起するに至つたものである。機械の濫用については、前會頭大谷翁が聲を大にしてその不可を叫び、静岡の原崎氏、埼玉の繁田氏など何れもこれに唱和した。牧野原茶業試験場の宮原技師は、

採捻機力を過信して極端に硬葉を摺るといふが如き機械の濫用は、品質上不利を招き易く、徒らに硬葉摘に陥るの弊を助長するものである。

と説き、機械の濫用に關して、一般茶業者が特にこの點に興味を量を加へんことを要望した。この機械力を過信しての硬葉摘は爾來一般の慣習となり、悪風容易に抜き難く遂に今日に迄及んで居るのである。

この間に在りて、對露輸出は着々進暢し、ソヴェート國內に於ては、労働國防會議及び人民委員會の決定により、國營茶業トラストは、之を解散し、同トラストの事業全部をツェントロ、ソユーズ（中央購買組合）に於て引受け處理することになり、東露に於ては浦鹽斯德にある茶業トラスト所屬の茶の計量分工場がツェントロ、ソユーズの經營に移るなど、この組織の變革は各方面に多少の不便を來したがそれは一時的の現象で、後にはこのツェントロ、ソユーズ取扱も通商代表部に移され、日本茶も漸次取引數量を増加して今日となつて居るのだ。このツェントロ、ソユーズ所屬の製茶専門家、ニコライ、イワノヴキツチ、シエバルチエフ氏は昭和二年六月日本に來り、ソヴェート聯邦の製茶需用と日本茶に對する觀察とにつき左の如く語つて居る。

露國専門家の日本茶觀

ソヴェート聯邦に於る茶の需用は、紅茶七種茶三の割合で紅茶は二千五萬ポンドから二千四百五萬ポンドであらうが、その種茶の需用地はトルキスタン等の中央西細亞地方に限られて居る。日本の種茶が聯邦に入るやうになつたのは革命以前の事は別として、最近には一昨大正十四年からで、上海を通じて輸入した。一昨年四十五萬ポンド、昨年四十萬ポンドである。今まで聯邦が何故日本茶を買はなかつたかと云ふと、第一聯邦では、日本で茶が出来るかどうか知らぬものが多かつた。日本で出来る細長い茶の如きは聯邦國民は恐らく茶とは思はなかつたのであらう。日本も從來アメリカ、カナダ方面にのみ注意して聯邦の事に思ひを馳らさなかつた爲めであらう。併し一昨年、昨年、そして今年と日本茶を味つて段々に需用することは、日本茶が南部聯邦國民の嗜好に逼つて居る證據であつて、將來もこの嗜好に深き注意を拂ふことは日本茶業者に取りて最も必要の事であらう。自分は今より二十年前に日本に來たことがあるが、其當時に比較すると非常なる進歩である。世界の産茶國中、日本は一番気温の低い國であるが、それで居ても少しも他に劣つて居ないのは獨特の土質を有して居るからであると思ふ。

日本茶は其形状と色澤とに於ては餘り多く多難すべき所はないやうであるが、香味の不足と木葉の多いのには困る。是は經濟關係から餘儀ないこと、と思ふけれども、支那茶にも錫蘭茶にもそんなに木葉はない。

聯邦で希望する茶といふのは、

一、形状は木葉を抜き丸くよれて居る事恰もコンコン製の如きものなること。

二、水色は澄明なる緑色たること。

三、火入を充分にするは勿論なるも強過ぎざる事。そして炭火の臭ひや焦臭味のないやうにすること。

四、香氣は恰かもバラのやうに穏かに高かるべき事。

五、茶葉はミル芽であること。

等で、値段よりも品質に重きを置くから、粗製茶は安くても需用はない。

第十四 御大典を繞る日本茶の活躍

昭和新政の花々しきスタートに、更に感激の光を與へたものは、三年十一月の新帝御即位の御大典であつた。この御大典を前にして各種の記念事業は計畫せられ、静岡県に於ては、茶園の基本調査を行ひ、統計の基礎を確實ならしむると共に、製茶の大量品評會を開設すべく準備を進め、奉祝の誠意を表すための茶業關係の献上品は各方面より出願あり何れも御嘉納を賜はつたが、特に、静岡県聯合會議所奉獻の、松岡映丘畫伯作「富士茶園圖」は見事なる大福であつた。日本茶の新しい目標となつた露國は、支那南方の廣東政府と通商斷交に陥り、支那茶の露國輸出が一時杜絶となつたので、綠茶は日本より、紅茶磚茶は印度錫蘭より代品の供給を受けて、國民の嗜好を變ぐといふ實情は、日本茶の將來に取りても好機會たるを失はなかつた。この對露取引が漸次有望となるにつれ、日本茶の足跡は北阿及び近東方面にも伸びるの勢ひを作り。昭和二年以來、日本茶業協會が、エジプト、カイロに日本商品陳列館を設置するに際し、我が中央會は、蒸茶、グリ茶、ニブス等數點を出品して宣傳に供した。當時エジプトに輸入さるゝ茶は、年額八九百萬ポンドで、その大部分は支那産綠茶であつた。勿論これは、エジプトそれ自身の需用ではなくて、遠くはモロツコ、近くはアルゼリヤ、チュニス邊へ再輸出するもので、この方面に綠茶の需用あることが之に依つて確められ、漸次その輪廓が明らかになつて來た譯である。即ち外には是等の新販路に對する進出の運動と共に、北米への特販事業に第三年の油を注ぎ更に、内に在りては、中央會前會頭大谷嘉兵衛、前理事相澤喜兵衛兩氏に銀の壽像、前副會頭尾崎伊兵衛氏に對しては金屏風を贈り、三氏多年の功勞に酬ゆるの道を講じ、益々業者の結束を固め、茶業の革新に一步前進を策したのであつたが、この年四月二十四、五の兩日、主産地静岡県を初め全国的に晩霜の大被害あり、中央會は各府縣より、被害の報告を求めた。その大要は左の如くである。

各地晩霜被害の報告概要

告を求めた。その大要は左の如くである。

- 静岡縣** 大井川以東は二十三、四日、以西は二十四、五日最も濃甚なる結霜あり、茶園總面積一萬七千三十一町步中、被害面積八千四百三十五町步（四割九分五厘）に達し、更にこの内一番茶新芽の全く黒赤色に變じ枯凋全滅に瀕せる正味の面積四千八百七十一町步（二割八分六厘）と推定され、一番茶の損害は五十萬貫以上に達して居る。凍害豫防及び善後處置については、聯合會議所を中心に、茶園の管理肥培に最善の努力をなした。
- 京都府** 渡下園の一部及び山間部を除く外殆ど全部に被害を見た。煎茶園の損害減收一割五分、渡下園減收二割で、結霜後の肥培を奨励し、發芽促進を圖つた。
- 神奈川縣** 處により被害の程度を異にするも縣下を通じ約三割五分の減收ならん、結霜後の摘採開始は五月十五日。
- 長崎縣** 氣候溫暖の地とて、他地方に比し被害僅少、大體一割位。
- 埼玉縣** 入間郡西部甚しく平年に比し一割五分の減收、その他は大して被害なし、全縣を通じて一割の減と見るべく、平年の收穫は二十萬貫である。
- 茨城縣** 茶芽の伸育前年よりも一週間進んで居たので被害は相當だが、結局の收穫には大なる影響なし。
- 奈良縣** 二十五日の霜害は發芽が進んで居り、被害面積八百町步、減收一割より三割と見らる。
- 滋賀縣** 被害反別三百三十五町步、是等は縣下を通じて近場所なるが故に、降霜後の天候により被害は案外僅少と見られ、茶樹の回復、發芽の促進に努めた。
- 三重縣** 被害は全縣下に及ぶ、減收は一割より三割で、全縣を通じ、平年より約二割減を免れじ。
- 岐阜縣** 茶園總反別九百四十八町步の内、被害反別は八百町步で、中部以西濃甚、一番茶は今後發芽するも六分作の豫想である。
- 石川縣** 被害は一割減、茶芽の伸育は遅れん。

日本茶業發達の概説

福岡縣 凍霜の減收一割を見込む。

宮崎縣 北諸縣郡、西臼杵郡は被害激甚、その他は伸育遅れたる爲め大した事なし。被害は五分より二割五分の所、平均一割の減收。

熊本縣 被害の面積約二割、阿蘇、菊池、上益城、鹿正の各郡局部的に被害あり、中には七割枯死のものもあるも普通三四割の程度。

鹿児島縣 被害は小部分に止まり、甚しき所は二割、他は五分位のもの、結局は増收とならん。

高知縣 山地の一部に多少の結霜被害を認む。

愛媛縣 被害輕微にして縣下を通じ二分減位のもの。

斯の如く結霜の被害は頗る激甚であつたが、復興繁生力の最も旺盛なる茶樹は、その後の天候回復により、二番茶三番茶に於て一番茶の減收を取返し、押上總額に於ては大なる損失とはならなかつた。

此霜害の中に在りて、畏くも我が、皇室に於せられては、五月二十二日、皇后陛下、赤阪離宮内の茶園御散策の御り御茶摘の御事あり、それより三日間、毎日一時間づゝ御茶摘を遊ばされ、その御摘葉の製造を、埼玉縣狭山の繁田武平氏に御下命あり、繁田氏は齋戒沐浴、見事なる煎茶に仕上げ奉納。畏き邊りではこれを『鳳苑』と御命名あり、六月二十日、地方長官宮中御陪食の御り拜味を仰せつけられ、後ち、宮内省を経て各茶業關係者等へも御下賜があり、靜岡縣では、聯合會議所に於て、長谷川知事以下これを拜味して、我皇室の如何に茶業に重きを措かせらるゝかを仰ぎ、何れも感激に咽んだのであつた。

製茶の藥効については、先に三浦博士のウキタミンC發見以來各方面共研究を怠らず、對露取引にもこれを利用すべく、モスクワ大學に對して、日本緑茶のウキタミン試験を依頼すると共に、一方對米廣告宣傳にもこれを利用することとなり。豫て米國ローチエスター大學、マラーン博士に試験を依頼したる處、同博士より有効なる旨の報告があつたので、我が特販委員會ではシカゴのイブニングアメリカン、デイモンのレジスター、オマハのビー三紙に左記の如き廣告

を掲載した。

單純なる緑茶の一碗中に驚くべき効力發見せられ科學界と醫學界とを震動す。

舊來愛用の飲料たる緑茶中より世に普き多くの疾病に對する効驗著しき防備藥發見せらる。



リユーマチスの痛苦に悩める人達や、顔色蒼白なる人達や、疲れきつた人達や、チキに疲勞する人達や、吾々の多數に取りても最近科學界並に醫學界にセンセーションを捲起せし緑茶に關する驚異すべき發見は、深甚なる感興を抱かしむるものにして單純なる緑茶の快適なるカップの中より吾々の食用せる多數の食物中に全然缺乏せる驚くべき健康を増進する稀有の食用素を發見せられたり。

今や多數の男女が完全なる健康を享樂し能はざるは唯其一日の三食中に此の重要な食用素たるウキタミンCの缺乏に歸因する事を知らざるに至れり。

米國の有名なる一科學者の著書中にも『かくも多數の米國民を悩ましつゝある所謂リウマチスなるものは、多くはウキタミンCの餘りに乏しき食物を食用せるがためにして其の徵候は顔色蒼白ボンヤリとして元氣を失ひ、普通リウマチスと誤解せらるゝ關節や四肢に急激なる疼痛を感じるに至る』と。

この貴重なる要素を最も豊富に含蓄せるものは緑茶以外極めて少數にして稀かにホーレン草並に少數の果實と野菜に過ぎず、而して科學者の發見するところに依れば、紅茶は、その製法の一部たる醗酵の作用により、ウキタミンCは殆ど全く破壊せられたることを見たり。

今日科學の立證せる驚異す可き事實は、吾々の舊來愛用せる飲料の緑茶中にこれを多量に含有することにして、吾々が食料品店にて購ふ緑茶の生葉中には、この貴重なる健康増進に資する食用素が潤澤に保有され居れり。

人間の快樂を傷くる疲勞や、日々を不快ならしむるリウマチスの激痛や、又は蒼白なる皮膚の人達よ、この快適なる健康増進の習慣を開拓せよ。そは午餐にも、晚餐にも午後にも、極まつて芳ばしき日本の緑茶を飲用せよ。その中に豊富に含有せる貴重なる食用素たるウキタミンCを攝取して新たな活力を増進せよ。而して數週間の後には必ず前よりも如何に元氣を感じるかを知れ。さ

れば本日只今より日本緑茶の飲用を始めよ。

以上ウキタミンCの宣傳廣告は日本茶の藥効問題に關し相當の効果を現したが、後ちに米國政府は、日本茶のウキタミンを調査し、其の含有量少しとして、これを廣告宣傳に利用することを禁じたので、已むなく一時ウキタミン廣告の手を引込めたが、日本緑茶のウキタミンは、Cに於て最も多量に、AもBも共に之を含有し居ることは既に明瞭に證據立てられ居る點から見ても、米國政府が調査した日本茶といふのは恐らく、何年か米國商店に持越され、既に茶の香の失せたものであつたらしく、これを捉へて、ウキタミンの含有量少しと斷定するは甚だ早計に失するも、蓋し彼等は日本茶の藥効に恐れをなし、故意にかゝる調査をなしたものであらうとの説も傳へられた程である。

米國に於て、日本茶の宣傳が、新聞より雜誌に移り、幾多の困難、障害等に接しつつも荆棘を開くの思ひを以て、多額の特別費用を投じ勇敢に進撃をつゞくる間に、他の一方に於ては露國輸出が漸を追ふて本格的となり、これに供給する日本茶の規格を何れに置くかの問題は、我茶業者全體の双肩にかゝつた重大問題として多大の關心が繫がれ、釜炒の九州焙野製がよいか、それとも静岡製の湯蒸グリ茶がよいか、これ等の問題を研究するため、三橋中央會理事は、昭和三年六月九州一圓の茶業を視察したが、その報告の一端には、

三橋理事の九州茶視察談

ソヴェートの製茶鑑定官は、静岡茶の見本を手にし、多少の缺點はあるが先づ以て露國人の嗜好に適するであらうと評された。静岡茶はかくして露國向として合格して居るのだが、尙ほこの上に焙野茶、青柳茶を加へる方がよいか、又は加へるほどに産額があるかどうか、更に静岡茶として焙野、青柳に學ぶ處があるかどうか、こんなことの調査に九州を一巡して見た。

焙野茶。これは佐賀縣の二郡を本場とし、中にも不動山地方のものが良く、支那の釜炒製をその儘に踏襲して居たが、近來改良

製と稱する湯蒸茶も出來て居る。だが永い習慣は釜炒から離れる譯にゆかない。生産は、五萬貫から十萬貫の間らしく、自家消費市場販賣、附近の島へ賣るものなど區々で數量が判然しない。焙野茶は山茶ではなく畑作りである。値段は一等品十四圓、下等品二三圓で、一等品は長崎方面へ、下等品は島へ需用される。焙野茶は露國向として十分ではないが、再火すればよい、しかし何としても産額が少く、値段が高過ぎる。

青柳茶。熊本縣人吉附近の山茶と、宮崎縣の山手のもので、この附近の人が因襲的に嗜好し製造して居る。是も釜炒が本製で湯蒸しを改良製といつて居る。其産額は判然しないが、形状はヒジキに似て露國向とするには矢張り再火して茶をモット九くしなくては可けない。只青柳は焙野より安い上に、産額を増加せしむることが出来るから、將來露國向としては有望と見ることも出来る。宮崎縣の茶業。宮崎縣は今發展の過程にある。縣の方針としては、年々茶園百町歩五箇年五百町歩造成の計畫を樹て着々實行して居るやうだが豫定程には進まない。只天孫民族發祥の地だけに、自生茶の跡もあり將來大に發展の餘地はある。

要するに、露國向としては、静岡縣のグリ茶を更に一段改善して、良質のものを増産するのが第一であらう。

結論は、焙野製の釜炒が、香氣に於て勝れたる處もあるも、製産費に於て到底静岡製の湯蒸しに及ばず、而かも南露住民の日本茶に對する嗜好は、次第に湯蒸製グリ茶に馴れるやうになり、翌昭和四年、露國の茶方シェーニング氏を迎ふるに當りて、グリ茶の内容も大に充實され、急速に取引數量も増加するやうになつたものである。

當時、露國に於ても南部コーカサス地方に茶園を設け、製茶工場を備へて、茶の自給自足を企て、多少の成績を挙げつゝあつたが、その製茶會社の事務スガーク氏は技師ボクロフスキー氏を伴ひ、日本の茶業その他を視察した。兩氏の感想に曰く。

コーカサス地方は氣候風土その他日本に酷似し、茶樹、柑橘、竹林等も日本種を栽培して相當成績を収めて居る。今回の視察は日本の製茶、柑橘、竹林等の栽培を研究する爲めである。製茶は主として紅茶であるが、日本種の茶の芽からも紅茶を製造して成功して居る。紅茶は從來コーカサスのわらとまで云はれた程に下等のものであつたが、熱心研究の結果最近では各本場の紅茶に比し

て遜色のないものが出来るやうになつた。日本の紅茶も其品質が本場物に劣つて居るのは研究の足りない結果ではないかと思ふ。製茶については從來露國の記録には日本茶は九州の福岡縣に少し産するのみと記され従つて其品質等にも餘り重きを置かれて居なかつたが今度の視察で京都は歴史的に有名であり、静岡は更に進歩せる製茶産地なる事を知り、日本茶に對する大なる理解を喚起した。コーカサスは茶と柑橘の産地であるが、其生産は日本からの輸出を妨げる程度には達しない。今度の視察を露國中央購買組合に報告する。我合社は日本との取引に直接の關係はなきも、この視察の結果が露國の市場をして日本品を理解せしむるの機會を與へるものであることは疑を容れない。従つて日露貿易の今後に相當の効果を齎らすであらう。

日露間の製茶親善は斯の如くして次第にその濃度を高めていつたのである。

この年晩秋十一月の 新帝御即位御大典は、舊都洛陽に於て執り行はせられ、萬民敬仰の裡に、高御座に登らせ給ひ群臣の捧ぐる赤心萬歳の歡呼を受けさせられ、茶業關係の功勞者にも、叙位表彰の恩典を垂れさせられ、君民一體、産業開發に精進の一途を選ぶといふ光榮に浸ることを得たのである。

松浦中央會頭、宮本靜岡縣聯合會理事が相前後してソヴェト聯邦内の茶業視察を行ふたのもこの年秋冬の候であつた。松浦會頭は西郷參事を伴ひ主として露國の財政狀態並に製茶の需用狀況を調査し、宮本理事は手塚弘保氏を伴ひ主として南露一帶の製茶並に需用狀況を調査したのである。九月三十日敦賀出帆、西比利亞經由で入露、十二月五日歸朝した松浦會頭は視察の感想を左の如く語つた。

松浦中央會頭の露西亞談

露國の將來については二つの觀方がある。其一は、露國人は非常に辛棒強い國民であるから、現状維持のまま、こゝ二三年も経過せば資本主義が認められて折角がつくであらうといふのであり、他の一は、近く共產主義に對して決戦を挑む大革命が起り再び國を擧げて混亂の世と化するであらうと在留の英、米、獨人等が觀て居るのである。この反共產主義思想は各方面に瀰漫し聯邦獨立の運動を計畫するものもあるが、三人集まつて何か話でもすると其筋の手が起るといふ始末なので、中々思ふ様に擧げも出来ぬやうだ。露國の財政は極度に行詰り、本年(一九二八年)は既に十一億留の國債を募つて居るのに更に十月には四億の増募を發表したが四分一より申込なく政府は窮餘の策として官兵其他をして押賣せしめ、買はざれば國營パンを賣つてやらぬと脅かすので國民は炭炭の苦を嘗めて居るが、チエルオネツト紙幣を濫發し、ルーブル紙幣を廢棄して財政救済方策を講ずべしといふやうな風暴な議論さへ出て國民を極度の不安に陥れて居る。國境では密貿易が行はれルーブル紙幣は國內では一圓十二錢程度を唱へて居るが、國境を一步出ると僅かに三十二錢位にしかならない。ポーランドではルーブル紙幣の山を築き浦鹽方面へ賣りに出して居る。日本茶の露國輸出は、本年は百四十萬ポンド、價格九十萬圓に達し、年を追ふて發展を見つゝある。從來我が日本茶は、支那又は印度の茶に混合し、支那茶、印度茶として賣られ、日本茶の名を以て取引されるものは一もなかつたが、十一月からは、日本の文字を表面に表はす事となつた。露國の商人は長期取引を希望して居るが、我國から露國に支拂ふのは、石油及漁業權等で千五百萬圓に上るに反し、我が取分となるは、茶及綿で八百萬圓よりしかなく、我國の不利になるので色々折衝を重ねたが、簡單には解決を見るに至らず、懸案として残されて終つた。

第十五 綠茶の新販路と日本紅茶の開眼

對露輸出の日本茶取引も、湯蒸グリ茶で、先方の嗜好を繋ぎ得べき見込も立ち、一年毎に其の數量も増加し、米加以外の新販路としては、露西亞を第一の市場に加ふるやうになり、之に應ずるグリ茶の製造についても、主産地なる静岡縣に於て最も周密なる研究を遂げ、その取引決済も、管轄を先のツェントロ、ソユーズより通商代表部に移されて以來その振出しにかゝる六ヶ月拂の約手を在神戸の極東銀行に於て割引き、内地の商人も別段不便もなく輸出を續けて居たが、取引物資の増加と極東銀行の資金の手詰りから割引も漸次窮屈となり、且つ露西亞國內の財政急迫を告ぐるに及ん

で、輸出補償の問題が擡頭するに至り、我が茶業當局は少からず頭を悩ましたものであつた。

これと前後して、中央會囑託の烏居久作氏は、米國より歐洲を経て、北阿の神祕國モロツコ人を試み、歸來同方面に對する日本茶輸出の有望なることを報告して左の如く語ると同時に、佛國のリウイテイ將軍が『モロツコ土人を征服するには武力よりも茶と砂糖を以てする方遙かに有効だ』と喝破した一語を付加して居た。烏居氏は曰く。

モロツコは佛領で土人九百萬、歐人百萬あり、土人は綠茶を喫して居る。其茶は全部支那茶で、ヤンゲハイソン、ガンパウゲイ等である。土人はこの茶に砂糖を加へて飲んで居るが、一九二五年(大正十四年)の輸入額は、五百四十二萬五千三百六十五キロ(約千百萬ポンド)で、益々増加の傾向である。この外北阿ではアルベリアでも年額四百萬ポンド位の綠茶を飲用し、日本茶も輸出し得る見込がある。

モロツコへの茶の輸入は、主として佛國を經由し居るが、前にも述べたやうに、エジプトのカイロより自動車又は駱駝の背により沙漠を越えて輸入せらるゝ途もあり、エジプトに近い近東方面も、漸次東洋の製茶に對して多くの關心を持つやうになつた。即ちベルシヤ國の農林局長カチエフ、スカイチヤ氏は技師を伴ひ四年二月日本を訪れ、静岡縣に茶の生産状況を視察したが、ベルシヤと日本とは、色々な點で似通つた處があり、支那の商人は不誠實だから、日本との通商を完全にしたいと希望しつゝ、左の如き談話を試みて居る。

波斯國農林局長の感想談

ベルシヤ王國は、面積日本の約二倍半はあらうが、その三分の一は不毛の地で、人口は僅かに九百萬人に過ぎない。政府には各省があり議會は一段制である。北部は寒く南部は暑い。北部のものは紅茶を飲み、南部にはアラビヤ人も多く、綠茶紅茶を混用して居る。コーヒーは用ゐないが、コ、アは少し飲んで居る。茶の輸入額は、紅糖合せて大略年額一千萬ポンドであらう。紅茶は印度、錫蘭、爪哇、支那等より、綠茶は主として支那より輸入して居る。其の輸送は、印度ボンベイより飛行機、飛行船便によつて居る。

茶の栽培は約三十年前より東海附近のライジヤンで行はれて居るが、紅茶製造を目的にゲイジリンより種子を取寄せたのを始めとして、其後各地よりも種子を取寄せ試験して居る。日本茶の種子も購入した。従來の成績によると、アツサム等の廣葉種は良好だが、綠茶用の小さい葉は未だ成功に至らない。従來日本でもベルシヤを解せぬ如く、ベルシヤでも日本を知らない。自分等も今度の日本訪問によつて幾多の新知識を得たし、又従來色々と思宣傳などの多かつたこともよく判つた。日本國民が短かい年月の間に克く泰西文明の粹を吸收し、古來の道徳、習慣、風俗等を破壊することなく巧みに調和せしめ、着々進歩の道程を急ぎつゝあることは眞に敬服に堪えない。日本の茶については栽培、製造共に進歩して居るやうに拜見したが、只品種の統一が不十分ではないかと見受ける。従つてその種子も印度では三十キロで二百五十留比もして居るのに、日本では非常に安い。是は尙一段の努力を要するであらう。ベルシヤの物産は米、綿、穀物、礦物には鐵が多く、石油もあり羨望も感んだが、これは露のまゝ佛伊兩國に輸出して居る。日本とはまだ通商條約の細目が決定して無から取引には甚だ不便である。一時も早く條約を遂げ相互貿易の便に供したい。支那綠茶は元來不潔であり商人は不誠實なので、歸國の上はよく當業者に話して日本綠茶の輸入を圖りたいと思つて居る。

爰に注意を呼び起したきは、露國に於る日本茶の地位であるが、その取引は日向淺きに拘らず南露需用者の嗜好に投じ、將來一般の發展を來すべき確信を得たので、是迄支那茶に混入し、支那茶として消化されて居たものを、今後は獨立せる日本茶の銘柄により賣出すべきことを交渉したるに對し、日本茶の陸揚地なる黒海沿岸のオデツサに於ても、これを以て適當なる要望となし、四年二月二日付を以て、オデツサの製茶工場は、我が茶業中央會議所に對し左の如き報告を寄せて來た。

『此の度協定に基き愈々日本綠茶の銘柄により、獨立せる袋詰として發賣することに決し既に之に着手した。該日本銘柄袋詰見本はオデツサ日本領事館の手を経て中央會議所宛送付の手續を取つたから、外見其他充分に批評されたし。』右の袋詰は餘り上等の手際とは見られなかつたが、對露發賣四五年にして、日本綠茶の銘柄を以て、露國人の手に渡ることとは國際貿易上兎も角も愉快の事ではなからぬ。

かのソヴェート聯邦通商代表部の茶方として、日本のグリ茶及び紅茶の指導に當られた、ヒヨドール・エミリエウキ
ツチ・シェーニング氏は、この年五月十八日上海より神戸に上陸、一旦東京代表部に落ちつき、間もなく産地静岡に乘
り込み、買取茶検査の傍ら、グリ茶の製法につき幾多の注文を提出して當業者を警醒し、且つ『日本の茶葉で紅茶の出
来ぬ道理がない』といふ見地から、熱心紅茶の試製研究を奨め、その製造工程に對して、種々の秘法を授けたのであつ
た。このシェーニング氏の誘導によりグリ茶も相當内容を充實するに至つたが、更に六十年來研究を續けて、今尙ほ充
分の成功を擗めなかつた紅茶の製造にも一新紀元を開くやうになつた。この新日本紅茶の出来榮えを大體に於て是認し
たシェーニング氏は、この年の暮一旦故國へ歸省するに際し、左の如き饒けの辭を殘して行つたのである。

シェーニング氏饒けの言葉

我ソヴェートの註文に應じられた日本の綠茶は、總て見本以上の良質のものであつた。併しそうは云つても缺點皆無といふ譯では
ない。形狀に於て改良の餘地があり。グリ茶でないものが混つて居たなどは特に注意を要する。

綠茶の形狀としてグリ茶の輸出は、今はソヴェートに限られて居るやうだが、他の紅茶なども總てこの形狀だから、將來は米國も
この形狀のものを嗜好するやうになりはしまいかと思はれる。日本内地の需用はどうか知らぬが、輸出茶は全部グリ茶になるので
はないだらうか。こゝが研究の重點であらう。

紅茶については、私は最初から日本の茶で紅茶が出来ない筈はないと信じて居た。その事を中村會頭に話すと、その翌日から直ぐ
に研究を始めるといふ熱心さであつた。この熱心を以て研究を進めたので、四番茶の時期で良茶が得られなかつたに拘らず、相當
の良品が出来たのは非常に嬉しい。若し明年（昭和五年）の一番茶からこれを始めたならば一段の進境を見出すであらう。是は製
茶のみに限つたことではないが、物には一定の法則があり、又時と處とに依つて其法則に多少の變更を加ふる必要がある。これ
を紅茶に見るに、假りに『三時間醗酵』の基本法則ありとして、之に従つて製造して見る。若し巧く行かなかつたらば、何故で

あるかを研究し、試みに三時二十分、乃至三時三十分の醗酵にしてその成績を見ることが必要である。殊に一番茶と二番茶とはそ
の葉質も違ひ、氣候その他のコンディションが違ふのみならず、微細の點が、成否の分岐點となることを克く注意すべきである。
日本が今既に紅茶を研究するとならば、先づ印度、錫蘭に人を派して觀察させる。その觀察者は製造方面と、機械方面と、行政方
面との三つを分擔する。この三方面の人物は、茶業界に於て練達堪能のものたるを要す。かくして印度、錫蘭に於ける茶の内外兩
方面に亘り仔細にこれを咀嚼消化し、印度錫蘭の心になつて紅茶を生み出すことを努めるのである。

元來紅茶の綠茶に勝つた點は、貯藏して品質を害しないこと、大葉でも、粉でも總て需用があることである。包種茶（ハイザン
茶）も十分日本で出来る。若し幸に日本で立派な紅茶が出来るとなれば、日ソ貿易は一段と進展するであらう。現にソヴェエ
トでも印度、錫蘭に學んで製茶に多少の成功を見つゝあるである。日本でもこの精神により同様の方法を採らば、ならば必ず成功
するであらう。私は、明年の日本紅茶に多大の期待をかけて居る。どうか充分なる研究と熱心なる製産とによりて私を満足させて
戴きたい。

シェーニング氏の感徳による紅茶の試製は、静岡縣聯合會議所が主として之に當り、日本紅茶會社も大に力を致して
居るが、同縣下の茶業者に對して少からぬショウクを與へ、各方面共深甚なる關心を寄せるやうになつた。この紅茶試
製が當時如何に重要性をもつて居たか、又如何に新天地を開くものであつたかは、當時直接之に當つた人々の能く認む
る處であるが、その代表意見とも云ふべきは、左記、國立茶業試驗場技師前田源吉氏及び、静岡縣聯合會議所技師鈴木
孫太郎氏の説く處によりて、これを明かにすることが出来るであらう。

國立試驗場前田源吉氏の談

ソヴェート聯邦茶方シェーニング氏の指導により試製された日本紅茶が好評であつたこと、及び最近來朝のソヴェート應用植物學
博士がアイロフ氏も日本茶業の將來は紅茶にありと唱破した事などにより、紅茶に對する一般の關心は非常に高まつて來たの

である。

日本紅茶の沿革は、大體これを四期に分つことが出来やう。第一期は明治十年前後の創業時代で、政府の勸業寮は明治七年紅茶製造書を出し、八九の兩年清國人を聘して傳習を行つたが成功ではなかつた。九年には多田元吉氏を支那印度に派遣し紅茶製造を研究せしめ、十年高知縣の自生茶を以て印度風に製造して好評を得たので、多田氏は各地に傳習を行ひ、こゝに日本紅茶の基礎が樹立され、爾來各地に紅茶の製造が行はれるやうになつた。當時は印度も手揉時代を脱せず、ジャクソン式揉捻機もまだ世に出たばかりで、多田氏の印度式製法なるものも、支那式の特徴たる日乾萎凋、日光加温醱酵といふ所で、只足揉に代ふるに手揉を以てしたのと、火力乾燥に依る位の違ひに過ぎなかつた。第二期は明治二十年前後で傳習時代である。支那人又は熟練した本邦人を教師として各地に傳習を行つた。第三期は明治三十年代で、紅茶に關する試験開始時代といへる。即ち明治二十九年東京西ヶ原に農務局の製茶試験所が設立され、綠茶紅茶の研究を行ひ、技師大林雄也氏は支那印度錫蘭を視察したが、その報告には「支那の紅茶は極めて無造作に製造せられるが、それでも香気色澤即ち湯湯浸出量が多い。日本はこれを模して製造するが、香気及浸出に於て劣り且つ香臭味が多い。これは製造の未熟に依るものであるから、根本的に製造法を研究するの要があると述べ三十年以後種々の實驗を續け、明治三十八年農事試験場に合併せられ製茶部となつてからも尙ほ研究を繼續し、三十九年靜岡縣牧野原に創立せる製茶研究會に於ても紅茶の研究を行ひ、更に農商務省は福岡縣立農事試験場の紅茶試験に特別補助金を交付し、靜岡縣の渡邊廉一、藤田要之助氏は主としてこの研究に當つた。その當時の製造は支那式又は支那印度折衷式といふべきものであつたが、一般には未だ機械力を利用するには至らなかつた。第四期は大正時代で印度式製法、機械製法を採用した。中央會頭大谷氏は一番綠茶、二三番紅茶主義を標榜し、大正四年から靜岡市に紅茶研究所を設け、伊藤三郎氏を主任技師とし、加温醱酵装置により試験を續け、印度から茶種を取り寄せ品種の研究も併せ行つた。野呂三郎氏も大正五六年印度視察を行ひ新乾燥機及び真空萎凋など製造上の面目を一新するに到つた。

かくの如く四期に亘る紅茶發展層に於て、その生産額は、明治十五年の十一萬九千貫を最高とし、他は四五萬貫が最も多かつた。昭和三年は全國を通じて五千五百貫、内靜岡が二千二百貫、東京及福岡は各一千二百貫位のものであつた。今や世界需用の趨向は紅茶を主として居るから、若し日本の紅茶が品質、價格何れから見ても、各方面の需用に適し且つ生産可能となれば、日本茶業の將來の發展上大に慶賀すべき事象といはねばならぬ。

今度ソヴェートの茶方シェーニング氏により日本紅茶の新天地が開拓されたりとせば誠に結構の事であるが、今回の試験は少量でもあり、リアットンに比して色のあるのは如何にも残念である。これは製法に對する缺陷と、氣候のコンディションと、今一つは茶樹の品種に關する問題が徴成して居らぬ所にその原因がある。今後の紅茶研究はこの方面に重點をおかねばなるまい。

靜岡縣聯合會鈴木孫太郎氏の談

日本で紅茶を作ることには絶対に不可であると信じて居た自分が、論なくも紅茶の試験に従事したといふことは。數奇な廻り合せでも云はうか。しかし、露國の茶方シェーニング君の盛德により、聯合會の幹部の意大に働き、實際に試験をやつて見ると、成程從來のとは餘程異つた日本紅茶が出来上つた。

それもその筈で、シェーニング君の示した製造工程には、在來とは大分違つた處がある。この試験中成る目の製品の如き、「これなら買つてもよい」とシェーニング君が折紙をつけた。しかしこの一事のみを以て日本紅茶が今後お産ひ物になると早合點をしてはいけない。シェーニング君の賞讃を得た紅茶といふのはどんな茶であつたかといふと。

四番茶の相當種葉を原料とし、製造は、揉捻後篩分をなした七號下の芽で、製造完了後、十二號篩の下、十六號篩の上

といふものであつた。四番茶の硬葉であることは紅茶としては固分不利な條件ではあるが、製造工程に前記の順序を経たことは最も有利な點であつて、こゝがシェーニング君の氣に入つた點であらう。

この四番茶終期の試験によつて將來の成否を卜することは困難だが、今度の試験品を在來の日本紅茶に比すると。

- 一、水色は薄いながらも黒味が無くなつたこと。
- 二、香氣が力あるものになつたこと。
- 三、味もまた之に準ずるやうなものになつたこと。

四、茶葉が褐色になつて来たこと。
五、色澤の黒味がなくなつたこと。

等は明かなる進歩の點であらう。だが元來が、四番茶の硬葉であるから、水色、香味の薄いことは已むを得ない。水色は濃くしやうと思へば濃く出来るが、そうすると、生氣に充ちた香や味がなくなるやうである。力のある香味といふことは第一の必要條件で、印錫爪に比してこの點日本紅茶が劣つて居る。若し一番茶、二番茶の嫩芽を用ひ入念に製造したらどうか太刀打が出来はしないか。

今年の試製紅茶一萬ポンドを露國向として精製して見て更に痛切に感じたことは、原料が硬かつたこと、本葉の多かつたこと、青臭味のあつたこと等で、これは何としても根本的に改めなければならぬ。紅茶の製造には、結局品種の改良を伴ふものではあるが、當面の問題としては、鉄槌を敲しても茶の經營が出来るやうに根本の組織を改め、且つ二番茶までを摘採を止めても引合ふやうな新栽培法を考ふる必要があるであらう。

第十六 上には聖恩、下には茶の藥効

田中内閣倒れ、後續濱口内閣は多年の主張により、緊縮政策と、金解禁とを以て立ち、着々その準備を進めて居た。金解禁は對米四十九弗八十五仙の平價解禁であつて、日本の經濟信用上の心強さは充分にあらうが、製茶の如き輸出品貨に在りては、爲替の變動より来る思惑取引のなくなる代りに、餘程實惠い事になるので茶業者全般としては必ずしも金解禁を無條件に受入れるとばかりは限らなかつたが、昭和五年一月愈々解禁實行となるや、こゝに緊縮の躰を固めて品を良く、生産費を安くといふのをモットーにヒタ押しに押し進めることになつた。對米運賃なども、四年度から少しく上り勾配で、太平洋沿岸の一噸四弗五十仙に變りはないが、パナマ經由紐育行は九弗五十仙に値上げし、五年度に於

ては、前者の四弗五十仙を五弗に値上げして居るのである。製茶其ものゝ相場についても、金解禁の結果は兎角その影響を免れず。且つ一面には、對露取引につき、露國側の五百萬ポンド買取注文に對し、靜岡市場の輸出業者は、代金決済の不圓滑を理由に、三百萬ポンドまで賣應する旨を決議し、それ以上は現金でなければと二の足を踏んだ。かくては折角のお客を逃がすことにもなり、全生産家を不利に陥れる恐れがあるので、靜岡縣聯合會では、會議所自體の補償制度を考へたが、政府筋に於て組合自體の補償は穩當を缺くといふので、遂に保證組合制度により之を濟ふこととし、一面國家の輸出補償法の威力をこれに加へ、幸うじて五百萬ポンドの買付に應ぜしむることになつた。

この年の新緑五月には、天皇陛下、靜岡縣に特別行幸あり、茶業關係にも特に大御心を寄せさせられ、靜岡市の富士製茶會社、並に牧野原茶園に行幸を賜はり、茶業者の光榮を大ならしめた。この行幸ありてより間もなく、深き御思召により、宮中吹上御苑内の梅林附近に二百坪の地を區劃し、之に、赤坂離宮内の茶園に於て樹齡百年餘の茶樹より挿木繁殖せる茶の苗木を移植して、見事なる茶園を御仕付けになつたと洩れ承はるだに畏き極みである。

一方對米五箇年繼續の廣告宣傳は、昭和四年度の豫算を以て一先づ打切ることになり、この豫算による實地施行の五年度は、主としてビルボードサイン（立看板）を用ゆることとなし、これを以てこの大宣傳の最後を飾つたのだが、先方の米國茶業組合では日本その他産茶國の參加の下に種々の宣傳を試みて居た。即ち當該五年度事業として、『茶』と題する宣傳冊子を發行し、茶の起源を説き、産地、茶樹、及其の種類産額等を蒐録したが、この冊子中に茶の効能を、左の如く特記して居る。是は禁酒に厲める米國民に對し、最も皮肉なる或種の感觸を與へたに相違ない。

宣傳冊子中の語 茶は酒に勝る。何となれば茶は之を飲用するものをして酒の如く醗酵せしむることなく、又人に愚劣なる言動をなさしめ、酔の醒めたる後、之を誤魔化し、または後悔するの必要がない。

五年五月、露國の茶方シェーニョング氏は、本國歸省より再び日本に渡來、我がグリ茶業者に對し、茶業中央會議所を通

じて左の如き實際的注意を與へた。

グリ茶製造上の注意

- 一、**形**、堅く捲れ曲りたるを要求し、木葉、黃葉、浮葉、粉末の混入、のび茶の混在、不揃なる形状等は絶対買付を爲さず。
 - 二、**色**、黄味勝なる緑色を要求し、黒味勝なるは買付を爲さず。
 - 三、**品質**、澄明にして緑色なる水色、芳高なる香氣、新鮮にして滋味豊かなるを要求す。
 - 四、**一般的注意**、蒸を充分に且つ火入を完全にすること。
- 日本よりの輸出茶は全體的に蒸度若く火入不充分にして、輸出當時は色澤美事なるも、オデッサ到着の頃には早くも褪色し新鮮茶としての光澤を失ひ、一二年を経過せるが如き感あり、日本茶將來の發展上、原茶製造に一段の入念を必要とす。

シェーミング氏は全く日本茶の良き親友である。悪い所は必ず悪いといふが、之が是正に對して非常に親切であつた。グリ茶の改善、及びその發達は、全くシェーミング氏に負ふ所が多い。北阿、近東、印度等への進出も、その元は對露輸出に成功したのが爲めであつて、この點から見ても、シェーミング氏は、獨り日本茶を露國に引入れたばかりでなく、その他の新販路地にもよくこれを紹介した。氏は實に日本茶に取り、光つた一人の恩人として最も大きな存在であつた。茶の藥効的研究については、前にも屢々之を述べて置いたが、各方面の研究は年を追ふてその範圍を擴め、續々として學界の窓が開かれ、新研究、新發見が公表せられるやうになつた。昭和五年中に於て茶業界に提供されたものばかりでも、左の數種に上つて居るのである。

茶の成分と其生理的作用

農學士 山 本 頼 三

茶の特有成分なる「カフェイン」(茶素)が倦怠せる神經を刺激し、興奮作用を起し、又利尿に効あることは既に一般の知る所なれども、これ以外に「フラボン」(色素素及其配糖體)茶の中のものには主として「ケルセチン」「ケルシトリン」もまた注意すべきものなり。この「フラボン」が利尿作用を有することは、數年前より醫學博士福田得志及雅名泰三兩氏によりて研究せらるゝ所にして、從來利尿劑の代表物とも云はるゝ「チオプロミン」「チオフィリン」等に比して優るとも決して劣らざる効力を有すといふ。其配糖體の數「ミリゲラム」の微量を用ひても能く利尿があると云ふ。

次に「ガクタミン」と關聯して植物性色素「カロチン」の生理的作用の研究なり。これは其名により知らるゝ如く人參に含有せらるゝ橙色素にして、植物體の綠色部には葉綠素と共に必ず存在し、古くより研究せらる。殊に「ガクタミン」Aの代用作用の有無に關して、實驗研究の多數あれども何れも消極的結果に過ぎず。最近獨逸のハンヌ・オイラー氏は「カロチン」に「ガクタミン」H(エルグステリンに紫外線を照射せしもの)を添加すれば、能く「ガクタミン」Aの効力を發揮することを報告せり。即ち其百分の一・五ミリゲラムの微量を用ひても、能く白鼠のA缺乏症を癒したりといふ。自分は先に綠茶中の「ガクタミン」Aの研究を行ひ、白鼠のA缺乏症を治癒せり、其際「ガクタミン」Aとしての浸出物中に多量の「カロチン」の含有せらるゝことを認め、又右浸出物及綠茶粉末の寫眞乾板に感光作用をなすの事實等より推察するに「カロチン」もまた治癒に効ありしには非ずやと考ふ。「タンニン」の生理作用については已に多數の研究あり、即ち最も著しきは殺菌作用にして下痢を癒する力あり、然し消化酵素の能力を害するが如き作用は認められずといふ。

蛋白質及「アミド」化合物の化學的性狀は未だ詳かならざれども、綠茶殊に煎茶の風味に微妙の關係を有するものゝ如し。尙友分中に鐵及錳の量可なり多きは注意すべきものならん。

茶の驚くべき殺菌力

(大阪市立衛生試験所山口博士發表)

大阪衛生試験所の山口博士、岸本學士は、茶の殺菌力について研究し、驚くべき偉功あることを發見した。即ちチブス菌に色々な茶(普通飲用濃度の茶を冷したものを)を注ぐと、紅茶は二十分、番茶は三十分、玉露は三十分で、頑強なチブス菌が完全に死滅する。茶の殺菌作用は、バクテリアの蛋白質と茶中のタンニン酸が結合して、その生活作用を停止せしめるにあるらしく、石炭酸など普通の消毒劑とは其の行方を異にして居るのである。紅茶は、番茶、玉露に比して二倍のタンニン酸を含有する爲め、その殺菌作用は著しいが、餘り飲むと神経を興奮せしむるので、番茶が手頃とされる。尙ほ赤痢、コレラなどの病原菌はチブス菌より遙かに多く死んでしまふ。顯微鏡下には是等のバクテリアを置いて番茶一滴を注ぐと七分までは菌の活動が休止する。これについて山口博士は「古來急性胃腸カタルや、チブス患者に番茶を吞ませると良いやうに云はれて居るので、それにヒントを得て實驗して見て果然茶の殺菌作用を確かめることが出来た。その理由は茶の滋味であるタンニン酸が菌の蛋白質と化合吸着するにあるやうだ。だからお茶漬では、米の蛋白質の爲めにタンニン酸がなくなるから、生のお茶を飲む事は傳染病の豫防になるばかりでなく治療にも充分役立つだらう」と語つて居た。(九月大毎所載)

お茶は何故渋いか

(辻村みちよ女史發表)

日本茶には一種特有の滋味がある。この滋味について研究した理研の辻村みちよ女史は、四年十月頃、綠茶からやゝ滋味のある白色粒柱状の結晶體抽出に成功し、これをテイカテキンと命名したが、その際に滋味を出す別個の物質があるのに気づき研究を進めたる結果白色粉末を得た。テイカテキンは時日の経過に従ひ白色から茶色に變じたのに反し、白色粉末は薄桃色の粉末から紅色液體に變色し、その他化學的反應が種々異つて居るのを發見したので、それだテイタンニンと名づけたが、このテイタンニンとテイカテキンとが、お茶の滋味を出すのであることを確め得た。女史はこれについて「お茶の滋味については古くから研究されて居たが今までどうもその正體が判らなかつたのです。テイカテキンの發見が不完全であつたためテイタンニンも發見されずに居たので

すが、昨年テイカテキン、今年テイタンニンを發見することが出来て漸く判つたのです。滋味の素は斷言出来ませんが、この二種だけでこれ以外にはないと思つて居ます。茶は何故渋いかといふ事がわかつたわけで、お茶の性質や成分などへの研究が一步進められたといふに過ぎません」と語つた。(茶業界所載)

茶とホルモン

(舊國化學研究所立説)

ウラジオ電報によれば、ソヴェート化學研究所は四日本茶より身體機能促進成分の抽出に成功した。それは、不老若返り劑として顯著なる効能を有することが立證され全身的機能の復活に大なる効果のある點では遙かにホルモン劑を凌駕し、而かもその生産費はホルモン劑に比し、二十四分の一といふ廉價で出来る。近く國營中央製藥工場をして製造に着手せしむることとなるであらうし、従つて日本綠茶は、この方面にも新しき需用を發見し得ることとなつた。(十月二十一日東朝所載)

第十七 時代は轉換、内外益々多事

對米五箇年宣傳の事業も既に一段落を告げた昭和五年の後半年には、對露輸出の大躍進と、モロツコ試賣に目鼻がつくといふ快適なる報告を手にしたのである。醫學博士諸岡存氏の『喫茶新養生記』もこの機に乗じて成り、各方面に日本茶の新生命が植付けられ、露西亞にもモロツコにも相當の反響を與へたこと勿論であるが、中央會理事三橋四郎次氏は、五年九月、囑託鳥居久作氏を帶同して、歐羅巴經由、北阿の神秘國モロツコ入りを試み、二千ポンドの試賣茶によりて多大の効果を挙げ、翌六年一月末歸朝したが、モロツコの國情は日本茶に親しむの可能性充分なるを認め、歸來更に中央會議所の手を以てこの方面への進出を策し、廣く當業者をしてこれに倣はしめ、一面『輸出茶審議會』を起して新販路への信用と統制とを保持し、かくして北阿の天地は、忽ち日本茶の爲めに開かるゝの觀があつた。當時、三橋理

事のモロツコ談は各方面に快き反響を與へたが、その要點は左の如くである。

三 構理事のモロツコ談

北河弗利加のモロツコ、チユニス、アルゼリア等は何れも佛領だが、チユニス、アルゼリアが年久しく佛國化し居るに反し、モロツコは佛領となつてまだ三十年、統治も土人の内的生活に手を加へないので、風俗習慣も依然舊態を存し、宗教はマホメットを信奉し、日常生活に酒と煙草を禁ずるので飲料は綠茶を主とし、砂糖と薄荷とを交ぜて飲む。客の接待にも、食事の際にも盛んに綠茶を用ゐ、客は出された茶を三杯以上飲まぬと敬意をもつて居るものと見られる。土民のサルタンは知事位の階級、パンヤは部長カイドは町村長といったやうな處で、サルタンは外國人には面會せぬ事になつて居るが、パンヤは遇つて食事も共にする。御馳走は、羊、鶏、栗を蒸して味をつけ、野菜のスープを用ゆるが、食べる道具は指だ。酒が出ないので食事は簡單に済み、食後茶を飲んで大に語るといふ習慣だ。

町には茶の小賣店もあり、喫茶店もある。この喫茶店は夜はキャラバン(隊商)の宿にもなる。國內の交通は駱駝と驢馬と自動車で道路は歐洲大戦中獨逸の俘虜に開墾させ、今は立派に出来上つて居る。

モロツコの輸入品は、第一が砂糖、第二が綠茶になつて居り、年額約一千七百萬ポンドで、大部分支那産のヒドイ着色茶である。従つてその第一煎は棄て、終ふ。そこで自分は「茶の香味の芳醇は第一煎にある。然るにそれを捨てるのは如何にも惜しい。併し支那茶の着色は人體にも害があるから、日本の純粹無着色茶を飲むがよい」と説明し、大分諒解を得た。支那茶の輸入は上海からカサブランカ港へ揚げることになつて居る。今度日本から試賣のためもつて行つたのは三種三階級で、この中ヤングハイソンの中級以下のものが有望で、アイノ茶は望がない。土人は支那茶以外には茶といふものを知らないから曲つて居なくては茶ではないと思つて居る。値段は一ポンド九十錢より一圓四五十錢程度のもが多く需要される。關税は一ポンド四錢だが、チユニスは二十錢、アルゼリアは八錢である。

チユニス、アルゼリアは未だ日本茶との縁が遠いが、モロツコは最も近く尙も有望である。併し支那茶が不安のためと、斷交で對露輸出が激減し、モロツコへ投資茶を持込むのと競争は中々困難だ。若し銀が一昨年以前の平調に復すれば、日本茶は純粹無着色を標榜し大に地盤を獲得するであらう。只今後の輸出について注意しなければならぬことは、販賣上の統制を保つことである。日本の輸出品は往々にしてこの統制を缺く爲めに自ら値段を賣り崩し、内定を見透かされ共倒れになることがある。殊に相手はユグヤ系の佛人だから、商談には十二分の注意が必要である。

昭和六年三月十二日巨星俄かに殞つ。——我が中央會議所會頭代議士前衆議院副議長松浦五兵衛氏族中茅ヶ崎に發病遂に再び起らず、同地の南湖院に逝く、行年六十二歳、遺骸は郷里靜岡縣小笠原郡西郷村に移し、十五日同村小學校に於て中央地方の名士雲の如く集まり、村葬の盛儀を行ふ。かくて松浦會頭逝ける後、五月の臨時中央會議に於て中村圓一郎氏後任會頭に選ばれ、陣容を新にして茶業の振興に邁進することになつた。

サテ一方露國への輸出に關し、日本グリ茶の批評如何と見るに、需用地方オデッサよりの報告は、「年々その内容は改善するも、支那茶に比し、煎出が長く利かず、且つ揉捻が不足」とある。この事は、日本茶に多大の好意を有する露國の茶方シェーニング氏も常に之を口にし、機會ある毎に我が當業者を警めたものである。六年度の取引開始に先ちても、同氏は日本茶に對する各種の意見を齎らし、當業者の反省を望んだので、中央會議所は、その意見を參酌し、全國グリ茶の製造に對して、左の如き十箇條の警告書を發したのであつた。

グリ茶業者に對する注意

原葉、新鮮、木草なく、大きさの揃つたもの。
 蒸度、充分に、平均に。
 揉捻、普通の綠茶より稍々強く揉むこと。

日本茶業發達の概況

仕上、仕上前に篩分して大きさを整へて仕上げる事。
 形状、堅く振り曲れる事。
 色澤、ダーク(黒味勝)ならず、黄綠色に。
 水色、金色澄明に。
 香味、癖なく、苦味少く、香氣芳烈に。
 火入、町寧に、平均に。
 再製、木草なく、潮をきれいに、形状を整へる事。

斯の如く注意警告を以て萬全の策を講じたるに拘らず、六年度の對露輸出は、前年の六百萬ポンドに比し、三百五十萬ポンドといふ激減ぶりであつて、その原因一にして足らざるも、主たるものは、買手たる露國の資金缺乏から取引條件に幾變轉を繰返し、生産家、商人等はグリ茶に對する不安去らず、各方面共一様に生産を手控へ、更に自重裡にいつしか時期を過して終つたと見るのが妥當のやうであつた。この波瀾を極めた六年の對露取引關係には、ソヴェート通商代表部と、靜岡に於ける日本茶直輸出組合との間に、意志の疎通を缺き、代表部はアーウキン・ホキツトニー商會を通じて、聲明書を發し、日本茶直輸出組合の定款中に不同意の點(註組合定款第三十四條組合員ハ本組合ノ承諾ナクシテ對ソ取引ヲナスコトヲ得ズ)ありとて、同組合との取引を拒んだことから市場の大問題となつたが、靜岡縣廳並に中央會聯合會の居仲調停によりて間もなく解決、兩者共同聲明を發し、圓滿に買入れをなすこととなつたと同時に是等の事件により波瀾を極めた對露取引問題は、日本グリ茶の將來に對して調ゆる所多く、當時我が茶業界を支配した意見の主なるものは左の數項であつたと思ふ。

一、從來のグリ茶單一販路から多邊的販路へ轉向進出の急務なること。

二、生産されたる茶は其の季節中に必ず賣り終らねばならないといふ從來の考へ方を捨てねばならない。

三、露西亞の出先買付人に對する從來の考へ方を改むること。

四、世界的製茶の移動状況及び相場に就て一層調査研究をなすの必要なること。

五、露西亞との貿易に於ては取引數量等を豫想することが他の資本主義國との取引を豫想することより遙かに困難であり且危険であることを認識すること。

この年九月には、十八日夜半奉天柳條溝の一撃から、滿洲事變勃發し、日本は滿蒙に於ける我が生命線を守り、滿洲三千萬の民族は舊民國の暴政より離脱して新たに獨立を宣し、延て國際聯盟を騒がすなど内外多事多端、苦境内閣は、その政策上消費節約の犠牲として、六年度限り牧野原國立茶業試験場廢止の方針を立て既に閣議に於て之を決定した。是れ茶業界の重大事にして、全國の茶業者は猛然として起ち、政黨並に町村長會等をも動かし廢止絶對反對を唱へて政府に迫り、一大國民運動として各方面の注意を喚起したが、これと前後して若槻内閣倒れ、犬養内閣成るに及んで、先づ金の輸出禁止を斷行し、國內インフレを策して財政の變理に當り、前内閣の消極方針を改めて大に事業を起すことを書げ、茶業試験場の存置は勿論、七年二月の總選舉に大捷後は、所謂産業五箇年計畫の下に、茶業に對しても新に二十七萬九千圓の豫算を計上して栽培製造に關する根本指導に乗出すことに方針を定めたが、五・一五事件を機として、非常時舉國一致を標榜する齋藤内閣の出現を見るに及んで、以上の計畫には多少の變改を免れなかつたものゝ、試験場の存置は確實となり、茶業關係者は共に安堵の胸を撫で下したのである。

當時、露國關係に於ては、長期クレジット制度の問題あり、露國側は其の一年据置を要求し、我が當業者側は六ヶ月を主張し紛糾之を久ふしたが、日露協會長倉地鐵吉氏等の斡旋により、將來の圓滿なる取引を總覽し、政府の補償法等の活用により、クレジット一年を承認したのであつた。その後、通商代表部は、アーウキン・ホキツトニー商會の資金

等を利用して、或部分の現金買ひをなすに及び、決済問題は漸次緩和されるに至つたのである。この對露クレヂツト問題と前後して、加奈陀の製茶關稅に一大改革が行はれた。即ち加奈陀は、英領系の各産茶國保護を目標として、五年五月從來の一ポンド關稅日本茶十錢、英領茶七錢を、日本茶九錢、英領茶無稅に改め、日本當業者の興奮を買つたが、その非を覺つてか六年六月之を改正して、日本茶八錢、英領茶四錢として、大に差別待遇を緩和するに至つた。併しそれでも五年改正前の差額三錢なるに比し、尙ほ一錢のハンディキャップを剩すは遺憾であると、我當業者等は商工外務兩省を通じてこれが還元の交渉を起したのであつた。

この年十月、英國の紅茶E・サー・トーマス・ジョンストン・リプトン卿八十一歳を以て逝去し、茶業界に大なるショックを與へたが、一方、米國の飛行家ハントリン、パンゲボーン兩氏は、我國東西朝日新聞社の懸賞に應じ、青森縣津代海岸より米國本土に向つて一氣に太平洋無着陸大飛行を敢行し、見事之に成功したが、この兩英雄は、四十餘時間の空中飛行に於て、睡魔を征服するため、日本上茶の煎出液を魔法瓶に詰め込んで携行し、他の如何なる藥品よりも快適なる覺醒を維持し得たといふことである。是等茶の藥効については其後も相次で各種の研究學說が發表され、益々これを價値づけられ從來の藥効以外更に動脈硬化は勿論、中風症に對する綠茶療法といふのが新たに唱へられるに至つたのである。それは醫學博士田中吉左衛門氏が、六年十二月の『健康の光』誌上に『動脈硬化中風症の食養法と綠茶療法』と題して發表されたもので、大要左の如き説を述べて居る。

動脈硬化中風症と日本綠茶

動脈硬化の食養法といへば、必ず肉食禁止がついて来る。何故そんなに肉が悪いか、肉の成分は蛋白質と脂肪で、蛋白質は榮養の第一と信ぜられて居るのにどうして急に斯んなに變つたのか。

動物性食品は牛乳以外は皆酸性食品であり、酸性食品は血液の反應をより酸性に近づける。これをアシドーシスと云ひ、是が現はれると血行状態に變化を來し血壓は高くなる。是が肉類の怖れられる最大原因である。併しこの外にも脂肪が注意ものだ。ツマリ斯う云ふ人には脂肪の消化が悪くなり、腸内の腐敗が防げなくなる。そこで血管の硬化がヒドクなるのだ。

併し、この動脈硬化や中風の預防は、肉類を絶つよりも遙かに優つた妙術がある。それは綠茶を飲むことである。今日用ひられる動脈硬化藥の花柳「ヂウレチン」の主體は茶に含有する茶素と同一である。従つて茶の効驗も青づかれる譯である。茶には多量の綠葉素を含む。これは吾々の血液淨化に大効があり、動脈硬化を防ぐ。更に綠茶のガクタミンCが矢張り血管を丈夫にして呉れる。そして茶は肉類の酸性なると反對にアルカリ性食品である。斯様にして綠茶は血管病に二重三重の奏効があるのである。

世の動脈硬化を恐るゝ人々よ、中風に脅かされる人々よ、安心して毎朝綠茶をお飲みなさい。ホロ苦いその味、爽快なるその香氣それは綠茶のみが有する特質であつて多くの人々を夜の夢から朝の活動へ案内して呉れる。だが、物には中庸がある。午後から夜になつて餘り多くの茶を飲むと夜眠を妨げ、利尿を多くする。是は動脈硬化には鬼門である。されば茶は出来るだけ朝から午前中に飲み終り、午後には餘り良い茶を飲まない方がよい。これが動脈硬化療法としての茶の飲用方法なのである。

其頃(六年十二月)阿弗利加中部の黑人帝國、エチオピア特派使節ヘルイ・セラシー氏は、日本との通商條約締結の準備工作として我が國に渡來したのを幸ひ、同國がエジプト・スーダンに隣接し、將來日本茶の需用地たるの可能性あるを見越し、我が中央會議所では一夜東京星ヶ岡茶寮に使節一行を招請して、お茶の會を催し、中村會頭より、エチオピアがコーヒーの原産地であり將來日本茶の需用地たるべき運命をもつて居る旨の挨拶をなしたるに對し、ヘルイ大使は、

中村會頭の御話中に、コーヒー起源のことがありましたが、遙々日本に參つて、コーヒーの原産地が我國であることのお話を何ひ感慨無量です。コーヒーといふ言葉の語源はカファアといふ所に生じたので、それでこの名がついたのです。このコファアへアラビヤ人が來て、そのココといふ所へコーヒーを移植しました。それが段々と世界中へ廣がつたのであります。そこは沙漠の一部であります。近年は又英國人が茶樹を栽培することを教へました。現在そこには三千本の茶樹が植つて居りますが、この三千

本の茶樹から假定茶を造るとしても、その額は知れたもので、エチオピアの人口千五百萬人に割當つれば日産程にも當りません。現今は印度の商人を經由して茶を洋山輸入して居るのであります。されば私は日本の茶が將來起るべき日エ貿易中最も勢力ある商品とならんことを、兩國の爲めに熱望するのであります。

と述べて、日本との親善を茶によりて進めんことを熱望したのは單に一片のお世辭ではなかつたと思はれる。

第十八 滿洲目標と茶業記念日の制定

滿洲事變勃發から、日本茶の新販路として、大滿洲を再認識することは、我が茶業關係者の取るべき當然の歸結であつて、中央會議所副會頭業谷喜八氏は七年四月十五日神戸を發し、滿洲奥地まで審きに調査して、日本茶の輸出に關する將來の方針を研究し、靜岡縣聯合會議所は、各種の資料を涉獵して、滿洲と茶との關係を調査したが、これによりて得たる要領は次の如きものであつた。

滿洲の製茶消費狀況

滿洲全體の製茶消費高は約三四百萬元である。最近に於ける消費の數字は正確にはこれを知り難きも、大正十二年から昭和元年に至る滿洲三港（大連、營口、安東）に於ける製茶輸入量は次の如くである。

△大正十二年度三、三六二、九五四海關兩 △十三年度二、六一六、五〇五同 △十四年度三、七八七、四一〇同 △昭和元年度二、七九三、一四一同

是等輸入茶の種類は紅茶、綠茶、紅綠磚茶、香氣茶等で支那人滿洲人は紅茶、綠茶及香氣茶を使用し、蒙古人は主

として磚茶を用ひ、日本人は日本綠茶を、露人は多く紅茶の中にオレンヂの小片を入れて使用する。中には支那綠茶を使用するものもある。

靜岡茶として滿洲及び關東州へ輸出した數量は

△昭和三年五、〇六五貫 △同四年七、〇九一貫 △同五年一、一八三貫 △昭和六年一、六五〇貫

では等は主として在滿内地人の消費に向けられたものだが、その後滿洲事變勃發により日本茶の使用數量は一段の増加を見た譯である。

越えて十月、三橋中央會理事、宮本靜岡縣聯合會理事は相携へて、滿洲朝鮮に於ける、製茶需用の狀況視察を行つたが、三橋理事の歸來談片は左の如くである。

三橋理事の滿洲視察談

宮本理事とは大連で別れ、單獨で營口、奉天、新京、吉林、ハルビン等を廻り主として綠茶の關稅關係を調査した。綠茶、紅茶を合して六七百萬ポンドであるが、實際は千萬ポンド以上の需用がある。露支在留者が約十五萬ポンドを使用し下等茶を支那人が飲用し磚茶は内蒙古人が使用して居る。大體からいふと滿洲は花入茶が多く用ひられて居るので單獨に日本茶そのまゝで進出を企てることは随分困難と思はれる。従つて、混合用として研究したら滿洲は關稅關係等も好轉して居るから綠茶の滿洲進出は非常に有望であると思つた。

こゝに全國茶業會頭會議の決議に基き「茶業記念日」を制定することになり、研究の結果。

〔六月二日〕 安政六年六月二日横濱開港により、日本茶が公然貿易品として花々しきスタートを切りたるの日

〔十月一日〕 天正十五年十月一日豊太開天下に令して廣く茶事同好者を集め京都北野の森で大茶會を開き、露支なる

日本の茶道を大衆化したるの日

右の兩日を選び、別に茶業マニヤを考案して、日本の茶業團體を表彰することとし、その第一日の六月二日には、中央會議所を始め、各府縣聯合會議所その他の茶業團體は一齊に起つて、各種各様の催を以て、意義あるこの一日を記念したのであるが、時の商工大臣中島久萬吉男は、A Kのマイクを通じ、全國に向つて左の如き茶業講演を放送した。

日本茶貿易の過去及將來

商工大臣 男爵 中 島 久 萬 吉

製茶は我國の重要農産物の一であつて、兼ねて主要なる貿易品として光輝ある歴史を誇つて居る。その歴史を顧みれば、本日即ち六月二日は安政六年横濱開港の日で、生糸と共に茶が輸出貿易のスタートを切つた光榮ある記念日である。この記念日創定の第一日に種々なる茶業行事が全国的に行はるゝのも大に意義あることであらう。

元來日本茶の輸出は今を距る約百八十年前實明和の頃和蘭人が長崎に來航して以來、同地に於ける我が茶商と和蘭東印度會社支店との間に賣買が行はれたのが御もの蓋端ではあるが、當時は未だ鎖國時代であり、その數量も少く表面貿易品と見るべきものではなかつた。それから百年。時代は流れて安政の開國となり、横濱港開港貿易の第一編を飾るものとして、日本緑茶の地位は見るからに花やかなものであつた。

當時茶の輸出先は主として米國であつた。外商は輸出港に製茶再製所を設け、茶商より買入れた茶を再製して送り出した。當時の日本茶は外人の受けもよく輸出額も年々増加し、内地の製産もこれに従つて急速に發展を遂げ重要な國家産業となるに至つた。即ち開港當年の輸出四十萬ポンドのものが、十餘年後の明治初年には一千萬から二千萬へと果進し、總輸出物貨の二三割を占めて居た。この夢ひは自然官民一致の協力を促がし、紅茶の製造研究から、純無着色の獎勵、海外宣傳等各方面に力を加ふるに至つた。この内紅茶の製造は失敗に終つたが、緑茶は宣傳の實績り逐年輸出の増加を示し前途洋々たることを思はせた。然るに西南戰爭後、生産費の昂騰から粗製濫造の弊起り、明治十五年米國の粗製茶輸入禁止條令に會かされて、全國に茶業組合創設の機運を醸

成し、十七年の組合準則、二十年の組合規則發布により、各府縣に茶業組合、東京に中央會議所が創設され、品質の改善に努力を拂つた結果、日本茶業の發展は内に外に輝かしき光彩を放つに至つたのである。

その後機械の改良、技術の進歩等更に大に見るべきものあつたが、明治二十七八年の日清戰役後、市價の昂騰と、紅茶咖啡等外國競争品の壓迫を受け、輸出漸減の傾向を示したので、政府は明治三十年より七箇年繼續年額七萬圓を中央會に補助し海外販路の擴張を計らしめたのである。又明治二十九年以後特別輸出港の一として茶に關係ある清水、四日市兩港が開かれ、茶の輸出に一新時期を劃し、殊に清水港を支國とする静岡市場の如きは、全国的に取引の覇權を握り、幾多の外商こゝに集まり、再製茶業も時を得て勃興し、従来の原茶貿易は漸次再製茶貿易となり、更に外國商賈貿易の舊態をも脱却するの勢ひを以て、製茶の輸出に一大進境を示したのである。

斯くの如く清水、静岡中心の製茶貿易も日露戰後、明治末葉から大正初年までは衰勢止まず、組合團體も貿易轉回の策を講ぜんとするの矢先、偶々世界戰爭勃發し、大正四年以後七年までは輸出の激増を見、數量五千萬ポンド、價額二千萬圓を越ゆるといふ盛況であつたが、戰後は、品質の悪化と價格の騰貴とにより漸次減少を來し近年に於ては二千五百萬ポンド八百萬圓といふ當時の半數にも足らざる不振の状態である。この不振の原因を尋ねると、米國に於ける競争品たるブラジルコーヒー及び印度錫蘭紅茶の販路擴大、日本茶の無謀なる價格引下、之に伴ふ品質の低下及び外國品に比して宣傳の不備不足等その主なるものであらう。我國茶業關係者も近頃は廣告宣傳に非常なる努力を拂はれて居るやうであるが、世界的の不況も手傳つて思ふやうに輸出の増進を見るに至らないのは遺憾の極みである。

然るにこの不振の米國輸出以外に於て、近頃新販路の開拓大に見るべきものあるは喜ばしき限りである。對露輸出の如き大正十三年の國交回復以來、實現を見るに至り、その第一年なる十四年の三十五萬ポンドを序幕として年々倍増、一昨昭和五年は一躍六百萬ポンドに上つて居る。昨六年は代金決済の困難紛糾のため稍々減退したが、今後金融關係が圓滑にゆけば尙ほ相當増進するものと考へる。これに對しては商工省の輸出補償制度の利用の如き、最も便宜を得たる處置であつて、是迄にもこの補償制度は製茶關係に最も多く利用せられて居る。又北河の「コッパ」も一昨年以來販路が開かれ、昨年は八十萬ポンドを輸出し、今後尙ほ増進の

見込が充分である。更に近東及び印度アフガニスタンも日本茶の販路として大に注目されて来たが、是等は何れも緑茶の需要國で我が宣傳方法さへ宜しくば、従来の支那茶に取つて代ることも左程困難の事ではあるまい。

以上の新販路に在りては、代金支拂の危険困難はあらうが、幸ひ何れも補償法適用の範圍内であるから、夫々利用せられるであらう。昨年白岡リュージの博覽會に日本緑茶を出品した結果、日本緑茶に多量のグキタミン含有が注意の焦點となり、北歐地方にも相當販路を開き得るの見込が立つたなど、現在の輸出茶は北米に於てこそ多少減少しても居れ、新販路に於て充分之を補ふて居る。併し何といふても北米は開港以來の大切なる需要地であるから、今日の重苦しい不振の空気を富業者の努力によつて拂拭するの覺悟が必要である。従つて輸出の統制は當然行はれなくてはならぬ。目下の所日本茶直輸出組合はあるも、これは殆ど對露取引に限られ、全般に涉つての輸出の統制は未だ出来て居ない。この點は古き歴史を有する我が茶業界に取り甚だ残念の事であるから、今後全輸出の結成を計り輸出の統制を確立し、取引方法を改善して新販路を合せて輸出の發展を期すべきであると思ふ。尙ほ將來の輸出茶としては緑茶紅茶がある。緑茶は我國獨特のものであつて、従來は單に茶道にのみ用ひたのであるが、近來機械製も出来、その生産も増加し、海外輸出も可能となつて来たので貿易品として大に努力を拂ふべきものであると思ふ。又紅茶の製造も近來本式に研究され、品質も相當進歩して来たやうである。従つて將來の日本茶業は緑茶のみに止まる事なく、生産輸出共に紅茶の方面へも進展して行かなければならぬことは明瞭で、國産紅茶の改良發達により、差當り現在の年額四十萬ポンド、五十萬圓の輸入紅茶を防遏し、進んで海外輸出の道を開き進めたい。

新たに制定された茶業記念日に當り、日本茶貿易の事蹟を顧み、更に今日の隆盛を思ふ時に、我が先達官民諸氏が過去に於て如何に熱心なる努力が注がれたかを知る事が出来る。關係富業者は此際奮勵一番先人の努力に倣ひ輸出の増進に當るべきであると思ふ。

既にして日本茶業の多角色は、年を重ねて益々濃厚となり、内に在りては、分業約傾向は勿論その製品は單に従来の緑茶のみに止まるを許さず、紅茶、碾茶、グリ茶、花香茶等にも新たな努力を注ぐと共に茶園の栽培、品種の改良統一に思を致すの必要あり、外に在りては、米加兩國、ソヴェート聯邦以外凡有る方面へ手を伸して世界的進出を策せざ

るべからず、その經營は急々出で、急々複雑となり茶業團體として管掌すべき事務亦甚しく多端を加へ、かの歐米兩洲禁止による取締事務の如きは、やがて進んで自から之を輸出して需用者に對する保證の責に任するの必要に迫らるゝなど文化の進歩と、國際間の動向とは、どこまで是等の實際的産業を複雑化せしむるのか、殆ど圖り知るべからざるの狀態に赴いて居るのである。而かも一面國家の非常時は、外に滿洲事變による國際聯盟の脱退あり、内に財界不況の重壓あり、茶業者亦この鬱鬱氣を脱する能はず、殊に肥培管理の不充分より來る茶園の衰頹の如きは實に茶業の將來を危殆に陥れるものであつて、如何なる犠牲を拂つてもこれを喰ひ止めてはならない。

靜岡に在りし外商ヘリヤ氏が、當時歸國に際し、日本茶業者のために殘した左の苦言に見るも、如何に茶園の肥培管理を怠つて居たかを推知するに足るであらう。ヘリヤ氏は曰く。

茶は永年作物で一旦衰頹すると容易に取返しがつかぬ。これを防ぐには肥料を配布施用せしむることが第一の策である。今靜岡縣下の茶園を一萬五千町歩として、一反歩一圓とするも十五萬圓となるので會議所としても中々容易の事ではないが若し工夫が出来れば結構だ。更に病蟲害の防除に補助し、生産賣りを自製に轉ぜしむるため簡易なる手採の設備に補助し、産業會館の積立金を繰入れ茶樹栽培獎勵費に充て、茶園肥培と經營改良に資金を出すやうにしたい。

外商から見ても茶園の衰頹防止が如何に當面の急であつたかは、その取引茶の品質に現はれた處によりて充分に之を推知したのであらうし、同時に内地富業者の深くこゝに思を致すは當然の歸結といふべきであらう。されば、この狀勢を打開せんがため、産地靜岡縣選出の政支會所屬代議士山口、深澤、仁田、藤又、春名、太田、倉元、宮本の諸氏は七年八月二十六日、齋藤内閣下に於ける臨時第六十三議會に對し、左の如き、茶業振興に關する建議案を提出可決されたのである。

茶業振興ニ關スル建議

政府ハ茶園栽培者及茶製造者獎勵ノ施設ヲナシ生産品價ヲ向上セシメ併セテ海外輸出ノ増加ヲ圖ルノ方策ヲ講ゼラレ
ンコトヲ望ム。

(理由) 製茶ハ本邦ニ於ケル重要農産物ナルト共ニ海外貿易品トシテ忽セニユベカラザル重要産物ナルコトハ周知ノ事實ナリ而シ
テ其産額ハ毎年約八千萬封度ヨリ一億封度ニ達シ内輸出旺盛時代ニハ三千万ヨリ五千万封度以上ヲ海外へ輸出シ其金額一千五百萬
圓ヨリ二千萬圓ヲ下ラザルノ回數ヲ見タルコトアリ其最タルモノハ主トシテ未加兩國ナルガ純近露國、北阿等ニ新販路ヲ開拓シ着
キトシテ輸出ノ數量増加ノ傾向ヲ示スニ至レリ然リト雖モ現下ノ茶況ハ内外共ニ不振ノ極ニ達シ是等諸外國ニ對スル輸出ノ數量激
減ヲ示シ當業者ハ勿論國家トシテ大ニ考慮ヲ要スルノ秋ニ遭遇セリ斯ル現象ハ要スルニ各府縣農村ノ悲境ニ原因シ延テ茶業界ニ其
累ヲ及ボシ生産家經濟ノ窮乏ヲ來シタル結果殆ド無肥料ノ茶葉ヲ以テ生産スルノ己ムナキニ至リタルガ故ナリ之ガ爲メ海外貿易ニ
モ惡影響ヲ及ボシ斯ク輸出數量ノ激減ヲ見且ツ内地需用ノ如キモ國民保健上一日モ缺クベカラザル優良ナル製茶ノ補給ヲ缺キ品質
劣等ナル製茶ヲ飲用スルノ己ムベカラザルニ至レルハ吾人ノ等シク憂慮スル所ナリ素ヨリ當業者自身ニ於テモ各々自覺シ改善ノ途
ヲ講ジツ、アリト雖モ今日ノ如キ不況ニテハ全ク經營難ニ陥リ如何トモスルコト能ハズ徒ニ傍觀スルノミ況ンヤ時恰モ、我國經濟
界ノ非常時ニ際シ此一大國産タル製茶ノ廢滅ハ國家ニ及ボス損害亦夥カラザルベシ依ツテ政府ハ宜シク從來全國茶園ニ對シテ改良
助成金ヲ年々支出シ茶園ノ改良發達ヲ促進シツ、アル如ク我茶業ニ對シテモ此際相當ノ助成金ヲ支出シ茶園栽培者及茶製造者ヲ實
勵シ官民一致共同シテ荒廢茶園ヲ改善シ製造上品質ノ向上ヲ圖リ進ンデ新舊海外販路地ノ保持擴張ノ方策ヲ講ゼラレンコトヲ切ニ
要望スル所以ナリ

新販路に對する日本グリ茶の進出は、年を追ふて旺盛となり、その製造も漸次改善されて来たが、その名稱の如きも
從來のまゝの「グリ茶」では、單にグリ／＼して居る形を現はした丈けで如何にも日本茶銘として相應はしからず、所

謂大和言葉としての優美な感じを現はすに足る茶銘を選びたいと、中央會議所では、七年十月一、二等百圓以下それ／＼の
等級に應じた賞を懸けて廣くこれを全國から募集したる結果、こゝに「玉縁茶」の新茶銘を得、更にこれに、梅、櫻、
小櫻等の分類を用ひて、世界の各市場に呼びかけ、紅茶のベコー、支那茶のハイソンなど、同様、需用者の新感覺に打
込むことに努め、漸次その目的に近づきつゝあるのである。

日本緑茶の奨励問題に先驅をなしたウキタミンCの研究者として、故三浦醫學博士の偉業を助け、更にその後、テイ
ーカテキン等の發見に成功し、その學績により、農學博士の學位を授けられた女性篤學者辻村みちよ女史に對し、我が
茶業中央會議所は、その功勞に酬ゆると共に、學位獲得を祝するため、十月八日女史を東京會館に招請し、左の如き彰
功狀と記念品を贈呈したのである。

夙ニ製茶化學ニ付研究努力セラレ茶業ニ貢獻セラレタルコト辨カラズ今回農學博士ノ最高學位ヲ得セラレタルハ斯業發展上洵ニ
慶賀ノ至ニ堪ヘズ聊カ祝意ヲ表スル爲メ銀製茶器一揃ヲ贈リ以テ其勞ヲ稱フ

昭和七年九月二十八日

茶業組合中央會議所會頭 中 村 圓 一 郎

辻 村 み ち よ 殿

第十九 國民的茶業意動の勃興

九・一八事件——それは昭和六年の初秋である。滿鐵柳條溝の一角にスタートした滿洲事變は、蓄積せる東四省の晦
冥を破り、南の方遙かに上海の暴勢を抑へ、急テンボを以て滿蒙の野に新しき黎明を齎らし、七年三月一日には早くも

三千萬民衆の總意による滿洲國獨立の宣布となり、執政溥儀氏を迎へて元首となし、友邦日本の國際關係は爲めに大に紛糾し、一方にはリットン調査團の派遣となり、一方には九月十五日日本の滿洲國承認あり、十二月には大使館を開設し八年初頭熱河の平定に次で三月二十七日國際聯盟退盟詔書の渙發あり、國境長城線の總攻撃等により滿洲國の基礎漸く固く、十二月二十九日を以て、帝政の宣布を行ひ、九年三月一日溥儀氏登極して、康德皇帝と仰がれ、六月には我が聖上陛下の御名代として、秩父宮殿下御渡滿、親しく慶祝の御思召を傳へ、越えて十年四月、康德皇帝の日本皇室御訪問といふ盛儀が行はれ、こゝに兩國の親善益々厚く、世界列國も次第にこの情勢を甘受すべき當然の運命に措かるゝやうになつたのである。かくて日本帝國の前途、及びその生命線たるべき滿洲帝國の將來共に正義の提携により、國光の宣揚、世界の新文化建設に向つて堂々歩武を進めつゝあることは如何にも會心の限りである。

この勢ひに乗じて、我が茶業界も亦、廣く眼を世界に馳せ、日本茶本來の使命を果すべく、各種の方面に向つて努力を拂ひつゝあることは勿論であつて、かの同價安から、對米爲替も爲めに二十弗を割らんとするの難境に處し、輸出貿易を潤すべき有利なる條件も、輸入に於て逆にならざる不利を忍ばなくてはならず、その得る處は、失ふ處を償ひ得ざる酸苦あれども、靜岡縣下の茶業者等は、共に相携へて斯業更生の策に邁進し、政府、並に縣に對して、茶業經營に對する獎勵費の交付を請願し、一面茶園の更新策を樹立すべきことを叫び、經濟國策としての國產獎勵は殆ど限なく徹底され、畏くも、我皇室に於ては、紅茶の如き從來外國品を御使用あらせられたのを、總て國產紅茶に改めらるゝなど茶業振興に對しては、こゝに紅茶獎勵の新たな指針が示され、その製造の研究は勿論、原葉供給の根本策として紅茶品種園の設置を見るに到れるは、全く新局面を開きたるものであつて、全國の茶業者はまさにこの機會に乗じて奮起しなければならなくなつた譯である。

こゝに日本の茶業界……と云ふよりも世界的に輝かしい存在を誇つて居た茶業界の巨人大谷嘉兵衛翁は、九十歳の高

齡を以て尙ほ矍鑠大に爲す所あらんとするの元氣を示して居たが、偶發的狭心症のため、八年二月三日大坂の覆へるが如く倒れて遂に再び起たず、我が茶業界は大なる哀みの内に十日横濱市久保山齋場に於て故翁の昇天に告別した。翁は伊勢に生れ、少時茶業に志を委ねて横濱に出で、刻苦精勵、幾多の困難と戦ひ、製茶の實買に慧敏なる鑑識を積んで、内外の信用を博し、遂に我が製茶貿易界の牛耳を握るに至り、茶業團體の結成後は、終始公事に殉じて五十年の大功を完成した。歿葬の日の柩前には『故從四位勳三等大谷嘉兵衛之位』の銘旗を懸し、白木の牌には『慶福院殿宏德嘉祥南湖大居士』の文字も鮮かに、天下の名士雲の如く翁の遺徳を慕ふて集まつた。中央會議所會頭中村圓一郎氏は全國百萬の茶業者を代表し、左の如き弔辭を呈し、哀悼の誠意を表したのである。

弔辭

從四位勳三等大谷嘉兵衛翁溢焉として逝く、嗚呼悲哉、翁は我が茶業界の耆宿にして將又恩人たること普く世人の知る所なり翁は文久年中半先して茶業に従事せられ、明治十七年茶業組合規則の發布せらるゝに方り同志と共に組合の組織に努め、選ばれて名譽事務員となり、同二十三年茶業組合中央會議々長に推され、同四十二年茶業組合規則の改正と共に會頭に擧げられ、昭和二年に至り老齡の爲め隱退して名譽顧問となり今日に迄べり、其の間實に五十有餘年の久しきに亘り、斯業の改善、進歩、貿易の助長等に盡瘁貢獻せられ我茶業をして今日あらしめたる翁の事蹟や海に偉大なり、加之翁の事業は總べて公私何れも國家的又は社會的にして其範圍頗る廣く、彼の米國茶稅廢止の如き、又太平洋海底電線敷設の如き彼我貿易上に利益を興へしこと少からず、其偉業や後昆に垂れ其の名は今に芳ばしく永久に朽ちざるべし、今や將に春ならんとして萬物漸く生氣あり、而して翁や亡し、幽明境を異にし吾等世を隔て呼べども應へず望めども見えず、夙に臨んで一慟すれば心腸斷へんと欲す、嗚呼哀ひかな、希くは饗けよ。

昭和八年二月十日

茶業組合中央會議所會頭

靜岡縣茶業組合聯合會議所會頭

從六位勳四等 中 村 圓 一 郎

巨大大谷南湖翁は逝くも、翁の茶業魂は我が國土に留まりて生産に貿易に斯業を守護せざれば止まないであらる。當時滿蒙の天地漸く開け、日滿貿易の進展を見んとするに當り、滿洲國稅關の課稅査定に遺憾の點あり、將來の製茶貿易振興を自途として、之が實情調査と適時善處とに關し我中央會議所會頭の名を以て左の如く請願書を時の政府に提出したのである。

請 願 書

製茶滿洲國輸出振興ニ關スル件

滿洲國ニ於テ消費セラル、製茶ハ最近ノ調査ニ依レバ其數量年額實ニ一千萬斤以上ニシテ殆ド支那茶ヲ飲用シ日本茶ノ輸入セラルルモノ極メテ僅少ナルノ状態ナリ、滿洲國ト我國トノ親善ハ日々益々厚ク貿易モ亦逐次進展セントスルノ状態ニアルハ日滿兩國ノ將來ニ取リ定ニ慶賀ニ堪エザル所ナリ、此時ニ際シ我當業者ハ日本茶輸出貿易ノ開始ヲ企圖セシメ滿洲國稅關ハ我輸出茶インボイス面ニ記載セル價格ヲ無視シテ高價ニ之カ査定ヲ行ヒ高率ナル從價稅ヲ課シ日本茶ノ輸入ヲ拒絶セムトスルノ態度ナルハ獨リ日本茶ノ輸出貿易ニ對シ頗ル遺憾トスルノミナラズ、他ノ輸出品モ亦同様ノ課稅ヲ受クルモノアルベク、斯クテハ日滿貿易ノ前途實ニ憂慮ニ堪ヘザルモノアリ依ツテ政府ハ速カニ其ノ實情ヲ調査シ適當ノ交渉ヲ遂ゲ日本茶ノ滿洲國輸出貿易ノ振興ヲ期セラレ度茶業組合中央會議ノ決議ヲ以テ此段請願候也。

昭和八年二月

茶業組合中央會議所會頭 中 村 圓 一 郎

更に熱河方面に對する綠茶の輸出に關しては、三月二十四日第六十四議會に對し、靜岡縣代議士宮本、山口、深澤その他の諸氏により左の如き建議案が提出され、滿場一致可決となつて居る。

滿洲國熱河省方面綠茶輸出ニ關スル建議

滿洲國熱河省北部内蒙古ニ接スル地方ハ蔬菜ノ生産少ク「ビタミン」缺乏ノ爲メ同地方住民ハ常ニ壞血病ニ冒サレ易ク、僅カニ支那南部ヨリ綠茶ノ輸入ニ依リ之ヲ補ヒ該病患者發生ヲ豫防セラレテ、アリシモ、近時同地方動亂ニヨリ綠茶ノ輸入杜絶シ爲メニ壞血病檢出シ瀕死ノ状態ニアルモノ頗ル多數ナルハ最近同地方ノ情報ニ依リテ明カナリ、依ツテ政府ハ速カニ同地方ニ對シ綠茶輸出ノ方策ヲ講ゼラレシコトヲ望ム。

右建議也。

是等の國民的茶業運動は、各方面に反響を與へ、日本茶の根本改善と、その世界的進出とに向つて、大なる指針となつたことは言ふ迄もなく、日本茶に關心を持つ外商等の要望批評も亦多くはこゝにあつたのである。殊にソヴェート通商代表部の、エフ・シエーニング氏の如きは、昭和五年製茶検査の重任を帯びて來朝以來、日本茶に對しては、深き理解と、温かなる親し味とをもち、玉綠茶の指導は勿論、從來日本では殆ど不可能視せられた紅茶の製造につき、『日本に於て紅茶の出来ない善はない』とて、萎凋、揉捻、醱酵等の製造工程に於て、熱心に合理的指導を試み、遂に日本紅茶の建設に多量なる黎明を傳へ、産地靜岡縣下の茶業者からは、多大の感謝を拂はれて居たが、居ること三年、本國の招命もだし難く、八年二月十一日、多くの我が當業者に惜まれつゝ日本の港敷を後にして、浦鹽經由歸國の途についた。右につき靜岡縣聯合會議所では感謝狀に記念品の日本畫一軸を贈りその勞を謝した。この日本茶の慈父ともいふべきシエーニング氏は、渡日以來機會ある毎に茶業の爲めの金言玉句を與へられたが、歸國の直前、一月十二日靜岡縣再製組合主催の茶業懇談會に於て、次の如き意見を述べ、これを以て、日本に對する氏の饒けの言葉としたのである。

シエーニング氏の言葉

◇本年買入れた茶は、外形に於て著しい進歩を認むるも、品質はまだ不充分である。それは製造に缺陷があるのであつて、第一に

蒸が若くていけない。これは各方面の權威者にも話して置いたが、更に揉捻の後或は少し再乾の後に綠葉の縮み分けを行ひ、軟芽と硬葉を仕分け、篩下を次の工程へ移し、篩上は今一度適當に蒸熱を加へ揉捻してから次の工程へ移す、尙ほ必要あらば今一回縮み分けして前のやうな工程を繰返して欲しい。かくすれば葉の硬軟に應じて適當なる工程を繰返せしむることが出来、蒸も揉捻も充分となり、再製の場合にも出物が少くなる。かくしてこそ日本茶の聲價は高められ、又高價にも賣れやうといふものだ。

○露西亞では又磚茶を要求して居る。昨年九州熊本から見本を取寄せたが、その原料(ラオ茶)は良かったが、製造を誤まつた爲めに品質が悪く商談は出来なかつた。静岡縣でも磚茶の經驗はあるやうだから、新しい機械を用意し、現代式に製造せばモスコイ茶業本部は必ず日本磚茶の大單注文を發するであらうと思ふ。

○紅茶は過去數年間静岡縣に於て研究改良をつゞけ著しく進歩して來たが、面積、氣候、地質及摘採方法等の關係から見るとは静岡よりも寧ろ九州の方が優つて居りはしないか。従つてこれを大觀すれば、静岡は綠茶の中心となり、九州を紅茶の中心とすることがより合理的ではないだらうか。この點日本の茶業者として大に考慮すべきであらうと思ふ。露西亞では紅茶の本茶ばかりでなく、粉も多分に買入れたいのであるから、充分研究して然るべきだらう。

○去年までは再製業者にして、輸出業者にして、たゞ一種類の見本しか出さなかつたが、本年からは手持の露西亞向茶は、上中下全部を小籠に入れて出して欲しい。かくすればモスコイ本部では、どんな茶が日本にあるかを知つて注文に大變都合かよい。

かくしてシェーニング氏は本國へ旅立つたが、日本の新興紅茶は、いよ／＼その面目を發揮せんとするの勢を示すに至つた。この年の四月、偶々セイロン・リプトン會社コロソボ支配人ダウドニー氏日本茶業を視察し、静岡縣牧野原の大茶園に至り、缺摘みの實際を目撃し、次の如き興味豊かなる談話を試みたが、日本紅茶と、印錫紅茶との根本的相違點が、この邊にあることを深く味ふの要があるであらう。

セイロンの摘採と日本の摘採

セイロンでは約十日毎に摘採を繰返し居るのに、日本では一年間に三回か四回しか摘採せぬ。それでも其の收穫量は日本の方が遙かに多い。これは茶園の栽培状態を異にし居る點にもよるだらうが、眞の原因がどこにあるか不審に堪えなかつた處、今度日本に來て其の實際を見て始めて合點がいつた。といふのはセイロンでは現在三葉がけよりか更に進んでは二葉がけより摘まないのに、日本では茶園全體を狭く取り取つて、それを全部製造するのだから、收穫量の多くなるのは當然だ。つまりセイロンでは摘まずに捨てる、終ふ部分も、日本では丹念に摘み取つて製造するといふ相違が、斯くの如き結果となつて現はれるといふことを知つたのである。

是等新興紅茶の問題が、日本當業者の神經を刺戟し居る間に、特販事業の、後の足固めとして、北米シカゴの進歩一世紀萬國大博覽會を舞臺とする、日本茶宣傳の花々しき運動が展開されたのである。即ち我が特販委員會では、昭和四年度の豫算を以て、對米五箇年繼續の廣告戦を打切り、爾後四年間その剩餘に繰入金を積立て、總額二十七萬圓を以て、シカゴ博に全力を注ぐことになつたもので、八年六月一日から開會の同博日本館内に、喫茶店と、お茶室とを施設し、夏期は、抹茶によるアイスティーを供給して賞賛を博し、お茶室に於ては、『茶の湯』の手前を以てその幽玄相を含蓄せしめ、共に多大の成功を収め得たことは人の知る通りである。このシカゴ博に對しては、中央會三橋理事及び静岡縣聯合會宮本理事、相次で渡米監督として親しく内外の施設に當り、その經驗は將來の新方針を定むる上に於て大なる助けとなつた事尤より争はれぬ。従つてこの年の對米輸出は、その數量に於ても相當見直したるやの觀あり、露國を始め北阿及び近東印度地方への新販路と共に、我が製茶貿易は著しく多角色を帯ぶるに至つたものである。

對滿販路の獲得にいては、前述の如き經路により、漸次その輪廓を明確ならしめつゝあるが、更に基礎を固むるの必要あり、請願又は建議を以て、政府當局を動かす一方、中央會議所中村會頭は、自ら進んで滿洲視察を發願し、八年八月静岡を發し、南北滿洲各地に足を踏み入れ、新京に於ては執政に面謁、日本産の綠茶紅茶各三斤を献上し、日滿貿易に關して懇話を申上げ、大連に於ける滿蒙博の製茶出品狀況をも審きに觀察して歸來、左の如き意見を發表した。

中村會頭の滿洲視察談

◇滿洲事變勃發以來、東洋の天地は急テンゴを以てその地圖を塗りかへ。滿洲三千萬の民衆は、執政溥儀氏を戴いて嚴然獨立を宣し、友邦日本と共に文化の大統を明かにすることになった。日本茶の滿洲に於ける、同國の獨立以前は、支那茶の無税なるに對し従價三割と外に附加税とを課せられたが、國慶こゝに定まりて、昨七年十月から關稅自主を實施し支那茶も日本茶も一樣に三割課税となり、日本茶に對するハンデイヤップは除かれた。そこでこの新興滿洲を一瞥の要あり八月八日故國を出發、十八日には新京に於て執政に面謁、日本産綠茶紅茶を献上し、財政部に對して日本茶の關稅保護を要望したる上、各地を視察した。

◇滿洲國新版國內に於る一年間の消費茶は大體一千五百萬斤と稱せられ居るが、他の觀察によれば滿洲人一人の消費量少くも平均一斤に上るとの事であるから三千萬斤と見ることも出来る。その輸入茶の大部分は支那茶で綠茶は、福建産が多く、紅茶は安徽、湖南、湖北産である。綠茶としての種類は、毛峰、大方の二種で、毛峰は外形我玉綠茶の原茶に類似し、大方は茶中味の如く扁平である。何れも茉莉花の花香を付け、茶本来の香よりも花香を賞味する。龍井茶は茶の本質を賞美せられるも價高く一般向にはならぬ。紅茶は砂糖を加へず薄く煎出し綠茶と同様の飲み方をする。又一部には玫瑰花と稱する一種の野バラを混入愛用されて居る。

◇滿洲人の嗜好に適せる茶を製造するには、福州杭州方面の産地に於て實際製造に當れる技師を聘し、研究するの要があるので、その人選方を依頼し、靜岡を中心としてこれに當らしめやうと思つて居る。兎に角滿洲三千萬の民衆の嗜好を日本茶に引付けることが出来るやうになれば大したもので、こゝに始めて我等百年の大計が樹つ譯である。

これより先き、滿洲奉天に於て蒙古諸王の代表會議が開かれた。集まる諸王三十二名、中央會議所はこの會議を機會に日本綠茶一千枚を贈呈し、非常の印象を深めたが、蒙古に對しては、豫ねて滿蒙殖民協會の杉浦春之輔氏が最も密接の關係あり、今度の蒙古王族會議も同氏の斡旋による所多く、右贈呈の磚茶も同氏の手を経たものである。是等の王族中更に選抜して滿洲各地を視察せしめたが、これに關し、杉浦氏の語る所左の如く、種々の珍話を殘して居るのである。

滿洲入りの蒙古王族

杉浦春之輔氏談

◇中央會議所から蒙古王に贈呈の磚茶は四月二十九日三十二名の蒙古諸國代表會議が定家屯に開かれた時に贈呈し絶大なる感謝を以て迎へられた。この中から選抜した十二名の蒙古王を更に新京に招き執政が謁見した。この十二王は更に新京より南下して大連に出た。

◇この一行を大連埠頭から小蒸汽船に載せた。海を知らぬ諸王に對しては乗込む前に海の事、船の事をよく説明したが、いよ／＼乗り出すと、一行の恐怖甚しく、ヂツと欄に御咄みついて動かなかつた。海は勿論の事、この諸王は、汽車、自動車、電車などもまだ知らなかつた。試みに一行をエレベーターに乗せた處、その上下することを自覺が出来ず、四五回上下せしめて實際に説明し始めて會得することが出来た。

◇一行を伴ふて市中を散歩すると、兵士の背囊が欲しいといふ。あれは軍隊のもので民間では得られないと説明しカバン店に案内すると、そこで肩にかけられるカバンを買ひ、シースを買ふ。一人が買ふと、同じやうなものを十二人總べてが買ふ。

◇新京で、執政がこの諸王一人に對して十圓紙幣で三百圓宛を賜つた。一行は、物を買ふ毎にこの十圓紙幣を出し釣銭を受取るがその釣銭を使ふものでないと思つてか、釣銭で支拂ひをしたことがない。

◇贈呈の磚茶の批評は未だ充分に聞くことを得ないが、文明の光に浴して總べてのものに感謝を捧げた一行に、日本磚茶の味も決して悪い筈はないと思はれる。

中村中央會頭は、八月の滿洲視察により、滿洲向製茶の花香付問題に關し、更に臺灣を一瞥するの必要ありとなし、十月渡臺、全島隈なく視察し、臺灣茶業の內面的情勢を研究して大に得る處あり、對滿茶業政策は是により着々その具體化を見るに至つたのである。

第二十 多望色充滿の新時代に入る

かくて鮮かしき多望色を以て迎へられた昭和九年がやつて來た。中央會頭中村圓一郎氏は、この多望なる年頭に立ち全國の茶業者に對して先づその指導方針を明かにした。曰く。

昭和九年中村會頭の年頭語

世界の轉換期に處する日本茶業の大方針としては、先づ第一に品質を改善して日本茶獨特の香味を發揚し、之を以て世界人の嗜好を誘致するの必要あるが、この品質問題の解決は、何としても從來の如く徒に量の多きを欲するといふ弊風から脱却して、眞に良質本位を以て進む所に重點を置かなければならぬ。そうすれば生産も自ら調節され滞貨に悩むやうなこともなく、販路の擴張を圖るにしても、その需用は確實性を帯び、從來の如き不安に脅かされるやうなことは萬々ないと思ふ。更にこの問題を詳説すると。

- 一、品質の改善。日本茶の特長は品質の優良に存することを自覺し、明治初年米國輸出當時の日本茶の本質を回想考慮し手採と機械の調節を完全にし、眞に品質の向上を期する事。
 - 二、茶園と製造注意。品質向上の基礎はその原料たる茶芽の良好なるに存するを以て茶樹の肥培に意を用ひ、過度の摘採を避けて茶園の管理を充分にし、而して後製造を入念にして精良なる製品を供給するのだが、それには絶えず各地に製茶の傳習事業を起し將來有爲の青年を指導誘掖するの要あり。
 - 三、紅茶製造。紅茶製造の研究と普及とを圖り、品質を向上改善し、以て海外輸出の振興に資する事。
 - 四、滿洲向製茶。滿洲向製茶を研究して之を完成し、その統制を圖りて同國への輸出を盛んにする事。
- 等である、是等の問題は既に幾度か繰返し説述された所であつて別段珍とするに足らざるも、事實上には常に新しく、特に品質の問題は我日本製茶の重要な生命であり、その死活を握る大なる鍵である。されば我當業者は一時の不況頹勢に意氣を沮喪せしむることなく、枝葉の問題に拘泥することを避け、守るべきを守り、堪ゆべきを堪へ、深く思ひを日本茶の特長發揚に致し、以て茶業百年の大計を樹立すべきである。

日本茶の多角經營は、益々その領域を擴大し、前年に於て勃興の機運を示した紅茶の製造は、果然各方面にその羽翼を伸ばし、遂に、茶業の歴史に新しき事蹟を殘して、製造四十萬貫、輸出二百萬ポンドの數字を擧ぐるに至つたものだが、この紅茶問題に關しては、茶業當局にも幾多の憂患があり、品質の改善から製造の統制に至るまで最も緊密なる指導取締に任じ、その發達に資する一方、同年には、静岡に於ける日本紅茶會社の擴大強化が行はれ、別に第二紅茶會社を起し、株主の普遍化を圖り、之を從來の會社に合併して資本金十五萬圓の新會社となし、静岡市手越に本據を構へ、製造並に買入精製と輸出の事業に邁進することになつた。その成績頗る見るべきものありて、一頃は製造飽和の状態に悩まざるゝ程であつたが、爲替安の好條件に恵まれて、北米、濠洲、歐洲その他世界の紅茶需用地へと仕向けらるゝに至つた。品質問題を切離して考ふれば儘かに成功と云ふべきだが、當時日本紅茶に對する北米紐育並に桑港よりの通信は左の如く、何れも相當の條件付期待を以て迎へられて居ることを知るべきである。

日本茶が紅茶に轉ずる最好機

(在紐育の有力茶商)

日本茶貿易の今後の發展上より見るときは、綠茶を紅茶に轉向せしむるの要があらう。紅茶は市場が廣く需用が世界的だ。之を臺灣茶に見ても、烏龍茶は一ポンド十四仙なるに、臺灣紅茶は二十仙以上で賣行も良い。臺灣紅茶の土人産額は今期だけで百萬ポンドを突破し將來尙ほ増加の勢がある。日本にても綠茶のみに執着せず、早く紅茶の製造に轉すべきである。綠茶が一ポンド十二三仙見當なるに、紅茶は臺灣土人産ですら二十仙見當に賣行く事實から見て、その生産費が多少高く付くも必ず有利であらうし。今や印度、錫蘭、爪哇の生産制限あり、今後もこの制限は繼續さるべきを以て、日本茶としては、今日が紅茶へ轉ずる絶好の機會

であらう。

かく紅茶に移るとして、それが米國に關する限り、印度錫蘭茶の如くならざるも、日本紅茶として何か特異の一點を備ふれば良い。スマトラ紅茶も、獨立しては用ひられないが、水色が如何にも優れて居るので、他の香味良きものに混合して賣行き、近來販路は非常に擴張されて居る。靜岡紅茶も、この調子で何か特異點を發揮すべきである。即ち紅茶はスコッチ、ウキスキーと同様色々混合するものにて、リプトンの生命も亦自らこゝにあるであらう。

臺灣總督府の駐在官も從來は烏龍茶の販路擴張を主として居たが、近頃紅茶に轉向し、島内に於て土人をその方に誘導して居る。要するに需用の多い紅茶を顧みざるは策の得たるものと云ひ難い。日本の主産地靜岡縣に於ては、紅茶は既に試験時代を過ぎ、實産進出の時代となりたるやに聞く。果して然らば之が爲めに多少の設備費は嵩むも、この機會に於て斷然之を敢行し、需用少く而も安價なる綠茶より、需用多く高價なる紅茶に移るは、日本産業振興上にも大に意義あるべく、この事は日本の政府に對しても進言しやうと思ふて居る。

靜岡縣の氣候は印度茶の生産地たるデージリンに比してやゝ暖く、セイロンに比して低溫、總じてこの二地方の中間に在り、雨量の多き點はデージリンに似たるものあり。紅茶製造に對するコンデイションは必ずしも悪いとはいはれない。吳々も日本茶業將來のため、紅茶の製出に努力せられんことを望む。(昭和九年三月靜岡縣聯合會に寄す)

日本紅茶好評

御送付の茶の内、日本紅茶は本年初めて受取りたる儀に候處、早速米人間に試みさせたる結果は極めて良好にて、何れも本當に日本に斯様な立派な紅茶が出来るかと驚き居り、中には何故今日まで斯様な紅茶を製造輸出せざりしかと不思議がり居り候。臺灣産の紅茶よりは遙かに優れ居る様に存ぜられ候。猶追々各方面に提供し大に本品を宣傳可仕、兎に角今回の紅茶は前途極めて有望に有之候間今後大に力を注がれ、ますゝ改善して近々新しき一大貿易品に仕上げらるゝ様熱望仕候。(十月三日香港商品陳列所渡邊主任報告)

更に北阿モロツコ及び印度アフガン方面に關する狀勢も、大に進展を續け、春の議會(第六十五議會)に對しては、宮本雄一郎代議士を提出者に、賛成者三十五名を以て、左記の如き建議案を提出滿場一致を以て可決となつて居る。

北阿弗利加「カサブランカ市」及「アルチャー市」ニ日本商品陳列館設立ニ關スル建議

政府ハ我が國各種生産品ノ輸出貿易助長ノため北阿弗利加「モロツコ」國「カサブランカ」市及「アルセリア」國「アルチャー」市ニ日本商品陳列館ヲ設立セラレントヲ望ム

(理由)北阿弗利加「モロツコ」國及「アルセリア」國ハ何レモ佛蘭西ノ保護領ニシテ近時歐洲ノ文化ニ浴シ進展ノ狀況他ニ其比ヲ見ザル所ナリ。本邦トハ昭和三年頃ヨリ直接貿易開始セラレ其數量ハ未ダ僅少ナルモ將來本邦製品進出ノ可能性多ク本邦品ノ一大消費地トシテ最モ有望ニシテ、製茶、綿布、絹布、其他雜貨ノ輸出ニ於テ其實績ヲ見ルヲ得ベシ、然ルニ現在右兩國ニ對シ本邦生産品ノ紹介販賣ニ關スル施設ナキハ頗ル遺憾トスル所ナリ。今ヤ本邦各種物資ノ生産狀況ヲ考察スルニ、海外ニ向ツテ輸出貿易ノ發展ヲ企圖スルハ焦眉ノ急ニシテ其方策中本邦品ノ紹介ヲ爲スヲ最モ効果的ナリト信ズ。故ニ右兩市ニ日本商品陳列館ヲ設置シ本邦品ヲ陳列公衆ニ觀覽セシメテ之ヲ宣傳シ、以テ販路ヲ擴張シ輸出貿易ノ振興ヲ期セラレタシ、是レ本建議ヲナス所以ナリ。(九年二月十六日)

又中央會の梅原義治、靜岡縣聯合會の田中敬三兩氏は、印度アフガンから近東地方茶業視察の命を受け、八年十月四日相携へて出發、旅行半年、九年四月六日神戸着歸朝したが、アフガンに於ける製茶需用狀況に關し、田中敬三氏報告の一節を摘録すれば左の如くである。

アフガニスタンの好む茶

(田中敬三氏視察談)

アフガニスタン視察によつて、茶の需用狀況を考ふるに、印度國境のベシヤワル方面及びカシミール方面に行く茶と、南方のクエ

タ及びチャマン方面に向ふ茶は珍眉形が第一で、次がハイソン系であるが、アフガンの南方及び西方ではハイソン、珍眉が多く需用されて居ることを知つた。日本では、この珍眉とハイソンは最近餘程巧みに出来るやうになつたから、この方面には日本茶が比較的よく進出して居るやうである。然るに首都カブール方面に對しては支那茶の八割以上に對して、残りの二割を印度茶と日本茶で受持つといふ状態である。つまりカブールを中心とするアフガン北部地方に使用される緑茶は、大形の丸まつた茶で、日本ではこの種の茶は未だ充分に良く出来て居らない。若し日本でこゝろいふインペリアル形の大形茶又はこれに近い形の茶が出来て、支那茶と同様格安で供給し得るならば、北部アフガンの需用を全體の二割よりズット上せることはそんなに困難ではあるまい。併し現に静岡で製造して居るやうな下級の玉緑茶では、支那の安い大形の茶に對抗することは一寸六ヶしいであらう。従つて、大形でよく丸まつた茶を製出しそれを格安で送り出すことが對アフガン貿易擴張の第一策であるが、日本茶同志の値下げ競争は却つて向ふの商人に不安を抱かせる因になるのだから、この間充分なる統制を圖ることは、最も必要の事であると思ふ。

尙ほアフガニスタン歸りの或る一人は、日本輸出茶統制の必要について左の如き報告をなして居る。

アフガニスタンに於ける日本茶の無統制なる濫賣には全く驚くの外はない。一項折角支那の緑茶を運送して其販路を蠶食したる我々緑茶の販賣振りを見るに、從來支那茶は一ポンド八十錢位の市價であつたから、我々は七十錢内外を以て一般に値段を統制して賣出し充分に支那茶に勝つべき自信あるに拘らず、無統制と無責任の焦慮より急激に三十錢以下に値下して濫賣したるため、自他共に儲けなくなり、小賣商人等は高い支那茶を取扱ひたる當時の方が値段も一定して相當の利益を得たるに反し、安い日本茶となつて却つて損をするとの不平を訴へて居る。即ち自己製品の實際價值を、無統制の同士打から單獨に切下げ、相手國の狡猾なる一部の商人の術策に利用せらるゝことは高價なる骨折損といふべく、是等自己の製品に對する眞の愛着心の缺乏は、外敵に敗るゝよりも恐ろしい結果を招く。この苦杯は、モロッコに於ても同様これに喩して居るではないか。(横濱商工時報所載)

更に北阿モロッコに於ける『日本貿易の地位』と題する。駐佛佐藤大使五月二十三日付の報告中、製茶に關し左の如き注意を喚起する文字があつた。

モロッコに於ける日本茶

第二表掲出品目中、茶のみは他品の増加に反し著しく減少を示して居る(一九三二—三三年度約五百萬法減)この減少は、モロッコ土人が由來支那茶を嗜ぶの習慣に基くもので、支那茶は日本茶に比し高價なるにも拘らず、風味、色彩等の點に於て、土人の嗜好に適するが上に、傳統を嚴守することの強き風習があるから、日本茶を以て支那茶に取つて代らんとするには日本商人側に於て餘程の努力を拂ふの要がある。即ち日本茶商側が、モロッコ輸入商と能く協調を保ち、之に寛大なる信用を與へ商品の委託販賣を認め、且つ茶の品質に關し、土人の嗜好に投ずるやう能ふ限りの改良を施すことが最も必要である。これは中々容易の業ではないが、往年この國內に牢固たる地盤を擁して居た英國綿紙布ですら 今日廉價にして體裁よき他國品に取つて代られる事例に徴し、決して不可能事といふことは出来ない。今日支那が茶の一品によりて巨額の輸出(一九三二年約八千萬法)をなしたる事實に鑑み日本商人側に於ては一段の注意を喚起する要あらん。(五月二十三日佐藤大使報告)

この年東京に汎太平洋佛敎青年大會が開かれ、これに出席の印度代表スリー・ジナパンサー師は、歸途静岡縣を訪問、牧野原茶園を視察し左の如き興味ある觀察談を試みた。先に訪日のリプトン會社支配人ダウドニー氏の言を裏書して日本當事者に多大の感銘を與へた。

私の兄弟が錫蘭で茶業を経営して居るが、印度の茶は、まだ開拓の餘地があるので、若し日本から資本をもつて来る人があればお世話をしてよい。牧野原で日本の茶園を見て感じたが、錫蘭で三葉摘みといふのは、一芽を加へての三葉摘みであつて、同時にその下の四葉目の葉を半分以上切る。これは次の發芽を促進する爲めである。新株にするに錫蘭では約一週間にして見事に發芽し次の三葉摘みが立派に出来るのである。これから見ると日本の摘方は如何にも亂暴のやうに思ふ。

上來屢々茶の藥効について記載する所あつたが、更に、九年度中に發表された各種の藥効説をこゝに紹介しやう。その第一は、京大齋和田博士の糖尿病に對する實驗であつて、これは前にも少しく述べておいたが、九月七日の『大阪時

『事新報』は左の如く報じて居る。是と同時に東大農學部山本農學士は自己中毒症に緑茶の効果あることを説き之を『茶業界』に發表して居る。

妻和田博士の糖尿病實驗

京大箕和田益二醫學博士、小川青七郎醫學士は元來結核を専門とする醫員であつたが、その手にかゝつた結核患者が、偶然にも緑茶によつて尿の糖分を減せしめ、インスリンの注射を行つたと同様の効果を擧げることが出来たといふ實例から、更に他の患者にも緑茶を服用させた結果、緑茶が糖尿病に對して偉効あることを發見したのである。その實驗は、患者十人に對して行はれたが、その總てはニールランデル氏法陽性、ヘンス氏法陽性で尿中糖が一パーセント三から多いのは五パーセント六であつたが、茶を服用し始めてからは、ニールランデル氏法、ヘンス氏法共に陰性に轉じ、大部分は尿中糖の定量皆無となり、重症者も〇・三パーセントまで糖分が減つた。これは尿に含まれた糖分だけから見た現象であるが、十人が十人まで尿の量が減じ且つ夜中の放尿四五回で、從來水とか番茶とかをガブ／＼飲んで居たものが、緑茶を飲みはじめたから、水や湯の要求が減じ、夜の放尿回数も一回か又は皆無といふ好結果を得た。糖尿病に奏効の茶は所謂薄茶、濃茶で煎茶はこの場合薬用として効果が少い。それにこの緑茶の飲用は藥品を注射するのとは患者の氣持が全然違つて、いかにも楽しみながら病氣を癒す事が出来るのだから、實にアトホームな愉快な療法といへやう。そのお茶の用量は普通の茶事に使はれる飲用の方法と用量、即ち一・五グラムの挽茶を攪拌したものを一日數回用ひれば良いのである。その外に緑茶の良いことは他の薬を用ゆる場合のやうに食養生といふものを行はず、特に有害な食物を避けたら何を食べてもよい。しかも何の苦痛もなく病氣を簡單に、そして費用もかけずに癒せるといふ特徴が推奨に値するのである。(大阪時事より)

自家中毒症と緑茶の妙用

農學士 山本 領 三

自家中毒病といふのは、毒ならぬ物を食し、それが體內に於て毒成分を醸し、自ら其毒に中るものであつて、食物の分量が配合か又は攝取の方法を過つたが爲めに、その食物が正しく消化吸収せられず、細菌などの爲めに醗酵を起し有害無用の異常成分を生ずるもので、この成分は他の毒物の如き恐るべき性能はないが、消化器内に於て常に成生吸収せられ、其排泄順調に行はれない時は組織内に浸入停滞し、組織や臓器を害し遂には生理機能の範圍を越えて病的に陥らしむるものである。

そこでこの自家中毒を如何にして治癒するかといふに、要は正しき食事、正しき體內清淨、正しき思考等によりて豫防治療し得べきである。精製されたる澱粉質、脂肪類、蛋白質、砂糖等は如何に酸性中毒症を起すとは云へ今日吾人の食糧の基礎を形成するものであればこれは一日も缺くことは出来ない。だから是等の食物が成生する酸を中和し、毒作用を防ぐべきアルカリ性へ成分を供給する保護食物(アルカリ食品)を充分に攝取してその缺陷を補ふのだ。アルカリ食物として最適のものは新鮮なる果實と蔬菜類及牛乳等であるが、大抵のものは毎日全食量の四分の三は是等の物を取り、残る四分の一或はそれ以下の量が澱粉、脂肪、蛋白質等の攝取量となる。新鮮なる野菜、果實類は最良の血液清淨劑であり、しかもビタミン類、礦物質の供給元なのである。

ソコで緑茶は、アルカリ食品中に於てアルカリ度の最も高いものであるから、これを適量に攝取すると酸性自家中毒を治癒するのみならず、平常飲用して豫防劑となすことも出来る。古來我國に於て茶道の尊ばれたるも、儀禮娛樂の外不知不諱の裡に自家中毒を防ぎ又は治癒せしめて居た事は、眞に自然の妙用といふべきであらう。

この自家中毒の豫防治療説は、前からもあつたが、各種の藥効説と共に益々明瞭になつて來た。更に滿洲事變後、この茶を原料とした熱量食が完成されてそれを『突擊錠』と命名し滿蒙の曠野に帝國の生命線を守る皇軍將士に支給され偉功を奏したことが傳へられた。この『突擊錠』は挽茶を原料としてキャラメル様に精製され一個の錠劑が三百カロリーのエネルギーを供するものに匹敵するものであるといふ素敵な稱賛を寄せられたのである。

次に我が陸軍では、軍隊の糧食に關し、夏時に於ける『餉えない飯』の研究を續け、これに各種の防腐劑を用ひて居たが同時に茶飯の効果にいても比較研究を重ねた結果、番茶の液汁を以て炊きたる米麥飯の防腐力偉大なるに一驚を喫

した程で、右は、九年七月、陸軍糧秣廠陸軍主計大尉小島四郎氏によりて發表されて居る。その大要を摘録すると左の如くである。

防腐茶飯の効果の研究

陸軍主計大尉

川 島 四 郎

茶飯は他の防腐劑を入れた飯よりも腐敗を防止するの效果顯著である。米飯に對する腐敗抑制力は番茶最も大にして煎茶、種茶之に次ぐ、然して番茶は煎茶の約五倍の腐敗抑制力を有す。茶飯はこれを連食するも無害にして飽腹することなく一般常食として寧ろ嗜好に適す。

更に茶の防腐力と他の藥劑のそれとを比較するに、その用法は、茶は番茶の二%浸出液を用ひ胚芽米に對しては四%にあたる。其他の防腐劑は米の量の〇・一%を用ひたが、その結果腐敗抑制力の順位は次のやうになる。

- 一、番茶
- 二、タンニン酸(共に飯は食し得)
- 三、サルチル酸
- 四、アジノミン
- 五、安息香酸曹達
- 六、硼酸
- 七、無添加對照(第三以下は食するに堪へず)

これによるも、番茶飯が他の防腐劑使用のものより如何に效果的であるかを知るに足るであらう。過酸化水素は牛乳の殺菌に用ひらるゝは公知の事實だが、これを飯の保存に應用する場合、單獨では效果左程大ならざるも、茶と併用するときは偉大なる効果を表はす、尙ほ蒸汽釜にて三十分炊飯せるものにつき見るに三十五度一ヶ月後、他のものは悉く腐敗せるも、過酸化水素を添加せる番茶飯は腐敗しなかつた。

過去一ヶ月餘の試験狀況に徴するに三十分炊き四%茶飯。一時間炊き四%茶飯。三十分炊き四%茶飯に過酸化水素〇・二%添加のもの等は腐敗せず、他の茶飯にあらざるものは總て腐敗を認める。

この茶飯を炊くには、米の重量の四%程度の番茶を豫め煎出しおき、その液を以て炊飯する。茶の分量は米一斗に對し百六十匁程度を適量とす。尤も茶の量の大きな程防腐力を増大するものであるから嗜好を考慮して増減するがよい。(茶業界より)

この年、静岡縣聯合會議所では、滿洲向製茶研究の爲め福建省閩候の再製花付茶師吳依瑞(五十一歳)吳壽忠(二十歳)の父子及び杭州の製茶師方念祖(二十八歳)三氏を迎へ、同會議所機械研究室に於て、毛峰、大方の製造再製花付を實驗の結果、その製造を機械化し、釜炒機、扁平ローラー等を考案、これを以て製造したる毛峰、大方の素茶を滿洲に試賣すると共に、一方、大連の茶商源盛徳號の安召棠、營口の世昌徳號辛級三、ハルビンの東發合號王省三の三氏を招き、これが批評を求め、會議所に於て縣下茶商と共に座談の會を催したが、その際、安召棠氏の試みた談話は次の如くである、

滿洲に入る茶は、大正三四年頃には一千六七百萬斤を算して居た。この中にはシベリヤ鐵道によりロシアへ送られる紅茶その他を含んで居たので、滿洲に於ける消費は大體一千萬斤といふ所であらう。今日に於ても先づこの程度の數字に人口その他の關係による増加を見込めば大なる違ひはあるまい。勿論確たる統計といふものがないから數字は元より明瞭を缺くが、この需用に對する供給は大部分支那茶であつて臺灣よりも幾分輸入して居る。今度牧野原を見て、日本茶も必ず滿洲に入るべき可能性あることを信ずる事が出来る。だが値段は兎も角として、品質はまだ支那茶に及ばない。この點は將來大に研究すべし所であつて、昨年製造のものより本年のものの方が遙かに向上して居るなどの事實は非常に心強く、こゝで今一段の努力を試みたなれば、必ず滿洲向のものが出るに相違ない。つまり本年拜見の日本茶は、形と色とは先づ申分ないが、味に於て遜色がある。此の味は花香を加へることによつてズット違つて来るから花香付の研究といふものが大切になつて来る。要するに滿洲向の日本茶はそこまで進んで居るのであるから大に望みを囑ふことが出来る。

取引については今の處現品取引の外はない。見本取引もないことはないが、それは永年取引を續け相互に信用が出来てからの話である。新しい取引は勿論、臺灣に對しても皆現品取引で、これはどうも致方がない。それから現在普通の日本茶が滿洲へ向くかどうかは俄かに判断しかねる。花香は絶対に必要のものではないが、現に滿洲では花香茶が八十五パーセントを占め、素茶が残り十五パーセントを需用せられるに過ぎない狀況であるから、花香は滿洲に於て大部分の嗜好を捉へて居ることが見逃せない事實にな

つて居るのである。紅茶は五六十斤入のもの六萬五六千箱を輸入して居ると思ふ。良い日本茶と云ふことは元より結構の事ではあるが、一般の滿洲人は從來支那茶以外に嗜好の經驗を持つて居ないのだから、今のまゝではどうかと思ふ。殊に最近花香茶の需用が年々増加し素茶は減少の傾向があり、同じ花入でも、大方が次第に毛味の領域を侵食しつゝあるといふのが現状で、輸入の關門は、今の處大連と營口とである。

既に我が『日本綠茶販路擴張特別聯合委員會』は、時勢の變遷に伴ひ、綠茶のみに局限するを許さず、紅茶其他にも領域を廣むるの要あり、九年十月『日本綠茶』に代ふるに『日本製茶』の名稱を以てし大に多角的經營に向つて新なる歩調を取るに至つたことは人の知る通りであつて、これと同時に、砒素劑使用禁止に伴ふ、砒素檢出の理化學的事業を開始する事となり、この年八月を以て、中央會、靜岡縣聯合會協力の化學實驗所を靜岡に設け、専門技師を置き輸出茶審議會と歩調を合せて、日本茶の信用向上に努力を拂つて居るのである。

斯の如く、内に外に多事多端を極むるの時に當り、中村中央會議所會頭は、歐米視察の志を立て、九年七月二十六日横濱を出帆、先づ米國に渡り各方面を視察、それより英國を始め歐羅巴各地に足を踏み入れ、入露の豫定を變更して印度洋經由、十一月三十日神戸着、十二月一日靜岡に歸る。この日恰かも東海道線丹那トンネル開通しその記念の前に人々の目は輝いて居た。

中村會頭は、歸來行李を整理するの暇もなく東奔西走を續けつゝ、外遊の思出と將來に對する見透しとを語られた。その要領は左の如くであるが、この會頭の歸朝を迎へて、茶業五十周年の花々しき盛典は昭和十年二月一、二、三の三日間を期して帝都に於て行はれたのである。

この意義深き茶業五十周年の一大金字塔は、日本の茶業が、從來の偏在獨存的舊套を脱して、世界的依存を目途とする次の新時代に移る輝かしき標識と見ることが出來やうし、其新販路は歐亞の大陸から遠く南米にも及ばんとし、紅茶の

進出、滿蒙向茶及び磚茶の研究は更に一段の歩を進め、商權と生産と能くその向ふ所を一にして益々茶業の根底を固めつゝあるは洵に意を強ふるに足るべく、我が全國百萬の茶業者は正にこの機を逸せず内に外に一大飛躍を試み、皇國日本の名に於て、邦茶の強味を世界に光被せしむることを以て、自ら負ふべき當然の責務なりと心得、全努力の傾倒を惜むものでないことを深く信ぜんと欲するものである。こゝに中村中央會頭の含蓄多き歐米視察談を掲記して本章記述の完璧を期する次第である。

中村會頭歐米視察談

(昭和十年一月靜岡に於て)

◇自分は年久しく歐米の日本茶需用状況を視察したき希望を抱いて居たが、身邊多事これを果すを得なかつた。幸ひ今回其機に際會、九年七月故國を離れ先づ米國に航し更に歐洲諸國を訪問、バルカンより歸途はソヴェトを通過の豫定であつたのを變更して印度洋を經由、約五個月にして歸つて來た。

◇米國は日本茶第一の輸出地であり、昨年はシカゴ博で喫茶店宣傳を試みたお馴染の國である。桑港に着いて見ると、三十餘年前曾遊の當時とは面目一新全く舊態を止めて居ない。到着早々ブランドンスタイン商會の工場を訪問した。この商會は我國に中島兼吉氏を置き専ら靜岡縣小笠原の良茶のみを取扱つて居る。工場では盛んに袋詰などをやつて居たが、是等の茶に『ツリーティー』のマークを付け、珈琲と共に有力な販路をもつて居る。桑港には我が商會の書記長渡邊久克氏や陰山正夫氏が居て便宜を與へて呉れた。萩原喫茶店も永く日本茶を宣傳し、クリューハウスにも日本の喫茶店がある。この外堂本池田の諸氏克く日本商品の輸入宣傳に力を致して居る。

◇去つてシカゴに行く。先づ第一にエットリブ未亡人を訪問する。未亡人は今愛婿の許に在る。日本在留當時の話は盡きぬ。記念に銀製花瓶を贈ると、未亡人は先年中央會議所から故人に贈つた大花瓶の傍に列べて日本人の情誼を故人の靈にも告げて非常に喜ばれた。華盛頓では、大統領に製茶その他を献じその禮状は伯林に於て手にしたが非常に鄭重なものであつた。シカゴのヘリヤ

又はシーゲフリードなどの商會では、日本茶の販賣について、容器やその他に様々の意匠を凝らし熱心に販路の擴張に當つて居たが何とも云へぬ愉快であつた。尙ほ先年駐日大使として牧野原をも視察されたソグエートのトロヤノフスキー氏は目下駐米大使として米國に居らるゝので面會した。同氏は日本緑茶を飲み馴れ夫人と共に日本茶の愛好者になつたが、米國に来て旨い日本茶の見付からないので困ると述懐されたので、早速持参の緑茶を贈つた。

◇買陽宮恒憲王殿下、同妃殿下御二方が日米協會長チャンドラー氏の別墅に成らせられた時、先年日本に來られ、禪や茶に親しみのあるエグレット氏夫人並に令嬢エレノア嬢にも拜謁を賜つた。エレノア嬢は裾模様の日本姿で、裏千家の手前で抹茶を献じたが妃殿下も、お附の杉村氏夫人もお茶には御造詣が深く、その手前の堂に入つて居るのに感ぜられたとの仰せであつたと承はる。エグレット夫人は久しく京都南禅寺で座禪を修業せられたが、當日も來會者に對し「禪は最高の學問であり修業であつて、是は世界中獨り日本のみが有する至上兩玄の哲理である。従つて私はそれを慕つて懸々日本に參つて修行したのである」と語り一同を驚かした。

◇昨年開會のシカゴ大博覽會の日本茶室は、色々交渉の結果ジャクソンパークの日本風殿の傍に移した。風風殿は宇治の風風堂に象つた壯麗なもので、米國では今度この内部を改造し、日本商品陳列所となし、これに右の日本茶室を附屬せしめ、日本商品の販賣者に日本茶を飲ませる仕組になつて居る。經費は五萬弗、今後は在米邦人の手によつて大に活用せられることにならう。シカゴ博は、本年も續いてそのまゝ開會したが我國はこれには參加せず、喫茶店も神宮榮藏氏に引受けて貰つた。場所が良くないので神宮氏は家族總出で客引宣傳に骨を折られ、結果に於ては相當の効果をあげられた。

◇在米の茶商やその關係者は口を揃へて日本茶の品質低下を嘆じて居る「こんなに香味が無く品質が低下しては、値段は安くても到底嗜好を繋ぐことは出来ない。安い品が賣れるからといふて、單に安いといふ丈の品を製造して輸出して居ては、日本茶自ら墓穴を掘るものだ、一時の利益は犠牲にしても香味の優れた良茶の外は斷じて輸出しないといふ確手たる態度が必要だ」といふのである。ヘリヤ氏も、シーゲフリード氏も、アングロアメリカンも、カータ・ハート・メイシーもその他何れの商會も皆同一意見であつた。三十年來の親交で紐育に在るジョン・マクナマラー氏は、曾て臺灣烏龍茶が品質を無視した爲めに米國の需要の半減した例を引き

「日本茶は今何物を犠牲にしても品質の改良を斷行すべきである」と忠言を試みられ、今一人の古い親友であるアーウィン・ホキット・ニー商會本店の専務にして米國茶業組合長なるロバート・ヘクト氏も同様の事を力説し、カナダの茶商も隨々書を寄せて「カナダに入る日本茶が斯んなに悪くなつては、ウ發展の見込がない」と訴へて來た。洵に尤も千萬の言で、これが爲には私はどうしても嚴重なる輸出検査を必要とするものである。この事については歸朝後在靜岡の米國茶商マッケンヂー氏からも「烏龍茶は最初支那の福州から米國に輸入されたが、品質もよく嗜好にも協ひ需用が増加すると俄かに品質を低下したので需用減退し、これに代つて入つて行つた臺灣烏龍茶も、最初は立派な良品であつたが、支那茶と同様の轍を踏んで、一時最高千五六百萬ポンドのものがその何分の一かの微々たる數量に落込んで終つた。良茶はどこまでも必要である」といふことを聞かされた。紐育老茶業大家ネーソン氏も約四十年間の統計を根據として品質の問題が取引の消長に如何に密接の關係あるかを説かれたなど皆日本茶に對する味ふべき慈父の言である。

◇紅茶は世界どの國でも用ひない處はないまでに普及されて居るから販路は極めて廣く、我が紅茶も進出の餘地は充分にあると思ふ。紅茶の消費は英國が最大最古で、倫敦では一週三回づつ販賣が行はれる。一回の取引何百萬圓。品質、嗜好に應じてこのマーケットから各國へ送り出す。靜岡縣では、昨年來多量の紅茶が製出され、級茶以上の利益を収めたやうであるが、日本紅茶の仕向地は高級ならざる需用地で、その量も少く、只値段が安いことのみが強味になつて居る。現在歐洲のバルカン半島では我紅茶の評判は存外に好かつた。元來紅茶の鑑別は需用者の方が進んで居るのであるから、日本の當業者が現在の品質で充分なりと徒らに量の多きことのみを求むるに於ては忽ちにして悪質茶の生産過剩となり、價格の暴落を來し悲慘なる失敗に終るであらう。我茶業が將來紅茶を以て世界に確立せんとすれば、小成に安んずることなく、品質の根本的向上を圖り、倫敦市場を目標において進撃を續けなくてはならない。即ち眞剣なる製品改良と輸出統制とは紅茶經營の二大要件といふべきである。

◇對米輸出量の著しき減少は、需用地たる米國內農村の不況にもよることであらうが、品質の低下による減少を否定することは出来ない。對露輸出は米國のやうに減退はしないが品質に於ては尙ほ遺憾の點がある。上海で見た露國行の支那茶は日本茶よりも一般香味が高い。露國は官費輸入ではあるが、矢張り國民の嗜好に投ずる製品を仕向けなければ、今日の惠まれたる數量もやがては

米國の二の舞となる心配が多分にある。

◇滿洲向の製茶については、支那産地よりその道の専門茶師數名を招きて研究し、更にこれを機械化し、種々の製品を試み、滿洲重要地點の茶商を招きて批判を乞ひ、大體の見當はついた。残された問題は花香付の一點であるが、これとても何等かの道が開かれるであらうし、着實なる足取りを以て進んだならば、親愛友邦の滿洲ではあり將來必ず成功を贏ち得るであらうと思ふ。

◇今や日本商品は世界各國に向つて驚くべき進出を續け、各國はこれが防遏に苦心慘澹の状態である。只統制に缺くる所があつて無用の競争を敢てし、自から輸出を減ずるが如き愚を繰返して居るものがある。日本の勸業館の如きも既に問題の焦點となつて居る。紐育と華盛頓間の列車食堂で蜜柑の罐詰を出した。見ると日本の清水港で出来たものだ。米人に批評を求めると『大變結構』といふ。今は大變結構でも、統制を無視するとやがて見向きもなくなるであらう。又紐育から倫敦に渡る際、獨逸汽船オイロツバ渡の食卓に日本緑茶を加へてあつたから、その茶を飲んで見るとどうも香味に不足の點がある。ソコで船長に遇つて、マツト香味の良い日本緑茶を寄贈することを約束した。獨逸の汽船にもかく緑茶の用意があるのに、日本の郵船、商船などがその主要外國航路船に國産緑紅茶を使はないといふことは、少々心得違ひであらう。私は歸途エジプトを旅行中、同國皇帝の御不豫を承り、我が領事の斡旋により宮殿に伺候して御機嫌を奉伺し、侍從長に面會の際、支那よりは年々皇帝に茶を献上するといふ話を伺つたので、今後は我日本よりも、日本茶を献上致したき旨を申出た處、侍從長は、献上には色々の手續あるも御嘉納にはなるであらうとの事であつた。エジプトからは最近棉花を日本に輸入し居り、同地に於ける日本品の評判も悪くはなく、同國總理の令兄である商工會議所會頭ヤカイロ・アレキサンドリヤ知事にも遇つたが、日本茶には非常に好感をもつて居られた。(完)

第二章 貿易及び生産消費情況

第一 貿易上より見たる日本茶

日本茶業の發祥は其據る所頗る古きも、國民産業として廣く經濟線上に現はれ來つたのは、謂ふまでもなく安政六年徳川幕政下に於ける互市開港の英斷以來のことであつて、當年の横濱新貿易市場は、歐米人の珍とする生糸と茶とによりてその殷賑を代表せらるゝといふ状態であつた。元來日本固有の幽玄古雅なる茶道には主として抹茶を用ゐられ、豊太閣備す所の北野の森の大茶會以來著しく大衆色を帯び、その忙びの味ひは、深く我が國民性に喰ひ入つて茶道の生命を長きに傳へて居るが、貿易市場に乗り出した日本煎茶は、徳川中世期より起り、宇治の永谷翁から京洛の賣茶翁によりて更に大衆化され、安政以前に於ても既に外人の飲料趣味を唆つたことがある。其煎茶が、横濱開港の第一線に活躍するに至つたのは、嘉永のアメリカ特使ベルリ一行が、江州朝宮茶を接待され、日本に香味芳烈なる煎茶あることを知り、他日交易開始の曉は、茶詰めこの日本茶に觸手すべきであるとの意志を表示したのに力強き近因があつたのかとも思はれる。開港第一年の輸出茶取引は六月以降の半年間に過ぎなかつたが、それでも既に四十萬斤を賣り、値段は八弗から十八弗と云ふのであつて、その規格が今日の茶に比較して如何なる程度のものであつたかは、實物標本がなく元より之を知るに由なきも、恐らくは一番茶の嫩芽を手摘み手揉みしたものに相違なく、たとへ製法は幼稚なりしにもせよ日本茶としての魂は確かに打込んであつたものと思ふ。従つて歐米の外客が、争ふて之を買入れたものと見るを得べく開港第二年の萬延元年には百二十萬斤、その翌年は三百六萬斤といふやうに急速度を以て發展を遂げ、八年後の明治元

年には早くも一千万斤を突破するに至つたことは、當時の不確實なる統計にも、明かに之を記録して居るのである。この時代に於ける日本の茶業は、國民傳統の茶道趣味を引継ぎば純然たる貿易本位であつて、當年の茶業者は、主として輸出のために製造且つ賣買し、内地需用といふが如きことは深く考慮に措く餘地はなかつたものゝやうである。之を統計に見るも、製茶に關しては貿易線上に於てのみその数字を發見し、内國生産に於ては、貿易開始後二十年を過ぎた明治十一年に至りて漸くその大要の数字を窺ふことが出来るのみである。而かもその数字たるや、最初は輸出の額よりも少く頗る奇異の感を抱かしめて居るが、是は貿易にのみ力を入れ、供給方面に對して深く思ひを致さなかつた爲めとも見られ、從つて明治初年に於て、早くも製品の供給不足を來し、産地に在りては不正不良の茶を平氣で製出し、スエズの運河並に米國大陸鐵道の開通せる明治四年以後には需用地より手厳しき苦情を持たれ、日本政府の勸業寮などは大いに狼狽して製造上の注意警書を發する外、紅茶の研究にも手を染め出したのであつた。勿論當時の日本茶は主として米國へ輸出したものであるが、それが如何なる方面へ如何なる用法で消費せられ居るかに就ては未だ充分の調査が屆いて居ないので、製造法の改良といふても、如何に改良すべきかの明確なる方針などは元より樹立すべくもない。生産と輸出との統計喰違ひなども恐らくはこんな處から出て居るのではないか。それは別表統計にも出て居る如く、明治十一年より十三年までは、輸出の方が遙かに多く十四年に至りて、始めて生産が一步前進して居るのであつてそれから漸を追ふて、内國生産に關心を深めるに至つたものとも想像せられるのである。今この數年間の生産と輸出の數字を特に採録して見ると左の如くである。

年 別	内 國		海 外	
	買 入	生 産	輸 入	輸 出
同 十 一 年		三、八六、五三三		三、七九、〇七〇
同 十 二 年		三、六二、七二四		三、六三、〇七〇
同 十 三 年		三、三〇、六六一		三、三三、六六六
同 十 四 年		三、六〇、一五六		三、八三、八九二

年 別	内 國		海 外	
	買 入	生 産	輸 入	輸 出
明 治 十 一 年		三、八六、五三三		三、七九、〇七〇
同 十 二 年		三、六二、七二四		三、六三、〇七〇
同 十 三 年		三、三〇、六六一		三、三三、六六六
同 十 四 年		三、六〇、一五六		三、八三、八九二

明治十年前後の日本の國情としては、輸出に對する生産不足を他より移輸入する道なく、畢竟この數字の矛盾は生産統計の不備に基くものと見るの外はない。斯くて明治十五年米國の不正茶輸入禁止令に驚き、日本の茶業者も對外的に自ら警むるの念を強め、十六年の茶業者大會、十七年の茶業組合準則發布、二十一年の茶業組合規則制定と順を追ふて茶業の統制成り、爾來内は生産の増殖改善、外は販路の擴大強化に餘念なく、全國百萬の茶業者は常に細胞的に相協力して來たのである。

今之を各種統計の上に就いて見るに、貿易よりその發祥を高めた日本茶は、明治の幕開きまでに
 △安政六年四十萬斤(百斤一八弗一八弗) △萬延元年百二十萬斤(同上) △文久元年三百六萬斤(二二弗一〇弗)
 △同二年六百五十四萬斤(二七弗一〇弗) △同三年五百六萬斤(三〇弗一二弗) △元治元年五百三十萬斤(三八弗一二弗) △慶應元年七百九十七萬斤(四〇弗一二弗) △同二年七百八十六萬斤(四二弗一二弗) △同三年九百四十五萬斤(同上)

といふ驚異的の躍進數字を示し、外人等からも日本茶の特異點を認識されつゝ、明治に入つて更に一段の發展を遂げた。當時茶の産地に於ては、先づその最上等を貿易品として横濱に送り、自家用は飛出し又は摘屑を以て之に充てたもので、農家の副業として、この位儲かつたものはなかつたのである。然るに星移り物變り、内地茶業の發展につれて、

貿易は寧ろ後退の情勢を續け、明治を通過して大正年代に入る頃から、内外の經濟状態に逆運止む時なく、上茶は之を國用に供し、輸出には安くて悪い物といふことになつて益々貿易の不振を來すに至つたものであるが、昭和新政となりて、世界の情勢更に再轉、日本茶の經營は愈々多角的となり、製造にも、仕向地にも幾多の新味が織込まれ、貿易開始から八十年、組合創立から五十年にして、始めてこゝに一エボツクを造らんとして居るのである。

製茶の輸出入及生産比較統計表

(農林省調査)

明治元年一八六八	輸出			内地生産		輸入		
	斤量	封度量	金額	封度換算	斤量	封度量	金額	平均斤
二年一八六九	二〇、一五五、五三三	一三、七九、八九五	三、五八、七九九					
三年一八七〇	八、五九、四三〇	一、三、三、〇三三	三、一〇、四〇〇					
四年一八七一	二二、三二四、〇〇三	一六、二八八、二六〇	四、五二、六二六					
五年一八七二	一四、〇六六、八五三	一八、〇六六、三三六	四、九七一、七二六					
六年一八七三	一四、七三四、六六一	一九、四九九、〇〇七	四、三三六、〇七					
七年一八七四	一三、三四〇、〇〇九	一七、六四四、八三〇	四、六九九、五三三					
八年一八七五	一九、二二九、〇〇〇	二五、三〇一、九六八	七、二五三、四四五					
九年一八七六	二二、七七八、六三三	二八、一四四、二八四	六、八六二、八五五					
一〇年一八七七	二〇、三三六、四三〇	二六、七三三、四六六	五、四三三、六一一					
	二〇、七八一、六六六	二七、四三〇、九一八	四、七五五、七五五					

一一年一八七八	三、七五七、七九六	二八、七九、三三七	四、二五三、六九九	一九、六九	三三、八九、五〇三	一九、八五五	六、七九八	三四、〇四
一二年一八七九	六、六〇三、〇七〇	三七、八二一、九八八	七、四四三、五〇八	二六、〇三	二二、五九、〇〇〇	一九、九六六	五、八八八	三九、〇三
一三年一八八〇	三〇、三三七、六六六	四〇、二四、五六一	七、四九七、八八一	二四、七三	二六、五〇六、九八六	五、四九七	七、五七三	二一、〇四三
一四年一八八一	六、八六三、八八一	一八、一七六、六四六	七、〇二一、五三三	二四、三三	四四、三三〇、七三三	二九、三六八	七、八五三	二六、〇四
一五年一八八二	三三、三〇一、二三四	三七、四三三、九二〇	七、〇二九、七二八	二四、八四	五三、八六六、八三三	三三、一八七	七、三三八	三三、〇八
一六年一八八三	二七、八六〇、一八六	三六、八九〇、六六八	六、〇二六、四六六	二二、九三	四四、八〇〇、〇〇九	三三、三二六	五、六四七	三三、〇三
一七年一八八四	三六、八三三、七七一	四三、五二九、〇六六	五、八一九、六四九	二二、六七	四九、〇三六、〇六六	二九、九三〇	九、六〇〇	三三、〇七
一八年一八八五	三〇、九三三、一三〇	四〇、九六六、八七七	六、八八四、二〇〇	二二、二六	四四、三六六、〇三三	四六、四四一	二二、一〇三	三三、〇五
一九年一八八六	三三、六六六、七九八	四三、二六〇、七五五	七、七三三、三二二	二二、六四	五三、八六六、一五五	四八、八二八	二二、一八八	三三、〇六
二〇年一八八七	三三、六二一、五〇六	四七、〇三三、三三九	七、六三三、三三四	二二、三三	五七、六二二、七三四	二二、九九九	二二、三三三	三三、〇六
二一年一八八八	三三、一六六、七五六	四三、八七三、二三四	六、二四四、八二六	一八、四七	五九、九九一、四四六	二二、四四一	一九、二五二	三三、〇三
二二年一八八九	三三、三三六、五三四	四三、七七一、五四七	六、五二六、七五九	一九、〇四	五七、〇四四、八三三	二二、九三三	一九、八三四	三三、〇三
二三年一八九〇	三七、二五〇、七二八	四三、七二一、五三八	六、三三六、六六一	一六、九八	五七、四七、七九九	二二、三三二	一九、七五三	三三、〇七
二四年一八九一	三三、九三三、九九九	四三、八〇七、四三三	七、〇〇三、〇三〇	一七、〇六	五八、六六六、六三三	二二、四一八	一九、四一八	三三、〇三
二五年一八九二	三三、五八八、二〇三	四三、六三三、三七七	七、五五三、三三六	二〇、〇六	五九、六三三、四一八	二二、四九九	二二、七三三	三三、〇三
二六年一八九三	三三、四四三、五五五	四三、三三三、八九〇	七、七三三、〇八八	二二、三三	五三、六三三、九三三	二二、九三三	二二、九三三	三三、〇六
二七年一八九四	三三、五三三、五八七	四三、六三三、六三三	七、五三三、二六七	二二、〇三	五三、七三三、七九九	二二、九三三	二二、九三三	三三、〇七
二八年一八九五	三三、六三三、六六一	四三、三三三、〇三三	八、八三三、三三三	一九、〇七	五三、八三三、九三三	二二、九三三	二二、九三三	三三、〇七
二九年一八九六	三三、三三三、七七三	四三、六三三、四三三	六、三三三、三三三	一九、〇七	五三、三三三、三三三	二二、九三三	二二、九三三	三三、〇七
三〇年一八九七	三三、六三三、六三三	四三、三三三、三三三	七、六三三、三三三	二二、〇三	五三、三三三、三三三	二二、九三三	二二、九三三	三三、〇七
三一年一八九八	三三、六三三、六三三	四三、三三三、三三三	八、二五三、六三三	二二、〇三	五三、三三三、三三三	二二、九三三	二二、九三三	三三、〇七

年次	緑茶	玉茶	香茶	粉茶	紅茶	磚茶	烏龍茶	合計
三二年一九九	三三,七三二,六四四	四,九三九,五五九	八,四八八,七五三	二四,〇七二	六三,六六六,三三三	五一,九三三	六八,六六三	一七,六〇八
三三年一九〇〇	三三,二四〇,一四七	四,六四四,〇四三	九,〇五五,八一九	二八,〇三三	六三,一八七,一六九	一一,九八八	一五〇,七六八	二七,〇七
三四年一九〇一	三三,二四八,四七一	四,九七七,七五三	八,八三四,三七七	二六,〇六五	五九,〇三三,四四六	一一,五八八	一五五,四四四	二四,七三
三五年一九〇二	三三,七五九,五八〇	四,三三一,〇九六	一〇,四八四,〇七	三三,〇〇〇	五七,三三八,三九九	一一,五九六	一六五,八六二	三〇,四六九
三六年一九〇三	三六,一九九,六四四	四,七〇八,七七五	一三,九三五,二五三	三六,〇五二	五五,六四五,三二二	一一,三三三	一七六,五五四	三三,七〇三
三七年一九〇四	三六,六三三,九四四	四,一〇五,三三一	一一,八三三,〇六六	三六,〇〇四	五八,二九〇,九四四	一一,四八八	一七六,七八一	三三,四〇六
三八年一九〇五	三五,一五五,三三二	三,八六三,六二一	一〇,五八四,三三三	三五,〇三〇	五六,二〇〇,一五〇	一〇,九一五	一七四,七四七	三三,六六〇
三九年一九〇六	三五,〇二二,五八八	三,九七〇,一四四	一〇,七六七,〇九〇	三五,〇六六	五八,三六六,六七三	一一,〇三三	一七四,〇〇九	三三,五三三
四〇年一九〇七	三五,六六四,〇三三	四,〇六六,三五一	一一,六八三,三三四	三四,〇三三	六〇,九一一,二四九	一一,〇四四	一七四,七三三	三三,〇三三
四一年一九〇八	二六,六六三,九七七	三,六六三,一一三	一一,一五三,三七九	四二,〇三三	六一,二八八,三三五	一〇,四三三	一七四,五七七	三三,〇三三
四二年一九〇九	三〇,七四三,七〇〇	四,〇六六,八七五	一一,一五六,五九九	四二,〇三三	六六,〇五六,八四三	一〇,三三三	一七四,五七七	三三,〇三三
四三年一九一〇	三三,九四六,四七七	四,五七四,三三三	一四,五四二,三三四	四四,〇三三	六八,六六七,〇〇一	一〇,二四四	一七四,五七七	三三,〇三三
四四年一九一一	三三,一八七,五九四	四,五七四,三三三	一四,五七九,二六〇	四四,〇三三	七〇,七六一,七二〇	一〇,二四四	一七四,五七七	三三,〇三三
大正元年一九一二	三九,八八八,七〇〇	五,五三三,五八五	一五,四三三,八八八	四四,〇三三	七四,二二二,二二二	一〇,二四四	一八〇,七四八	三三,〇三三
二年一九一三	三九,三三三,三三三	五,五三三,五八五	一五,四三三,八八八	四四,〇三三	七四,二二二,二二二	一〇,二四四	一八〇,七四八	三三,〇三三
三年一九一四	三九,三三三,三三三	五,五三三,五八五	一五,四三三,八八八	四四,〇三三	七四,二二二,二二二	一〇,二四四	一八〇,七四八	三三,〇三三
四年一九一五	三九,三三三,三三三	五,五三三,五八五	一五,四三三,八八八	四四,〇三三	七四,二二二,二二二	一〇,二四四	一八〇,七四八	三三,〇三三
五年一九一六	三九,三三三,三三三	五,五三三,五八五	一五,四三三,八八八	四四,〇三三	七四,二二二,二二二	一〇,二四四	一八〇,七四八	三三,〇三三
六年一九一七	三九,三三三,三三三	五,五三三,五八五	一五,四三三,八八八	四四,〇三三	七四,二二二,二二二	一〇,二四四	一八〇,七四八	三三,〇三三
七年一九一八	三九,三三三,三三三	五,五三三,五八五	一五,四三三,八八八	四四,〇三三	七四,二二二,二二二	一〇,二四四	一八〇,七四八	三三,〇三三
八年一九一九	三九,三三三,三三三	五,五三三,五八五	一五,四三三,八八八	四四,〇三三	七四,二二二,二二二	一〇,二四四	一八〇,七四八	三三,〇三三

日本茶輸出歴年品種別統計表 (同上)

年次	緑茶	玉茶	香茶	粉茶	紅茶	磚茶	烏龍茶	合計
九年一九〇	一九,八八八,五五六	二,六三六,八八七	一七,一一二,五八八	六六,〇三三	七九,七六六,一九	四〇,四九七	五三三,六七三	九〇,三六
一〇年一九〇一	二一,八七八,三〇〇	二,七三六,四四	一七,七七八,五三八	六六,〇三三	七四,三九七,七三	四〇,四九七	五三三,六七三	九〇,三六
一一年一九〇二	二二,八六二,〇〇〇	二,九三五,六七七	一七,八八八,八八三	八,〇三三	七三,三六八,四七六	一一,〇三三	五三三,六七三	九〇,三六
一二年一九〇三	二〇,五九九,〇〇〇	二,七〇〇,八八八	一六,〇三三,八七七	七〇,〇三三	七九,七〇三,〇七	一一,〇三三	五三三,六七三	九〇,三六
一三年一九〇四	一八,〇三三,七〇〇	二,七〇〇,八八八	一三,七三三,三三三	七〇,〇三三	七八,八七一,一六五	一一,〇三三	五三三,六七三	九〇,三六
一四年一九〇五	二二,〇三三,九〇〇	二,七〇〇,八八八	一四,七三三,三三三	七〇,〇三三	八四,四七八,九六八	一一,〇三三	五三三,六七三	九〇,三六
昭和元年一九〇六	一七,九三三,三〇〇	二,七〇〇,八八八	一一,二二二,六六三	六六,〇三三	七九,八九九,七七七	一一,〇三三	五三三,六七三	九〇,三六
二年一九〇七	一七,六三三,三〇〇	二,七〇〇,八八八	一一,〇三三,六六三	六六,〇三三	八〇,四三三,七七七	一一,〇三三	五三三,六七三	九〇,三六
三年一九〇八	一八,〇三三,九〇〇	二,七〇〇,八八八	一一,〇三三,六六三	六六,〇三三	八〇,四三三,七七七	一一,〇三三	五三三,六七三	九〇,三六
四年一九〇九	一七,八六六,〇〇〇	二,七〇〇,八八八	一一,〇三三,六六三	六六,〇三三	八〇,四三三,七七七	一一,〇三三	五三三,六七三	九〇,三六
五年一九一〇	一五,三三三,三三三	二,〇三三,三三三	八,三三三,三三三	五〇,〇三三	八〇,四三三,七七七	一一,〇三三	五三三,六七三	九〇,三六
六年一九一〇	一九,〇三三,三三三	二,〇三三,三三三	八,三三三,三三三	五〇,〇三三	八〇,四三三,七七七	一一,〇三三	五三三,六七三	九〇,三六
七年一九一〇	三三,三三三,三三三	二,〇三三,三三三	八,三三三,三三三	五〇,〇三三	八〇,四三三,七七七	一一,〇三三	五三三,六七三	九〇,三六
八年一九一〇	三三,三三三,三三三	二,〇三三,三三三	八,三三三,三三三	五〇,〇三三	八〇,四三三,七七七	一一,〇三三	五三三,六七三	九〇,三六
九年一九一〇	三三,三三三,三三三	二,〇三三,三三三	八,三三三,三三三	五〇,〇三三	八〇,四三三,七七七	一一,〇三三	五三三,六七三	九〇,三六

明治元年	緑茶	玉茶	香茶	粉茶	紅茶	磚茶	烏龍茶	合計
七,四九二,二四	1斤	1斤	一,九五一,二四六	七三,三三三	1斤	1斤	1斤	一〇,一五五,五五五

貿易及び生産消費情况

一三年	三六、三九五、三六七	三六、六六六、六二二	六五、〇二二、九八八	八、三三一、二四	七、四九七、八八一	一一、〇四三
一四年	三二、〇五八、八八八	三二、一九二、二四六	六二、三三〇、三四	一三、一三、三五八	七、〇二一、五九三	七、八五九
一五年	三七、七二二、七五二	二九、四四六、五九四	六七、六八八、三四	〇八、二七五、一五七	七、〇三九、七二八	七、三六八
一六年	三六、三六八、〇三〇	三八、四四四、八四二	六四、七二二、八六三	〇七、八三三、一七八	六、一〇六、四九六	五、六四七
一七年	三三、八七一、四六六	二九、六七三、六四七	六三、五四四、二二	〇四、一九八、八一九	五、八一九、六九五	九、六〇〇
一八年	三三、一四六、六六一	二九、三五六、九六八	六六、五〇三、六九九	〇七、七九九、七三三	六、五八四、二二〇	一三、一〇三
一九年	四八、八七六、三三三	三三、一六八、四三二	八一、〇四四、七四五	〇六、七〇七、八八一	七、七三三、三三二	二二、一五八
二〇年	五二、四〇七、六八一	四四、三〇四、三五二	九六、七一一、九三三	〇八、一〇三、四三九	七、六〇三、三四二	三三、三三
二一年	六六、七〇五、五二〇	六六、四四五、三三四	一一一、一六〇、七四四	〇二、五〇、七六	六、一三四、八二六	一九、二五三
二二年	七〇、〇〇〇、七六六	六六、一〇三、七六七	一三六、一六四、四七三	三、九五六、九三九	六、一五六、七三九	一四、八九六
二三年	五六、六〇三、五〇六	八一、七六八、五八一	一三八、三三三、〇八七	三、二五、〇七五	六、三三六、六八一	九、七六三
二四年	七九、五七七、七三三	六三、九七七、二六八	一四三、四五四、五四〇	〇一、六〇、〇〇四	七、〇三三、〇三〇	一六、四一八
二五年	九二、〇二二、七五四	七二、三三六、〇八〇	一六二、四三八、八三四	〇一九、七七六、六七四	七、五三三、二二六	二一、七三三
二六年	八八、七三二、八六五	八八、二五七、一七二	一七七、九七〇、〇七	〇一、四九六、六九五	七、七三〇、〇八八	二一、九〇三
二七年	一一三、二四六、〇六六	一一七、四八一、九三五	二二〇、七三六、〇四二	四、三三三、八六九	七、九三〇、二八七	二二、〇五三
二八年	一一六、一一二、一七八	一一九、三三〇、五七六	二六五、三三三、七五六	〇六、八八一、六〇〇	八、八九九、三四三	一八、七九八
二九年	一一七、八四二、七六一	一一七、六七四、四四	二八九、五二七、三三	五三、八三二、七二二	六、三三三、三三九	二一、一五九
三〇年	一六三、三三三、〇七七	一一九、三〇〇、七三三	三二二、四三三、八四九	五三、一六五、六九五	七、八〇三、四六〇	二八、三三
三一年	一六九、七五三、七五三	一一七、五三三、一五七	四四三、三三三、九二〇	一一、七四八、四〇四	八、二五五、三六五	三三、三四三
三二年	二二四、九三九、八九四	一三〇、四二一、六六	四三三、三三三、八三〇	五、四七二、〇三二	八、四九八、七八三	一七、六〇八
三三年	二〇四、四三九、九九四	二八七、三二一、八四六	四九、六六一、八四〇	八二、八三一、八三三	九、〇三三、八一九	三〇、八八八

貿易及び生産消費情况

三四年	三三三、三四九、五四三	三三三、八六六、六四三	五八、一六六、一八八	三、四七、一〇三	八、八四四、三三七	三九、〇四
三五年	三三八、三〇三、〇六五	三二七、七三二、二五九	五三、〇〇、三四	二二、四八、一九	一〇、四八四、〇二七	三〇、四九
三六年	二八九、五〇二、四四二	三二七、三三三、五八	六六、六七、九六〇	二七、六三三、〇七	二二、九三三、三三三	三三、七三
三七年	三二九、三六〇、八九六	三二二、三三〇、七三六	六九、〇、六二、六四	五三、〇九九、八四二	二二、八三三、八三六	三三、四六
三八年	三三二、二五三、六二〇	四八八、五三八、〇二七	八〇、〇七一、六七	一六七、〇〇四、四〇	二〇、五八四、三三	四二、七七
三九年	四三三、七五四、八九二	四二八、七八四、〇八	八四三、五九、〇〇〇	〇四、九七〇、七八四	二〇、七六七、〇九〇	四八、〇〇九
四〇年	四三三、四二二、八七三	四四四、四六七、三四六	九六、八八〇、二二九	六二、〇五四、四七五	二二、六二八、二四四	三七、〇三
四一年	三七八、二四五、六七三	四三六、三三三、四六三	八四、五三、三三	五、〇二二、七八九	二二、五三三、三七九	六四、五七
四二年	四三三、二二二、五二二	三九四、一九八、八四三	八〇、七三二、三三四	〇一、八九三、六六八	二二、一五六、五九九	七四、八七八
四三年	四四八、四六、九九六	四六四、三三三、八〇八	九三、三三三、八〇四	五、八〇四、八三	二四、五四二、三三四	二七、九二
四四年	四四七、四三三、八八八	五二二、八〇五、七〇五	九六、二二九、五九三	六、三三二、八二七	二四、三三九、二六〇	八八、三九三
大正 一一年	五二六、九八一、八四二	六二八、九九二、二七七	一一、四九、九七四、一九	九三、〇〇、四三	二二、四六三、四八四	九八、八八
二二年	六三三、四六、二二	七三九、四三二、六四四	一一、三六一、八九七	九六、九七一、三三	二〇、〇七五、六二二	九八、五三
三三年	五九一、一〇〇、四六一	五九三、七三三、七三	一一、八六、八七、一八六	四、三四、六四	二二、七〇九、九八	一一、四〇八
四四年	七〇八、三六、九九七	五三三、四四九、九三八	一一、三三〇、七五六、九三	〇七、八七、〇九	二五、四〇一、〇三	一一、三二
五五年	一一二、七、四六、二二八	七五六、四七、九二〇	一一、八三三、八九六、〇三六	〇三、一、〇四〇、三二八	二六、〇八一、九七七	一一、五七九
六六年	一一、六〇三、〇〇五、〇四八	一一、〇三三、八一、一〇七	二、六二八、八二六、一五	〇五、七、九五、九四二	二二、七五六、二四六	一一、三〇二
七七年	一一、九六三、一〇〇、六六六	一一、六六八、一四三、八三三	三、三三〇、三四四、五〇一	〇五、九六、八三	三三、〇五六、三九七	一一、三六四
八八年	二、〇九八、八三三、六二七	二、一七三、四九九、八八〇	四、二七三、三三三、四九七	七、四、八七、三三	一八、四〇二、〇五四	一一、四〇四
九九年	一、九四八、五九四、六二二	二、三三六、一七四、七八二	四、二八四、五九九、三九二	三、七、七六〇、一七〇	一七、一一二、五八八	三六、〇三三
一〇年	一、二三三、八三七、七二五	一、六二四、一五九、八三二	二、八六六、九九三、五四七	三、六一、三三七、二七	七、七八、五五六	四三、五二四

